茨城県教育財団文化財調査報告第201集

島名八幡前遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ

平成 15 年 3 月

茨　　城　　県
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第201集

島名八幡前遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ

平成15年3月

茨城県
財団法人　茨城県教育財団

島名八幡前遺跡遠景

第70号住居跡出土遺物

序

つくば市は，昭和38年に筑波研究学園都市計画地域の指定を受けて以来，日本の科学技術の研究開発の核として，さらに，国際交流の拠点としての国際都市にふさわしい街づくりを推進しております。

平成17年度開通予定の「つくばエクスプレス」は，この新しい街づくりの一環としてつくば市と東京圏を直結させることによって，人・物・情報の交流を盛んにし，地域活性化の大きな力になるものと期待されています。そこで，平成６年７月に県，市，地権者の三者協議の新線開発合意を受け，新線整備と沿線開発を一体的に進める土地区画整理事業が進められております。

財団法人茨城県教育財団は，茨城県より埋蔵文化財発掘調査についての委託を受け，平成７年４月から平成12年３月にかけて島名熊の山遺跡を，平成11年４月から平成13年５月にかけて島名前野遺跡・島名前野東遺跡・島名境松遺跡・谷田部漆遺跡の発掘調査を実施してまいりました。その成果の一部は，すでに当財団の文化財調査報告第120集，第133集，第149集，第166集，第174集，第175集，第190集，第191集として刊行いたしております。

本書は，平成13年度に調査を行った島名八幡前遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である茨城県から賜りました多大なる御協力に対し，心から御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，つくば市教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位から御指導，御協力を賜りましたことに対し，衷心より感謝の意を表します。

平成15年３月

財団法人　茨城県教育財団

理事長　齋　藤　佳　郎

例　　言

1　本書は，茨城県の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成13年度に発掘調査を実施した，茨城県つくば市大字島名に所在する島名八幡前遺跡の発掘調査報告書である。

2　当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調　査　平成13年４月２日～平成13年12月31日

整　理　平成14年４月１日～平成15年３月31日

3　当遺跡の発掘調査は，調査第二課長鈴木英治の指揮のもと，調査第二課第２班長矢ノ倉正男，主任調査員藤田哲也，白田正子，青木仁昌，調査員寺門義信が担当した。

4　当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は，整理第一課長川井正一の指揮のもと主任調査員吹野富美夫，青木仁昌が担当した。

執筆分担は，以下のとおりである。

吹野　　第３章第３節１　古墳時代の遺構と遺物

青木　　第１章～第３章第２節，第３章第３節２　奈良・平安時代の遺構と遺物～第３章第４節　まとめ

5　発掘調査及び整理に際し御指導・御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，X＝＋6,320m，Y＝＋20,240mの交点を基準点（A1a1）とした。なお，この原点は，日本測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C……，西から東へ1，2，3……とし，「A1区」，「B2区」のように呼称した。さらに小調査区は，北から南へa，b，c……j，西から東へ1，2，3，……0とし，名称は，大調査区の名称を冠して「A1a1区」，「B2b2区」のように呼称した。

2　抄録の北緯および東経の覧には，世界測地系に基づく緯度・経度を（　）を付して併記した。

3　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次の通りである。

遺構　住居跡－SI　掘立柱建物跡－SB　土坑－SK　溝跡－SD　不明遺構－SX　ピット－P
遺物包含層－HG

遺物　土器・陶器－P　拓本記録土器－TP　土製品－DP　石器・石製品－Q　金属製品・古銭－M
瓦－T

土層　撹乱－K

4　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

(1)　遺構全体図は400分の1，遺構は60分の1，または80分の1に縮小して掲載した。

(2)　遺物は原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合もある。

(3)　遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

焼土・火床面　竈材・炉材・黒色処理　炭化材・施釉　黒変色

土器●　土製品○　石器・石製品□　金属製品△　瓦★　硬化面 ――――

5　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

6　土層解説中の含有物については，各々総量で記述した。

7　遺物観察表の作成方法については，次のとおりである。

(1)　計測値の（　）内の数値は既存値を，［　］内の数値は推定値を示した。単位は，法量についてはcm，重量についてはgで示した。

(2)　備考の欄は，残存率及びその他必要と思われる事項を記した。

(3)　文字資料のうち，焼成前に線刻されたものを「箆書」，焼成後に線刻されたものを「刻書」と分けて記述した。

8　「主軸」は，竈を持つ竪穴住居跡については竈を通る軸線とし，他の遺構については長軸（径）を主軸とみなした。「主軸・長軸方向」は主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　N－10°－E）。

抄　　録

ふりがな	しまなはちまんまえいせき
書名	島名八幡前遺跡
副書名	島名・福田坪 -体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書
巻次	Ⅸ
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第201集
編著者名	吹野富美夫　青木仁昌
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL 029(225)6587
発行機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL 029(225)6587
発行年月日	2003（平成15）年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
島名八幡前 遺跡	茨城県つくば市大字島名字八幡前2555番地ほか	08220 - 388	36度 3分 21秒 (36度 3分 33秒)	140度 3分 33秒 (140度 3分 21秒)	19 ～ 24m	20010402 ～ 20011231	15,096㎡	島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
島名八幡前遺跡	集落跡	古墳	竪穴住居跡　15軒	土師器(坏・高坏・椀・壺・甕・甑)，須恵器(フラスコ壺)，土製品(紡錘車)，石製品(管玉)，鉄製品(刀子)	古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての集落跡である。中世には，地下式壙などが確認されたことから，墓域として利用されたと考えられる。多量の鉄滓や羽口片を伴う鍛冶が跡が確認されている。
		奈良・平安	竪穴住居跡　81軒 鍛冶工房跡　1基 掘立柱建物跡17棟 土坑　34基 溝跡　3条 遺物包含層　1か所 大形竪穴状遺構2基 不明遺構　1か所	土師器(坏・高台付椀・甕・甑) 須恵器(坏・高台付坏・盤・高盤・甕・鉢・瓶) 灰釉陶器(長頸瓶・椀) 土製品(紡錘車・土玉・羽口・置き竈) 石器(砥石) 石製品(軸受車) 鉄製品(クルリ鎌・鎌・刀子・釘・鉄滓)	
		中世	掘立柱建物跡　2棟 地下式壙　8基 方形竪穴遺構　6基 土坑　21基 溝跡　1条	土師質土器，陶器，磁器	
		不明	土坑　187基 溝跡　4条		

目　　次

序
例言
凡例
抄録
目次
第1章　調査経緯 …… 1
　第1節　調査に至る経緯 …… 1
　第2節　調査経過 …… 1
第2章　位置と環境 …… 3
　第1節　地理的環境 …… 3
　第2節　歴史的環境 …… 3
第3章　調査の成果 …… 7
　第1節　遺跡の概要 …… 7
　第2節　基本層序 …… 7
　第3節　遺構と遺物 …… 9
　　1　古墳時代の遺構と遺物 …… 9
　　(1)　竪穴住居跡 …… 9
　　2　奈良・平安時代の遺構と遺物 …… 44
　　(1)　竪穴住居跡 …… 44
　　(2)　鍛冶工房跡 …… 216
　　(3)　掘立柱建物跡 …… 218
　　(4)　土坑 …… 244
　　(5)　溝跡 …… 254
　　(6)　遺物包含層 …… 258
　　(7)　その他の遺構 …… 259
　　3　中世の遺構と遺物 …… 265
　　(1)　掘立柱建物跡 …… 265
　　(2)　地下式壙 …… 267
　　(3)　方形竪穴遺構 …… 277
　　(4)　土坑 …… 282
　　(5)　溝跡 …… 286
　　4　その他の遺構と遺物 …… 289
　　(1)　土坑 …… 289
　　(2)　溝跡 …… 302
　　(3)　遺構外出土遺物 …… 304
　第4節　まとめ …… 311
付章 …… 323
写真図版

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

茨城県は，首都圏とつくば研究学園都市を結ぶつくばエクスプレスの早期開通をめざし，新線の建設とそれに伴う沿線開発に取り組んでいる。

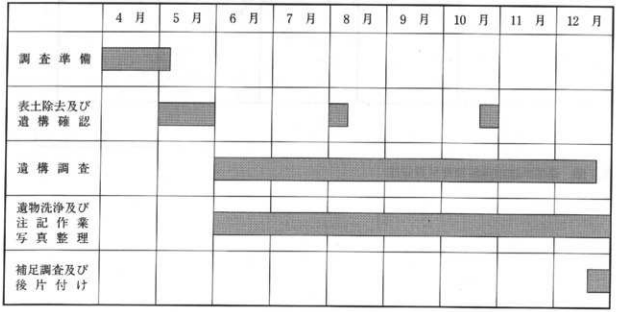
平成6年8月18日，茨城県（都市整備課）は，茨城県教育委員会教育長あてに，常磐新線沿線地域の開発地内における埋蔵文化財の有無とその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は，平成8年6・8・10月に現地踏査および試掘を行い，平成8年11月8日，鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内に鳥名八幡前遺跡が所在する旨を回答した。

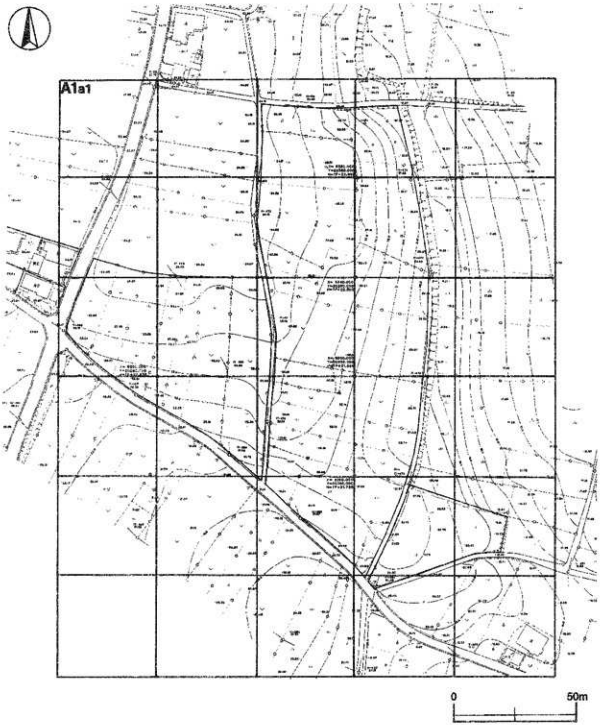
平成13年3月7日，茨城県から茨城県教育委員会教育長あてに，文化財保護法第5条の3に基づく土木工事等の通知が提出された。同年3月16日，茨城県教育委員会教育長から茨城県あてに，工事により埋蔵文化財に影響が及ぶことから，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。同年3月26日，茨城県から茨城県教育委員会教育長あてに，事業地内における埋蔵文化財について協議書が提出された。同日，茨城県教育委員会教育長から茨城県あてに，発掘調査の範囲および面積について回答し，調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県から埋蔵文化財発掘調査事業についての委託を受けた茨城県教育財団は，平成13年4月2日から鳥名八幡前遺跡の発掘調査を開始し，同年12月31日までに15,096㎡の調査を実施した。

第2節　調　査　経　過

鳥名八幡前遺跡の調査は，平成13年4月2日から平成13年12月31日までの9か月間実施した。以下，調査の経過について，概要を表で記載する。





第１図　島名八幡前遺跡調査区設定図

第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

島名八幡前遺跡は，茨城県つくば市大字島名字八幡前2555番地ほかに所在している。

つくば市は，筑波山を北端に，南西側に広がる標高約20～25mの平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ，東を霞ヶ浦に流入する桜川，西を利根川に合流する小具川の南流する二つの河川によって区切られている。それぞれの河川によって大きく開析された流域には，標高約５mの沖積地が発達している。両河川の間には，東から花室川，蓮沼川，小野川，東谷田川，西谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れ，台地は浅く開析され，谷津や低地が細長く入り組んでいる。

筑波・稲敷台地は，貝化石を産する海成の砂層である成田層を基盤として，その上に竜ヶ崎層と呼ばれる斜交層理の顕著な砂層・砂礫層，さらに常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層（0.3～5.0m），褐色の関東ローム層（0.5～2.0m）が連続して堆積し，最上部は腐植土層となっている[1]。

つくば市南西部の旧谷田部町域の島名地区は，東谷田川と西谷田川に挟まれた台地上に位置している。東谷田川は，島名地区において蓮沼川などと合流し，多くの谷津をつくり出している。当遺跡は，蓮沼川と東谷田川の合流点より東谷田川を北に500mほどさかのぼった東谷田川右岸の標高約22mの台地の緩斜面に位置している。台地上は畑地として耕作され，河川の沖積低地は水田として利用されている。当遺跡の調査前の現況は畑地である。

第2節　歴史的環境

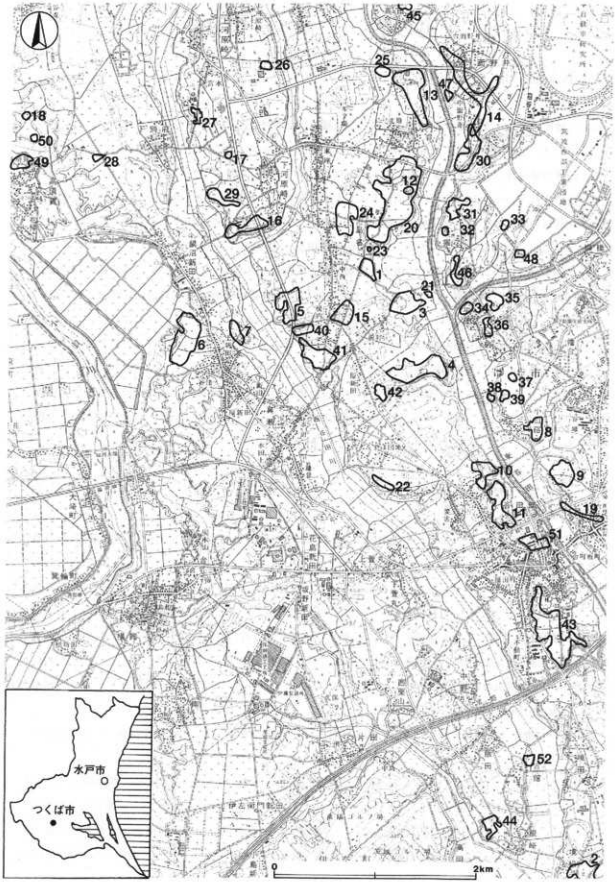
当遺跡周辺の小具川や東谷田川，西谷田川，蓮沼川流域の台地上には，縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。

縄文時代には，小具川や東谷田川，西谷田川に面した台地の縁辺部に集落が形成されるようになる。西谷田川左岸の台地上に立地している境松貝塚[2]<2>は，谷田部地区の代表的な遺跡であり，前期から中期にかけての遺構が確認され，地点貝塚が確認されたことが注目される。島名八幡前遺跡の周辺では，当財団の調査により，当遺跡の約500m南の島名前野東遺跡[3]<3>，さらに500m南の島名境松遺跡[4]<4>，約１km西の島名ツバタ遺跡<5>に中期の遺構が存在することが明らかになった。集落は，河川や谷津に面した台地の縁辺に位置し，内陸に位置する集落はまれである。

弥生時代の遺跡は当地域では少なく，谷田部地区では，後期の遺物が出土した境松貝塚などが確認されているだけである。

古墳時代になると，島名地区を中心に遺跡数の増加が顕著になる。昭和34年当時の谷田部地区には，古墳群11か所，古墳約300基が確認されている[5]。それらのほとんどは径10m台の小円墳であり，地域的な群集墳のあり方を示している。当遺跡周辺には，島名熊の山古墳群<12>，島名関ノ台古墳群<13>，面野井古墳群<14>，島名猫内古墳群<15>，下河原崎高山古墳群<16>などが確認されている。面野井２号墳からは，旧谷田部町域唯一の小形仿製鏡（四獣鏡）の出土があり，注目される。

当遺跡周辺の集落跡には，当財団の調査により，古墳時代を通して生活が営まれた島名熊の山遺跡[6]<20>，島



第2図　烏名八幡前遺跡周辺遺跡位置図（国土地理院 2.5万分の1「谷田部」）

表1　島名八幡前遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	県遺跡番号	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世	番号	遺跡名	県遺跡番号	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
1	島名八幡前遺跡	388				○	○	○		27	元宮本前山遺跡	559				○	○		
2	境松貝塚	039		○	○	○				28	高須賀遺跡	364				○			○
3	島名前野東遺跡	389		○		○		○		29	下河原崎谷中台遺跡	382		○		○	○		
4	島名境松遺跡	391		○		○				30	面野井南遺跡	416				○	○		○
5	島名ツバタ遺跡	068		○		○				31	水堀下道遺跡	417				○			
6	真瀬山田遺跡	042		○		○				32	水堀屋敷添遺跡	418		○		○			○
7	真瀬堀附南遺跡	368		○		○				33	水堀遺跡	082				○			
8	小白硐海道端遺跡	428		○						34	平後遺跡	421				○			○
9	谷田部台成井遺跡	071		○						35	平北田遺跡	420				○			
10	谷田部福田遺跡	040		○		○				36	大白硐西ノ裏遺跡	423				○			
11	谷田部福田前遺跡	072		○		○	○			37	大白硐民部山遺跡	425				○			
12	島名熊の山古墳群	059				○				38	小白硐水表遺跡	426				○			
13	島名関ノ台古墳群	052				○				39	小白硐民部山遺跡	427				○			
14	面野井古墳群	053				○				40	島名榎内遺跡	047				○			
15	島名榎内古墳群	058				○				41	島名榎内南遺跡	384				○	○		
16	下河原崎高山古墳群	054				○				42	島名タカドロ遺跡	075		○		○			
17	下河原崎古墳群	055				○				43	谷田部櫓下遺跡	087				○	○	○	○
18	真瀬熊の山古墳群	060				○				44	根崎遺跡	213		○		○	○		
19	谷田部台町古墳群	057				○				45	高田遺跡	080					○		○
20	島名熊の山遺跡	214				○	○	○	○	46	水堀道後前遺跡	419					○		
21	島名前野遺跡	041		○		○	○			47	面野井城跡	092						○	
22	谷田部漆遺跡	073		○		○				48	大和田氏館	422						○	○
23	島名薬師遺跡	046				○				49	高須賀城跡	049						○	
24	島名本田遺跡	387				○		○	○	50	熊の山城跡	048						○	
25	島名関の台遺跡	079				○				51	谷田部城跡	050						○	○
26	元中北東藤四郎遺跡	381				○				52	古館跡	090						○	

名前野遺跡[7] <21>，烏名前野東遺跡が確認されている。また，谷田部漆遺跡[8] <22>からは中期，烏名境松遺跡からは後期の集落が確認されている。当遺跡の北100mに所在する烏名染師遺跡<23>からも後期の遺物が確認されている。遺跡の分布を見ると，開墾の進行により集落が徐々に台地縁辺部から内陸部へと移動していく様子もうかがえる。烏名地区には，古墳時代を起源とする集落が多いのも特徴である。

奈良・平安時代には，烏名地区は河内郡に編入される。河内郡衙は，当遺跡から北東へ4.5kmの距離に位置する桜地区の金田西遺跡・金田西坪A遺跡・金田西坪B遺跡付近に所在する[9]。当遺跡の所在する烏名地区は，『和名類聚抄』にある「嶋名郷」に比定されている[10]。烏名熊の山遺跡は，古墳時代に集落の起源をもち，奈良・平安時代を中心に竪穴住居1300軒以上という烏名地区の拠点的集落であったと考えられる。この烏名熊の山遺跡を中心に，当遺跡と同様に古墳時代から継続して生活の営まれたと思われる面野井南遺跡<30>，烏名前野東遺跡，烏名稷内南遺跡<40>や木塚遺後前遺跡<46>が周囲に存在している。しかし，遺跡数は古墳時代に比して減少の傾向を見せており，今後の調査研究が待たれるところである。

中世になると，烏名地区は田中荘と呼ばれることになる。鎌倉幕府の成立後，八田知家の入部によって多毛義幹が没落し，田中荘は小田氏の支配下に入る。室町時代には，小田氏配下の平井手氏が面野井城<47>を構えて烏名・面野井に住していた[11]。中世以降の確認された遺跡は城館跡がほとんどであり，烏名前野東遺跡からは方形に巡る堀を伴う居館跡が確認されている。当遺跡からは中世の墓城であったと思われる遺構が多数確認されている。しかし，当時の集落や墓域に関する調査成果は少なく，集落での生活や葬送については未だに不明の点が多い。今後の調査研究によって中世における集落の生活，葬送などが明らかにされることを期待したい。

※　文中の〈　〉内の番号は，表1，第1図の該当番号と同じである。

註

1）日本の地質『関東地方』編集委員会　『日本の地質3　関東地方』共立出版　1986年10月

2）久野俊度　「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内文化財調査報告」（『茨城県教育財団文化財調査報告』第41集）　1987年3月

3）田原麻司　「烏名前野東遺跡」（『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集）　2002年3月

4）寺門千勝　「烏名境松遺跡」（『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集）　2002年3月

5）谷田部町教育委員会　谷田部町文化財保存会　「谷田部町文化財報告Ⅰ」（『古墳総覧』）　1960年

6）稲田義弘　「熊の山遺跡」（『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集）　2002年3月

7）稲田義弘　「烏名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」（『茨城県教育財団文化財調査報告』第175集）　2001年3月

8）梅澤貴司　「谷田部漆遺跡」（『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集）　2002年3月

9）長谷川聡　「金田西・西坪B遺跡」（『茨城県教育財団文化財調査報告』第195集）　2002年3月

10）池邊　彌　『和名類聚抄郡郷里駅名考證』吉川弘文館　1981年2月

11）谷田部町教育委員会　谷田部の歴史編さん委員会　「谷田部の歴史」　1975年9月

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

烏名八幡前遺跡は，奈良・平安時代を中心とした，古墳時代から中世にかけての複合遺跡であることが確認できた。

今回の調査によって，古墳時代の竪穴住居跡15軒，奈良・平安時代の竪穴住居跡81軒，掘立柱建物跡17棟，大形竪穴状遺構２基，中世の地下式壙８基，方形竪穴遺構６基などが検出された。遺物は，土師器，須恵器を中心に遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に108箱出土している。

古墳時代の遺構は，後期の竪穴住居跡が15軒検出され，当集落の起源は古墳時代後期になると考えられる。

奈良・平安時代の遺構として，調査区東部から鍛冶工房跡が検出されており，多量の鉄滓や鍛造剥片，鞴羽口が出土している。また，調査区西部からは，大形住居跡や掘立柱建物跡群が検出されている。黒耀土器の出土も数点見られ，遺跡の中で重要な役割を担った地区と考えられる。

中世の遺構では，地下式壙や方形竪穴遺構が調査区南部に集中することから，中世には墓域として利用されていたものと考えられる。

第2節 基本層序

テストピットは，調査区北端のＡ３c1区に掘削した。地表面の標高は23.9mで，地表面から深度2.6mまで掘削した。基本土層図を第３図に示した。

テストピットの土層は，色調・構成粒子・含有物・粘性などから12層に細分される。これらは，大きく表土・関東ローム層・常総粘土層に分類され，第１・２層が表土（耕作土），第３～11層が関東ローム層，そして第12層が常総粘土層に相当する。

各層の特徴を述べる。

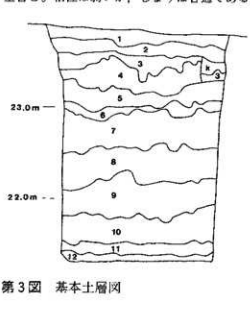
第１層は，極暗褐色を呈する腐植土層で，ロームブロックを少量含む。粘性は弱いが，しまりは普通である。層厚は８～18cmである。

第２層は，極暗褐色を呈する腐植土層で，ロームブロックを中量含む。粘性・しまりはともに普通である。層厚は７～16cmである。

第３層は，明褐色を呈するロー-ム層で，粘性・しまりともに普通である。層厚は６～24cmである。ソフトロームに相当すると考えられる。なお，第１黒色帯については確認することができなかった。

第４層は，暗褐色を呈するローム層で，ロームブロックを多量に含む。粘性は弱いが，しまりは強い。層厚は９～34cmである。ハ--ドロームに相当すると考えられる。

第５層は，黒褐色を呈するローム層で，ロ ムブロック



第３図　基本土層図

を多量に含む。粘性は弱いが，しまりは強い。層厚は８～26cmである。第２黒色帯に相当すると考えられる。

第６層は，黒褐色を呈するローム層で，ロームブロックを多量に含む。粘性は弱いが，しまりは強い。層厚は２～18cmである。第２黒色帯に相当すると考えられる。

第７層は，褐色を呈するローム層で，黒色粒子を中量含む。粘性・しまりともに普通である。層厚は26～46cmである。

第８層は，褐色を呈するローム層で，黒色粒子を中量含む。粘性は弱いが，しまりは強い。層厚は22～42cmである。

第９層は，暗褐色を呈するローム層で，黒色粒子を中量含む。粘性は普通で，しまりは強い。層厚は26～52cmである。

第10層は，褐色を呈するローム層で，黒色粒子を中量含む。粘性は弱いが，しまりは強い。層厚は24～42cmである。

第11層は，褐色を呈するローム層で，粘性・しまりともに普通である。層厚は６～14cmである。

第12層は，明褐色を呈する粘土層で，赤褐色スコリアが混入している。粘性が強く，しまりは普通である。下層は未掘のため，本来の厚さは不明である。

住居跡・土坑等の遺構は，第３層上面で確認した。

第3節　遺構と遺物

1　古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で，古墳時代の竪穴住居跡15軒を確認した。以下，検出した遺構と遺物について記述する。

(1)　竪穴住居跡

第10号住居跡（第4図）

位置　調査区の北部のB316区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

規模と形状　長軸4.90m，短軸4.76mの方形で，主軸方向はN－12°－Eである。壁高は12～26cmで，各壁ともほぼ直立している。

床　平坦で，中央部がよく踏み固められている。壁溝は北東コーナー部付近を除いて巡っている。貼床は，ローム ブロックと焼土ブロックを含む褐色土及び暗褐色土を埋土として構築している。

竈　2か所。竈1は北壁中央部のやや東寄りに付設されている。現状は，焚口部から煙道部までが82cm，両袖部幅が104cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床面は床面と同じ高さの平坦面をそのまま使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。竈1は19層からなり，第1～6層が竈内の覆土，第7～12層が袖部の土層で，第13～19層は竈の掘り方の埋土である。竈2は，竈1の西側である北壁の中央部に付設され，煙道部だけを検出している。壁外への掘り込みは26cmで，幅は59cmである。竈1は完存し，竈2は煙道部だけが残存していることから，竈2から竈1へ作り替えられたことが考えられる。

竈1土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・炭化物少量,焼土粒子微量		11	灰褐色	粘土ブロック中量,ローム粒子・焼土粒子微量
2	にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒中量,焼土ブロック少量,炭化物微量		12	灰褐色	粘土ブロック少量,ローム粒子・焼土粒子微量
3	極暗赤褐色	炭化物多量,焼土ブロック中量,粘土粒子少量		13	にぶい赤褐色	焼土ブロック少量,ローム粒子微量
4	褐色	炭化粒子・軽石粒子微量		14	暗褐色	ローム粒子少量,焼土粒子・粘土粒子微量
5	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量,ローム粒子微量		15	褐色	ローム ブロック少量,焼土ブロック微量
6	極暗赤褐色	炭化物多量,焼土ブロック中量,ローム粒子少量		16	暗褐色	ローム粒子少量,焼土粒子微量
7	灰褐色	粘土ブロック中量,ローム粒子・焼土粒子微量		17	褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
8	にぶい褐色	粘土粒子少量,ローム粒子・焼土粒子微量		18	暗褐色	炭化物・ローム ブロック・焼土粒子微量
9	褐色	焼土粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量		19	褐色	ローム粒子少量,焼土粒子・粘土粒子微量
10	にぶい褐色	焼土ブロック中量,炭化粒子・粘土粒子微量				

竈2土層解説

1	暗褐色	焼土ブロック少量,ローム粒子・炭化粒子微量	2	褐色	粘土ブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　6か所。主柱穴はP1～4が相当し，深さは40～78cmである。P5・6は竈と対峙する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

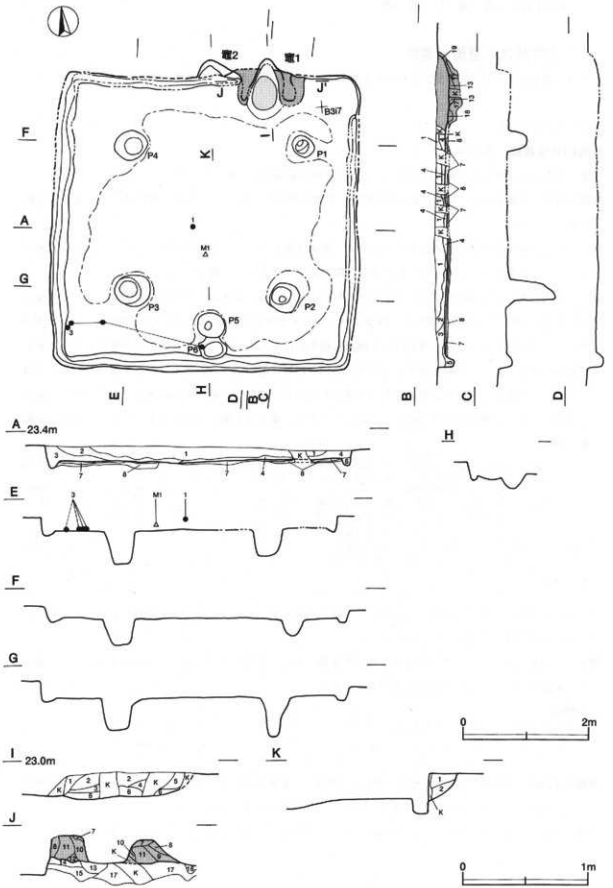
覆土　8層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。壁際の覆土中層からは自然堆積を呈する焼土が1か所で確認できた。第7・8層は貼床の埋土である。

土層解説

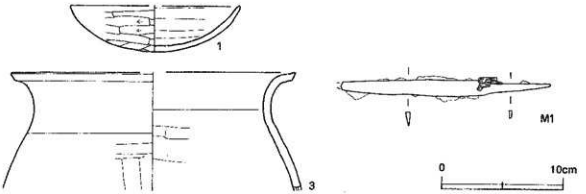
1	黒褐色	ローム粒子中量,焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐色	ローム粒子中量
2	暗褐色	ローム ブロック中量,炭化粒子少量	6	暗褐色	ローム粒子中量,炭化粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子中量,焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子微量
4	黒褐色	ローム ブロック中量,焼土粒子少量,炭化粒子微量	8	褐色	ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片129点（坏36，甕87，不明6），須恵器片1点，刀子1点，鉄滓8点が，ほぼ全域から散在して出土している。1の坏片は覆土上層から，3の甕片は覆土下層から出土している。

所見　本跡は，竈の作り替えをした住居跡である。時期は，出土土器から7世紀後半と考えられる。



第4図　第10号住居跡実測図



第５図　第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表（第5図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	(13.5)	3.7	－	赤色粒子	にぶい赤褐	良好	体部外面ヘラ削り,内面横ナデ	覆土上層	25%
3	土師器	甕	(22.8)	(9.5)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ,体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	刀子	(17.4)	1.4	0.4	(22.3)	鉄	刃先欠損,片関	覆土上層	PL61

第11号住居跡（第６図）

位置　調査区の北部のＢ３c1区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

重複関係　東部を第６号住居に掘り込まれている。

規模と形状　西側部分が調査区域外に延び，東側部分を第６号住居に掘り込まれているため，南北軸1.32m，東西軸2.16mだけが確認された。形状は，方形または長方形と推定され，主軸方向はN－42°　Wである。唯一確認できる南壁の壁高は22cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，南壁際を除いて踏み固められている。貼溝は，確認できなかった。

竈　北壁にあると考えられるが，調査区域外のため不明である。

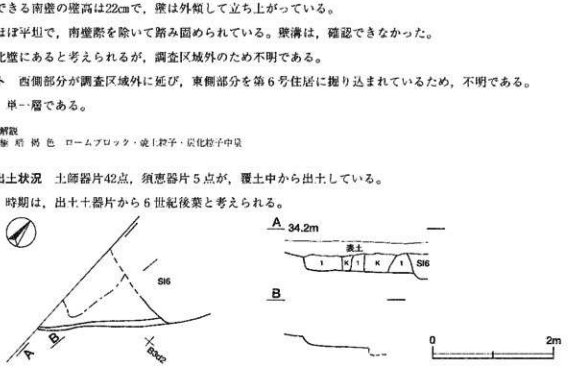
ピット　西側部分が調査区域外に延び，東側部分を第６号住居に掘り込まれているため，不明である。

覆土　単一層である。

土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子中量

遺物出土状況　土師器片42点，須恵器片５点が，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土師器片から６世紀後葉と考えられる。



第６図　第11号住居跡実測図

第16号住居跡（第７図）

位置　調査区の東部のＢ４区に位置し，東へ傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係　北西部を第15号住居に，南東部を第１号掘立柱建物に，西壁際を第２号溝に，中央部北寄りを第42号土坑にいずれも掘り込まれている。

規模と形状　地形が東に傾斜しており，東壁が確認されなかったため，柱穴と暗褐色を呈する床面の広がりから，長軸8.96m，短軸が推定で8.80mの方形と考えられる。壁高は40cmで，残存している壁はほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。壁溝は，壁が確認された両側でははば巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。左袖部の一部は第15号住居に掘り込まれているが，規模は焚口部から煙道部まで130cm，両袖部幅126cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床面は床面と同じ高さの平坦面をそのまま使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は23層からなり，第１～15層が竈内の覆土，第16～20層が袖部の土層で，第21～23層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1	灰黄褐色	粘土粒子・砂粒多量,焼土粒子・ローム粒子少量
2	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量
3	暗赤褐色	粘土粒子多量,焼土ブロック・砂粒中量
4	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量
5	灰黄褐色	粘土粒子・砂粒多量,焼土ブロック少量
6	暗褐色	ロームブロック中量,焼土ブロック少量
7	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
8	極暗赤褐色	ローム粒子中量
9	にぶい赤褐色	ローム粒子微量
10	暗赤褐色	焼土ブロック多量,砂粒少量
11	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量
12	暗赤褐色	焼土粒子中量,粘土粒子・砂粒少量
13	極暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量
14	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量
15	暗赤褐色	焼土粒子中量,粘土粒子・砂粒少量
16	褐色	粘土粒子・砂粒多量
17	にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒多量
18	極暗褐色	粘土粒子・砂粒多量
19	にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒多量
20	暗褐色	粘土粒子中量,焼土粒子・炭化物少量
21	極暗赤褐色	ロームブロック中量,焼土ブロック少量
22	暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子中量
23	褐色	ローム粒子多量,粘土粒子中量

ピット　13か所。主柱穴はＰ１～８が相当し，Ｐ１とＰ５，Ｐ２とＰ６，Ｐ３とＰ７，Ｐ４とＰ８はそれぞれ重複している。Ｐ１～４はＰ５～８よりも床面の中央部側に位置し，Ｐ２はＰ６を掘り込んでいることから，Ｐ５～８からＰ１～４へと作り替えたことが考えられる。深さは39～82cmである。重複するＰ２・６の土層断面からは，第１～３層がＰ２の柱抜き取り痕，第５～７層がＰ６の柱痕，第８～10層がＰ６の埋土に相当することが認められる。Ｐ９は竈と対峙する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ10・11は主柱穴であるＰ２とＰ３を結ぶ線上に位置することから，梁の補助柱穴と考えられる。Ｐ12・13は西壁に並列して位置しているが，性格は不明である。

P2・6土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
2	褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック少量,焼土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子微量
5	褐色	ロームブロック少量
6	黒褐色	ロームブロック少量,焼土粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック少量
8	褐色	ロームブロック中量
9	褐色	ロームブロック中量
10	暗褐色	ロームブロック少量

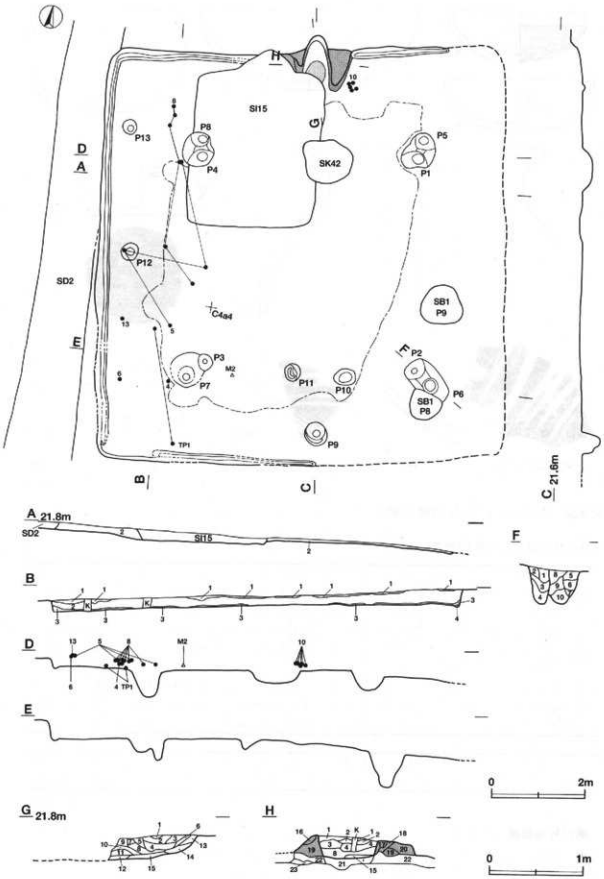
覆土　４層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

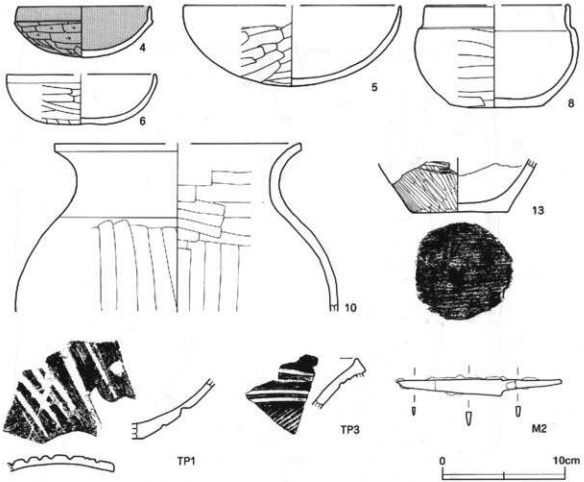
1	黒褐色	焼土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片712点（坏117，椀１，鉢１，甕587，手捏１，不明５），須恵器片５点（坏１，甕２，不明２），刀子１点，不明鉄製品１点が，竈周辺と西壁際の覆土下層を中心に散在して出土している。４・５の坏は西壁際の覆土上層から，10の甕片は竈南東側の覆土下層から出土している。

所見　本跡は，主柱穴を替えた建て直しが行われた大形住居である。時期は，出土土器から７世紀前半と考えられる。



第７図　第16号住居跡実測図



第８図　第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表（第8図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4	土師器	坏	12.0	4.0	－	雲母・長石・石英	褐	普通	体部外面ヘラ削り,内面横ナデ	覆土上層	90%，PL39
5	土師器	坏	[17.8]	6.6	－	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り,内面横ナデ	覆土上層	25%
6	土師器	坏	[12.0]	4.1	－	雲母・長石	灰褐	普通	体部外面ヘラ削り,内面横ナデ	覆土上層	25%
8	土師器	椀	[11.7]	8.4	7.7	雲母・長石	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り,内面横ナデ	覆土上層	30%
10	土師器	甕	[20.4]	(13.8)	－	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ,体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	20%
13	土師器	甕	－	(4.0)	7.9	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外・底面ヘラ磨き,外面に研ぎ潰あり。	覆土上層	10%，砥に転用
TP1	土師器	転用砥	－	(4.9)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	外面に断面V字状の研ぎ潰あり。1側縁使用。	覆土下層	鉢体部片
TP3	須恵器	甕	－	(4.1)	－	長石	灰	良好	口唇部の端部を突出。口縁部には沈線文。	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	刀子	13.6	1.4	0.3	16.9	鉄	両関	覆土下層	PL61

第23号住居跡（第９図）

位置　調査区の中央部のＤ３a5区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

重複関係　東部を第22号住居に，南西コーナー部を第25号住居に掘り込まれている。

規模と形状　南部が床面まで削平された状態で検出されたため，ピットの位置から判断して，長軸3.52m，短

軸3.44mの方形と推定される。主軸方向はN－2°－Wである。壁高は6～14cmで，残存する北壁・西壁は外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，北西コーナー部とピット周辺部を除きほぼ全面が踏み固められている。壁溝は，北壁際の一部と南壁際を除いて巡っている。

竈　遺存状態が非常に悪く，確認できなかった。北壁の北西コーナー部寄りの部分に焼土が確認され，壁溝も途切れることから，北壁に竈が付設されていたものと推定される。

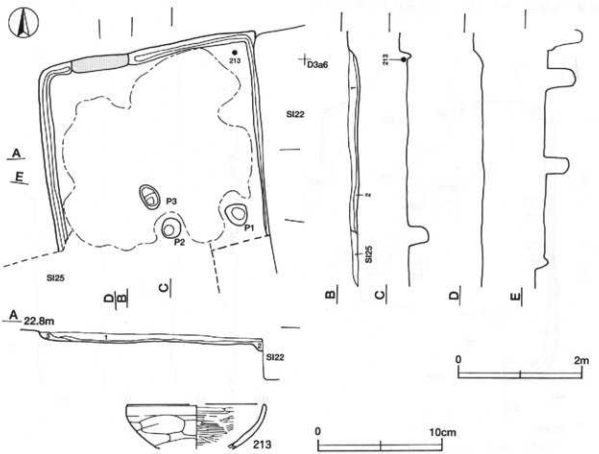
ピット　3か所。主柱穴はP1が相当し，深さは34cmである。その他の主柱穴は，確認できなかった。P2は南壁際の中央に位置すると推測され，出入り口に伴うピットと考えられる。P3は，深さ40cmのピットで，性格は不明である。

覆土　3層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説
1　極　暗　褐　色　焼土粒子少量,ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量,炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片36点，須恵器片1点が，北部を中心に点在して出土している。多くの遺物が，覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から7世紀後半と考えられる。



第9図　第23号住居跡・出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表(第9図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
213	土師器	坏	[11.4]	(3.6)	－	長石・石英	橙	普通	口縁横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ヘラ磨き	覆土下層	30%

第32号住居跡（第10図）

位置　調査区の東部のＤ４c5区に位置し，東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係　東部を第２号溝に，南部を第33号住居に，北壁中央付近を第43号土坑に，中央部を第44・45号土坑にいずれも掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.52m，短軸3.77mの長方形で，主軸方向はＮ－０°である。壁高は２～６cmで，各壁とも緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から南西コーナー部にかけて踏み固められている。雛溝は，北壁際中央部から南西コーナー部にかけて巡っている。

竈　北壁または東壁に付設されていたと推測されるが，第２号溝と第43号土坑との重複により不明である。

ピット　５か所。主柱穴は，Ｐ１・２が相当する。深さはＰ１が33cm，Ｐ２が55cmである。その他の主柱穴は，確認できなかった。Ｐ３～５は，深さ15～25cmのピットで，性格は不明である。

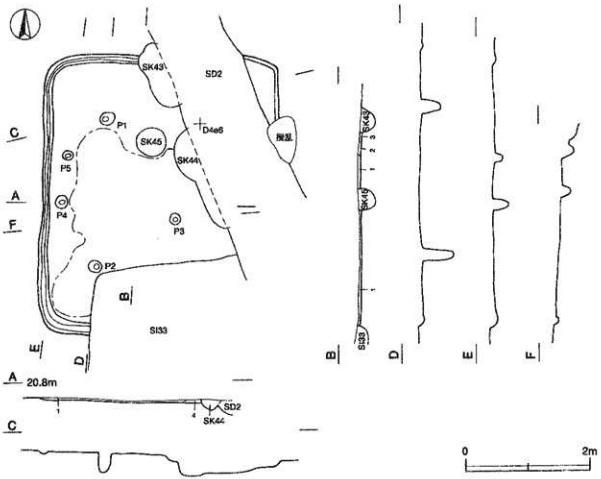
覆土　４層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1	褐	色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	3	暗褐色	焼土粒子少量，炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
2	暗褐	色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	4	褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片28点，須恵器片２点が，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀後半と考えられる。



第10図　第32号住居跡・出土遺物実測図

第40号住居跡（第11～13図）

位置　調査区の東部のＣ４d5区に位置し，東へ傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係　北東部を第３号掘立柱建物に，南東部を第５号掘立柱建物にいずれも掘り込まれている。

規模と形状　長軸7.42m，短軸7.35mの方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁高は50～70cmで，各壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。壁溝は全周している。Ｐ３と西壁の間には高さ９cmほどの高まりがあり，上部と南北両端には東西方向の溝を有している。高まりの範囲は0.6㎡ほどであるが，その上部はよく固められている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで116cm，両袖部幅100cmである。袖部は砂質粘土で構築されており，左袖部材としてＰ21の甕が使用されている。袖部の両側には袖部と同じローム土で作られた高さ10cmほどの高まりを有している。火床面は床面と同じ高さの平坦面をそのまま使用し，火熱により赤変硬化している。支脚は生のローム土で竈火床面の煙道寄りに作っており，火床部側は赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は18層からなり，第１～10層が竈内の覆土，第11～15層が袖部の上層，第16層が袖部両側の高まりの十層で，第17・18層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子少量		10	暗褐色	炭化粒子・粘土粒子微量	
2	灰褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量,炭化粒子微量		11	灰褐色	焼土ブロック・粘土粒子微量	
3	褐色	ロームブロック少量,炭化粒子微量		12	灰褐色	焼土粒子中量,粘土粒子微量	
4	灰褐色	粘土粒子少量,炭化粒子微量		13	明赤褐色	焼土ブロック中量	
5	灰褐色	炭化粒子・粘土粒子微量		14	灰黒色	粘土粒子・砂粒多量	
6	褐色	焼土ブロック・炭化物微量		15	黒褐色	焼土粒子・粘土粒子微量	
7	黒褐色	焼土ブロック少量		16	灰褐色	粘土粒子・砂粒多量	
8	にぶい赤褐色	焼土ブロック少量		17	赤褐色	焼土ブロック多量	
9	明赤褐色	焼土ブロック中量		18	褐色	ロームブロック多量	

ピット　12か所。主柱穴はＰ１～４が相当し，深さは73～78cmである。Ｐ２では柱痕が確認され，推定される柱の径は15cmである。Ｐ５は深さ４cmのくぼみ状のピットで，竈と対峙する位置にあることから出入り口施設に伴うものと考えられる。Ｐ６～12は深さ12～31cmの小形のピットで，性格は不明である。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子中量,炭化物少量		5	暗褐色	ローム中量,炭化粒子少量	
2	暗褐色	ロームブロック少量,炭化粒子微量		6	暗褐色	ロームブロック中量	
3	暗褐色	ロームブロック中量,炭化粒子微量		7	暗褐色	ロームブロック多量	
4	暗褐色	ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子少量					

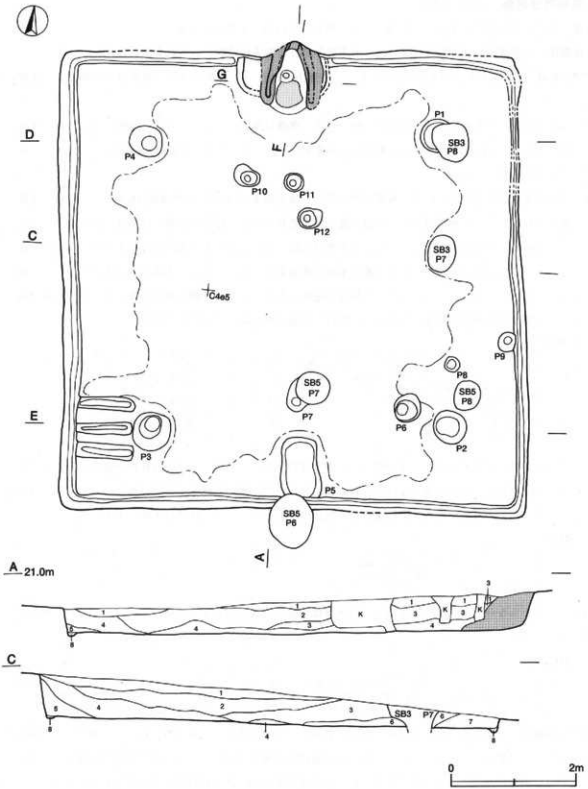
覆土　８層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。覆土中層から下層にかけては炭化材と焼土粒子を多く含んでいる。

土層解説

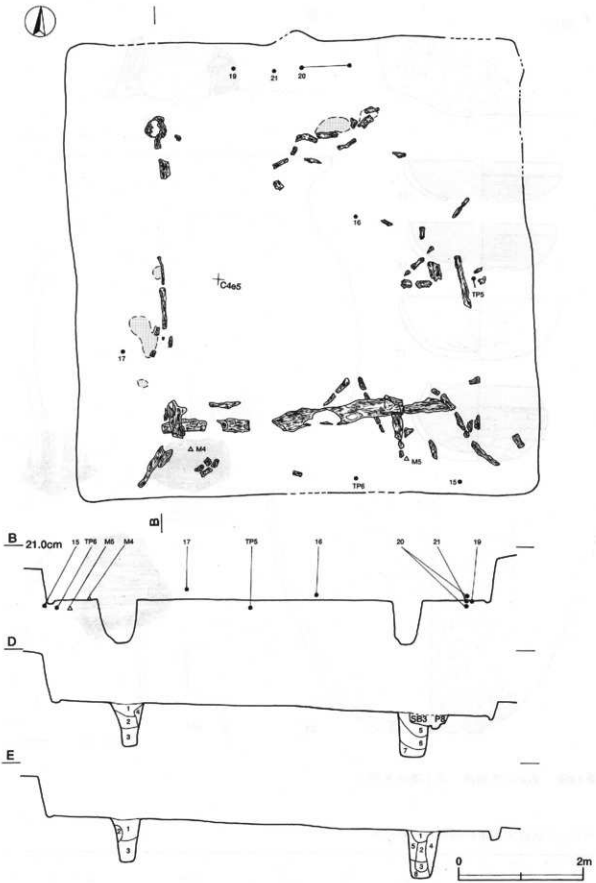
1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量		5	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
2	黒褐色	ロームブロック中量,炭化物少量,焼土粒子微量		6	褐色	ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量	
3	黒褐色	炭化物少量,ローム粒子・焼土粒子微量		7	褐色	ロームブロック少量,焼土粒子微量	
4	黒褐色	ロームブロック・炭化物少量,焼土粒子微量		8	暗褐色	ロームブロック中量,炭化粒子微量	

遺物出土状況　土師器片575点（坏160，椀１，甕414），須恵器片４点，鞴１点，釘１点，多数の炭化材が，覆土下層を中心に散在して出土している。19の椀は竈西脇の覆土下層から，20の甕片は竈内の覆土下層から出土している。本跡の全域から炭化材と焼土の広がりが確認された。炭化材は覆土下層に包含されており，その多くは床面と水平な状態で出土している。大形の炭化材はＰ２・３・４の主柱穴を結ぶ線上に分布しており，その出土位置から桁と梁に相当するものと考えられる。

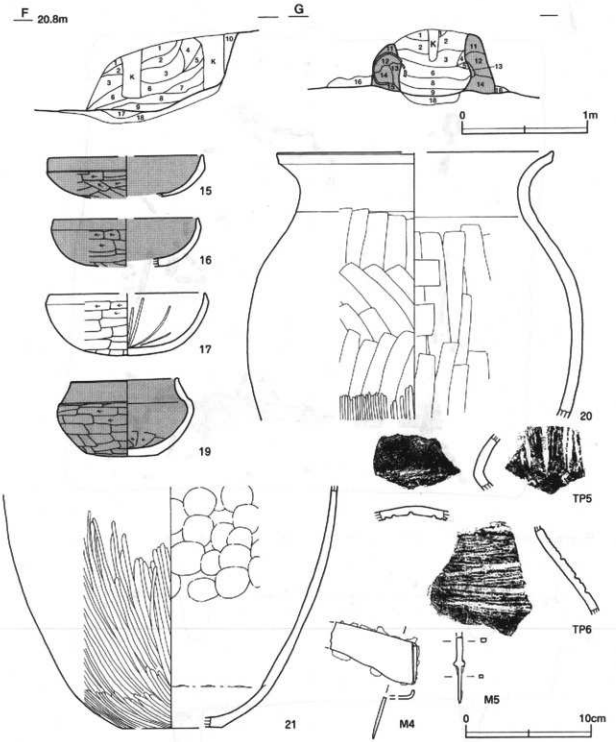
所見　本跡は，炭化材等の出土状況から焼失住居である。時期は，出土土器から７世紀前半と考えられる。



第11図　第40号住居跡実測図(1)



第12図　第40号住居跡実測図(2)



第13図　第40号住居跡・出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表（第13図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
15	土師器	坏	[12.4]	(3.3)	－	長石・石英	黒褐	普通	体部外面ヘラ削り,内面横ナデ	床面	40%
16	土師器	坏	[11.6]	(3.8)	－	長石・石英	黒褐	普通	体部外面ヘラ削り,内面横ナデ	覆土下層	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
17	土師器	坏	(12.5)	5.0	－	長石・赤色粒	橙	普通	体部外面へラ削り,内面横ナデ後放射状の磨き	覆土下層	25%
19	土師器	椀	8.5	6.3	5.9	長石	黒褐	普通	体部外面へラ削り,内面横ナデ	覆土下層	90%, PL39
20	土師器	甕	(22.2)	(21.4)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き,内面ヘラナデ	覆土下層	30%
21	土師器	甕	－	(19.4)	7.9	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ,内面ヘラ磨き	覆土下層	30%
TP5	土師器	転用紡	－	(4.5)		雲母・長石・石英	灰褐	普通	口縁部内面に斜面V字状の擬宝珠あり。	床面	甕口縁部片
TP6	土師器	転用紡	－	(7.1)	－	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面に斜面V字状の擬宝珠あり。	床面	甕体部片

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M4	鎌	(6.9)	2.4	0.3	(34.4)	鉄	基部の破片,柄の装着部は全体を折り返す。	床面	
M5	鉄鏃	(5.4)	0.8	0.4	(2.7)	鉄	茎部の破片,鏃状関。	床面	PL61

第51号住居跡（第14・15図）

位置　調査区の中央部のＣ３h7区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

規模と形状　長軸5.86m，短軸5.70mの方形で，主軸方向はＮ－13°－Ｗである。壁高は30～41cmで，各壁はともち外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められており，壁溝は全周している。西壁寄りの中央部には，東西方向の溝を有している。

竈　２か所。竈１は北壁中央部のやや西寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部までが118cm，両袖部幅が110cm である。袖部はローム土混じりの砂質粘土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さの平坦面をそのまま使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。竈１は31層からなり，第１～16層が竈内の覆土，第17～23層が袖部の土層で，第24～31層は竈の掘り方の埋土である。竈２は，竈１の東側である北壁の中央部に付設され，煙道部だけを検出している。壁外への掘り込みは40cm，幅は34cmで，煙道は外傾して立ち上がっている。竈２の煙道部は２層からなり，第３層は竈の掘り方の埋土である。竈１は完存し，竈２は煙道部だけが残存していることから，竈２から竈１へ作り替えられたことが考えられる。

竈１土層解説

1	にぶい赤褐色	ロームブロック・砂粒中量,炭化粒子微量
2	灰褐色	ロームブロック・砂粒少量,焼土ブロック微量
3	にぶい赤褐色	炭化粒子・砂粒少量,焼土ブロック微量
4	暗褐色	砂粒多量,ローム粒子・焼土ブロック中量
5	暗褐色	ロームブロック・砂粒中量,焼土粒子・炭化粒子少量
6	暗赤褐色	砂粒中量,ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
7	赤褐色	焼土ブロック多量,炭化粒子・砂粒少量
8	褐色	砂粒多量,ロームブロック・焼土ブロック中量
9	暗赤褐色	焼土ブロック・砂粒多量,炭化粒子少量
10	赤黒色	炭化粒子中量,焼土粒子少量
11	赤黒色	焼土ブロック・炭化粒子中量
12	暗赤褐色	砂粒多量,焼土ブロック中量,炭化物少量
13	暗褐色	砂粒多量,焼土ブロック中量,炭化物少量
14	暗赤褐色	焼土ブロック中量,炭化物・粘土粒子少量
15	暗赤褐色	焼土ブロック多量,砂粒中量,炭化粒子少量
16	赤褐色	焼土ブロック多量

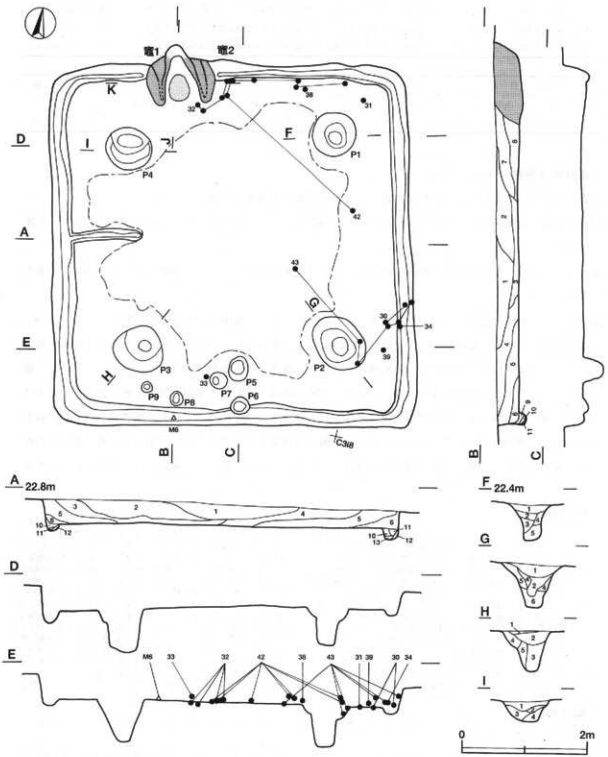
竈２土層解説

1	暗褐色	炭化物・粘土ブロック中量,ローム粒子・焼土粒子少量
2	褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子少量
17	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
18	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
19	にぶい黄褐色	粘土ブロック少量,ローム粒子・焼土粒子微量
20	褐色	焼土ブロック少量,ローム粒子・砂粒微量
21	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
22	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
23	灰褐色	粘土ブロック少量,ローム粒子・炭化粒子微量
24	にぶい赤褐色	焼土ブロック少量,ローム粒子・炭化粒子微量
25	暗褐色	粘土ブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
26	暗褐色	ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子微量
27	暗褐色	ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
28	褐色	ロームブロック中量,焼土粒子少量,炭化粒子微量
29	暗褐色	ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子微量
30	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
31	褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土ブロック微量

ピット　９か所。主柱穴はＰ１～４が相当し，深さは62～70cmである。Ｐ５・６は竈と対峙する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ７～９は深さが12～29cmの小形のピットで，性格は不明である。ピットの覆土は６層からなり，第１～３層は柱痕あるいは抜き取り痕で，第４～６層は埋土である。

土層解説

1	黒　褐	色	ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子少量	4	褐	色	ロームブロック多量
2	暗　褐	色	ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子少量	5	褐	色	ロームブロック多量,炭化粒子微量
3	暗　褐	色	ロームブロック少量,炭化粒子微量	6	褐	色	ロームブロック多量



第14図　第51号住居跡実測図

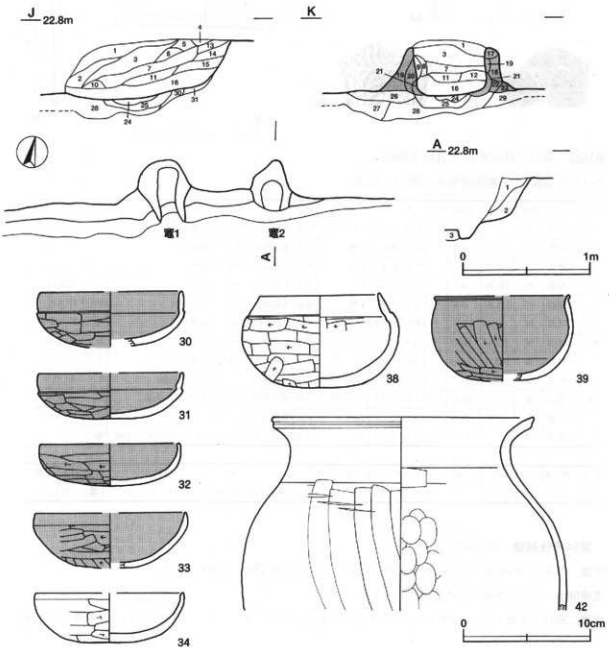
覆土　13層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。竈１東側の北壁際に堆積する最下層は焼土を多量に含んでいる。

土層解説

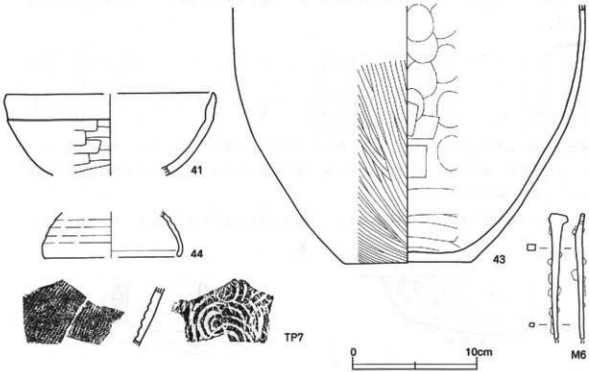
1	暗　褐　色	ロームブロック多量,焼土粒子・炭化粒子中量		8	暗　褐　色	ロームブロック多量,焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒　褐　色	ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子少量		9	黒　褐　色	ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量		10	暗　褐　色	ローム粒子中量,炭化粒子微量
4	暗　褐　色	ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子少量		11	暗　褐　色	ロームブロック中量,炭化粒子微量
5	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック中量,炭化粒子少量		12	暗　褐　色	ロームブロック少量,焼土粒子・粘土粒子微量
6	極暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量,ローム粒子微量		13	褐　色	ロームブロック中量,焼土粒子微量
7	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック多量,炭化粒子中量				

遺物出土状況　土師器片320点（坏11，椀３，甕302，不明４），須恵器片４点（坏１，甕２，不明１），釘１点が，ほぼ全域から散在して出土している。38の椀は覆土下層から出土し，32の坏は竈南側の掘り方の埋土から出土した破片が接合したものである。

所見　本跡は，竈の作り替えをした住居跡である。時期は，出土土器から７世紀前半と考えられる。



第15図　第51号住居跡・出土遺物実測図



第16図　第51号住居跡出土遺物実測図

第51号住居跡出土遺物観察表（第15・16図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
30	土師器	坏	[11.2]	(4.3)	－	雲母・長石	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り,内面横ナデ	床面	30%
31	土師器	坏	[11.3]	3.6	－	長石・赤色粒子	灰褐	普通	体部外面ヘラ削り,内面横ナデ	床面	25%
32	土師器	坏	[11.0]	3.5	－	長石・石英	褐灰	普通	体部外面ヘラ削り,内面横ナデ	覆土下層	60%
33	土師器	坏	[11.8]	4.4	－	長石・石英	黒	良好	体部外面ヘラ削り,内面横ナデ	覆土下層	30%
34	土師器	坏	[11.6]	3.9	－	長石・石英	灰褐	普通	体部外面ヘラ削り,内面横ナデ	覆土下層	50%
38	土師器	椀	9.4	7.5	－	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り,内面横ナデ	覆土下層	100%, PL.39
39	土師器	椀	[10.4]	(6.7)	－	石英	褐灰	普通	体部外面ヘラ削り,内面横ナデ	覆土下層	40%
41	土師器	鉢	[16.7]	(6.6)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り,内面横ナデ	覆土中	20%
42	土師器	甕	20.4	(15.4)	－	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ,内面当て具痕	床面	30%
43	土師器	甕	－	(20.9)	10.0	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面下半ヘラ磨き,内面当て具痕	床面	40%
44	須恵器	壺	[10.8]	(3.7)	－	長石	青灰	良好	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	25%
TP7	須恵器	甕	－	(4.8)	－	雲母・長石	灰	普通	体部外面平行叩き,内面同心円状の当て具痕	覆土中	

番号	機種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M6	釘	(10.2)	1.5	0.5	(16.6)	鉄	脚部欠損,頭は扁平で,使用されていない。	覆土下層	

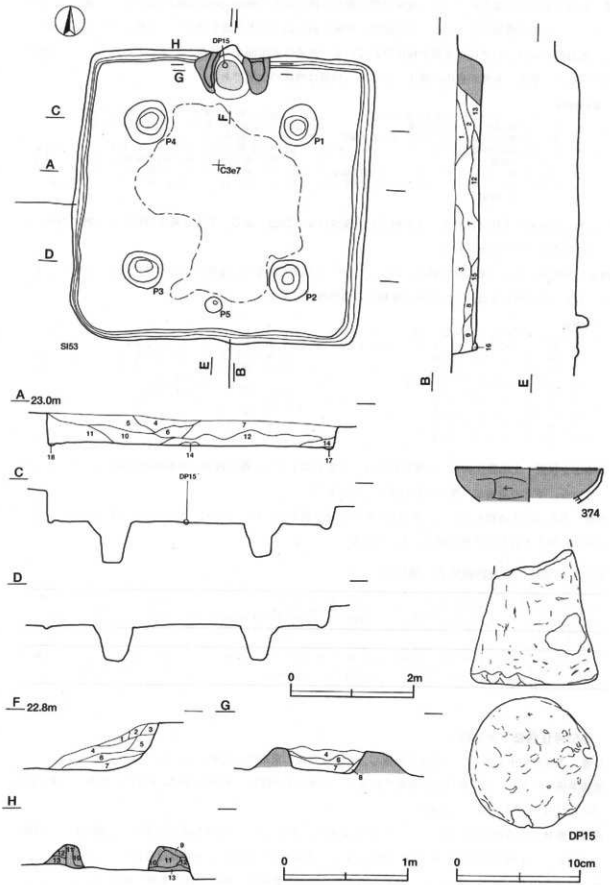
第54号住居跡（第17図）

位置　調査区の中央部のＣ３e7区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

重複関係　第53号住居に南西部を掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.71ｍ，短軸4.65ｍの方形で，主軸方向はＮ－０°である。壁高は40㎝で，各壁ともほぼ直立している。

床　平坦で，Ｐ３付近を除いた中央部がよく踏み固められている。壁溝は，全周している。



第17図　第54号住居跡・出土遺物実測図

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで88cm，両袖部幅120cmである。袖部は，粘土混じりのローム土で構築されている。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用し，火熱により赤変硬化している。煙道部からは，ＤＰ15の支脚が検出されている。煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。土層は13層からなり，第１～８層が竈内の覆土で，第９～13層は袖部の土層である。

竈土層解説

1	褐	色	ロームブロック少量,粘土粒子微量
2	暗 褐	色	焼土粒子・ローム粒子微量
3	暗 褐	色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
4	黒 褐	色	炭化物少量,焼土ブロック・ローム粒子　粘土粒子微量
5	暗 赤 褐	色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
6	にぶい赤褐	色	焼土ブロック・ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
7	明 赤 褐	色	焼土ブロック少量,炭化粒子微量
8	にぶい赤褐	色	焼土ブロック・炭化粒子微量
9	暗 褐	色	ローム粒子少量
10	明 褐	色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
11	黒 褐	色	粘土粒子・砂粒中量,焼土粒子少量,ローム粒子微量
12	黒 褐	色	粘土粒子・砂粒少量,ローム粒子微量
13	暗 褐	色	ローム粒子・粘土粒子中量,炭化物少量

ピット　５か所。主柱穴はＰ１～４が相当し，深さは56～70cmである。Ｐ５は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土　18層からなる。第１～12層は，ロームブロックの混入が多く，堆積に乱れが見られることから，人為堆積である。第13層以下は，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1	極 暗 褐	色	焼土粒子・炭化粒子少量,ロームブロック微量
2	暗 褐	色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
3	暗 褐	色	ロームブロック少量
4	暗 褐	色	ロームブロック中量
5	極 暗 褐	色	炭化粒子・ローム粒子少量
6	黒 褐	色	ロームブロック中量
7	暗 褐	色	ロームブロック中量
8	褐	色	ロームブロック少量
9	黒 褐	色	ロームブロック中量
10	暗 褐	色	ロームブロック中量
11	暗 褐	色	ロームブロック中量
12	暗 褐	色	ロームブロック中量
13	極 暗 褐	色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂粒少量
14	暗 褐	色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂粒少量
15	暗 褐	色	ローム粒子中量
16	褐	色	ローム・ブロック微量
17	黒 褐	色	ローム・ブロック少量
18	褐	色	ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片40点，須恵器片１点，土製支脚１点が，竈の西側と西壁際の中央付近に点在して出土している。多くの遺物が，覆土中から出土している。

所見　本跡は出土遺物も少なく，第53号住居への建て替えのために人為的に埋め戻された住居と考えられる。時期は，出土土器から７世紀後半と考えられる。

第54号住居跡出土遺物観察表（第17図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
374	土師器	坏	(11.8)	(2.8)	－	長石	黒褐	普通	口縁・体部内面横ナデ，外面ヘラ削り	覆土中	10%

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP15	支脚	(10.9)	10.4	7.0	(790.9)	土製	指頭ナデ	火床面	

第55号住居跡（第18図）

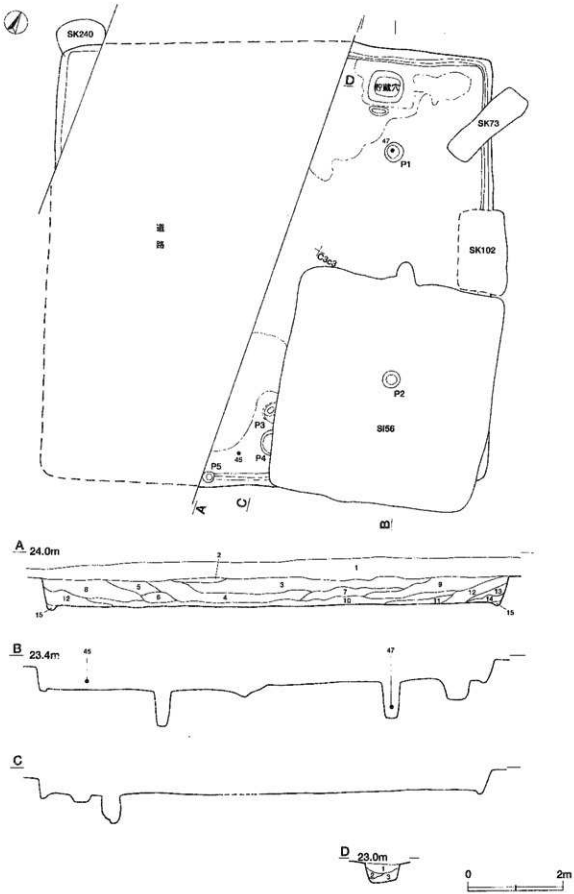
位置　調査区の中央部のＣ３b2区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

重複関係　南東コーナー部付近を第56号住居に，東壁の中央部付近を第73・102号土坑に，北西コーナー部を第240号土坑にいずれも掘り込まれている。

規模と形状　農道が南北に通っている中央部は調査区域外であり，不明な部分が多い。長軸9.32m，短軸9.25mの方形で，主軸方向はＮ－28°－Ｗと推定される。壁高は30～45cmで，各壁はほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，北部と南部がよく踏み固められている。壁溝は，確認された東側の範囲では巡っている。

竈　北壁中央部にあると考えられるが，調査区域外であるため不明である。



第18図　第55号住居跡実測図

ピット　5か所。主柱穴はP１・２が相当し，４本柱と考えられるが，他の２か所は調査区域外にあると推定される。P１は深さが83cm，P２は第56号住居跡の下部で確認され，深さは75cmである。P３・４は竈があると考えられる位置と対峙しており，出入り口施設に伴うピットと推定される。P３は深さが62cm，P４は深さが14cmである。P５は深さ11cmで，南壁際の壁溝内に位置することから，壁柱穴と考えられる。

貯蔵穴　北壁際中央部やや東寄りに位置している。南側には東西方向の高まりが沿っている。深さは44cm で，覆土は３層からなる自然堆積である。

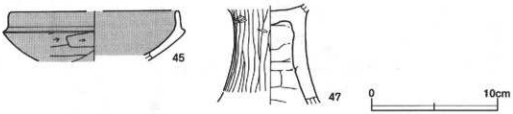
土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量,炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　褐　色　ローム粒子多量

覆土　第１層は表土で，第２～15層が本跡の覆土である。14層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム ブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム ブロック中量,炭化物少量,焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量
6　暗　褐　色　ローム ブロック中量
7　褐　色　ローム ブロック中量
8　暗　褐　色　ローム ブロック中量,焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒　褐　色　ローム ブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ローム ブロック中量,炭化物微量
11　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量,炭化粒子微量
12　褐　色　ローム ブロック少量
13　褐　色　ローム粒子少量,砂粒微量
14　暗　褐　色　ローム ブロック中量,砂粒少量
15　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片72点（坏19，高坏１，甕51，甑１）が，散在して出土している。45の坏は覆土下層から出土している。

所見　本跡は，大形住居である。時期は，出土土器から６世紀後葉と考えられる。



第19図　第55号住居跡出土遺物実測図

第55号住居跡出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
45	土師器	坏	(13.2)	(3.9)	－	長石・石英	灰褐	普通	体部外面ヘラ削り,内面横ナデ	覆土下層	15%
47	土師器	高坏	－	(7.9)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ磨き,内面ヘラ削り	P1覆土中	30%

第60号住居跡（第20図）

位置　調査区の南部のＤ３g5区に位置し，南へわずかに傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状　長軸3.59m，短軸3.10mの長方形で，主軸方向はＮ－18°－Ｗである。南西コーナー部付近が削平され，その付近は床面が露呈している。壁高は10cmで，残存している壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。壁溝は南西コーナー部付近を除いてほぼ周回している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで80cm，両袖部幅82cmである。袖部は砂質粘土混じりのローム土で構築されている。火床面は床面と同じ高さの平坦面をそのまま使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は13層からなり，第１～７層が竈内の覆土，第８～11層が袖部の土層，第12・13層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1 暗　褐　色　ロームブロック中量
2 暗　褐　色　粘土粒子・ローム粒子中量,炭化粒子微量
3 暗　褐　色　粘土ブロック多量,焼土ブロック・砂粒少量
4 黒　褐　色　粘土粒子中量,砂粒少量
5 極　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
6 極　暗　褐　色　粘土粒子中量,焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
7 暗　赤　褐　色　焼土ブロック中量,ローム粒子少量
8 にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量
9 褐　色　ローム粒子多量,粘土粒子中量,焼土粒子・砂粒少量
10 極　暗　褐　色　粘土粒子多量,砂粒中量,焼土粒子・炭化粒子少量
11 暗　褐　色　ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子少量
12 極　暗　褐　色　焼土ブロック中量,炭化粒子少量
13 暗　褐　色　ロームブロック中量

ピット　5か所。主柱穴はＰ１～４が相当し，深さは15～28cmである。Ｐ５は竈と対峙する位置にあることから出入り口施設に伴うものと考えられる。

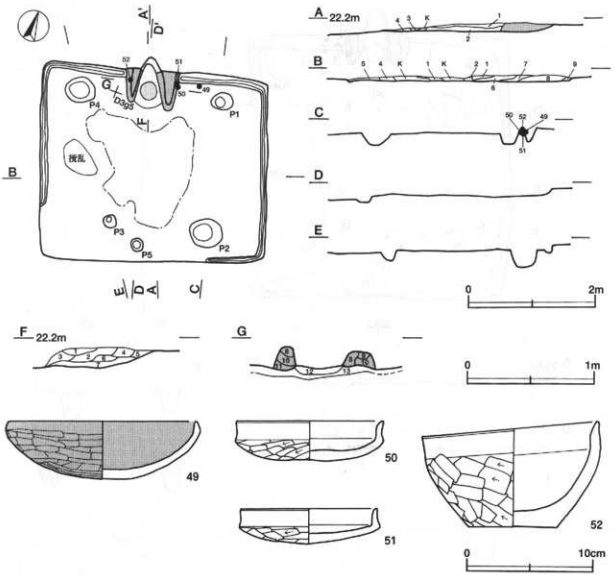
覆土　9層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1 暗　褐　色　ローム粒子中量,炭化物少量,焼土粒子微量
2 黒　褐　色　ロームブロック中量,粘土ブロック・炭化物少量,焼土粒子微量
3 黒　褐　色　炭化物中量,ローム粒子微量
4 黒　褐　色　ローム粒子中量
5 褐　色　ロームブロック中量
6 黒　褐　色　炭化粒子少量,ローム粒子微量
7 褐　色　炭化粒子中量,ロームブロック・焼土粒子少量
8 黒　褐　色　ローム粒子微量
9 黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片31点（坏９，鉢１，甕21）が，散在して出土している。49の坏は逆位の状態で北壁際の床面から，50・51の坏は一部が重なった正位の状態で竈東脇の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉と考えられる。



第20図　第60号住居跡・出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表（第20図）

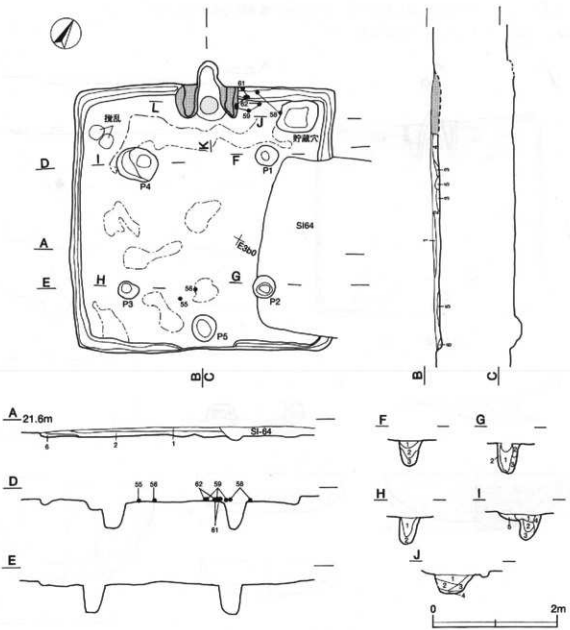
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
49	土師器	坏	14.8	4.6	－	長石・針状鉱物	黒褐	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き,内面横ナデ	床　面	85%，PL39
50	土師器	坏	11.5	3.1	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り,内面横ナデ	床　面	90%，PL39
51	土師器	坏	10.8	2.9	－	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り,内面横ナデ	床　面	90%，PL39
52	土師器	鉢	13.9	8.4	6.9	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り,内面横ナデ	覆土下層	70%，PL39

第63号住居跡（第21・22図）

位置　調査区の南部のＥ３a9区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

重複関係　東壁際の中央部を第64号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.29m，短軸4.15mの方形で，主軸方向はＮ－28°－Ｗである。壁高は４～12cmで，各壁は外傾して立ち上がっている。



第21図　第63号住居跡実測図

床　ほぼ平坦で，部分的に踏み固められている。壁溝は，南壁中央部以外では巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで96cm，両袖部幅101cm である。袖部は砂質粘土混じりのローム土で構築されている。火床面は床面と同じ高さの平坦面をそのまま使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は10層からなり，第１～８層が竈内の覆土，第９・10層が袖部の土層である。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子少量,ローム粒子微量
2　極暗赤褐色　ローム粒子中量,焼土ブロック少量
3　暗　赤　褐　色　焼土ブロック中量,ローム粒子少量
4　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量,炭化粒子微量
5　暗　赤　褐　色　焼土ブロック中量,炭化粒子・粘土粒子少量
6　暗　赤　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子中量
7　灰　白　色　粘土ブロック多量,焼土粒子少量
8　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量,焼土粒子・炭化粒子少量
9　褐　色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量
10　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量

ピット　５か所。主柱穴はＰ１～４が相当し，深さは42～50cmである。Ｐ５は竈と対峙する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと推定される。Ｐ５の深さは12cmである。

土層解説

1　褐　色　ロームブロック微量
2　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　色　ロームブロック中量,炭化粒子微量
5　褐　色　ロームブロック中量

貯蔵穴　北東コーナー部際に位置している。深さは36cmで，覆土は４層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　焼土ブロック少量,ローム粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　色　ロームブロック少量,第3層より色調が明るい

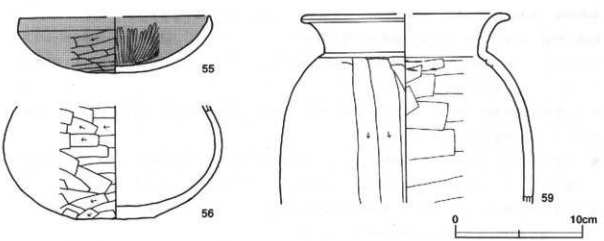
覆土　６層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

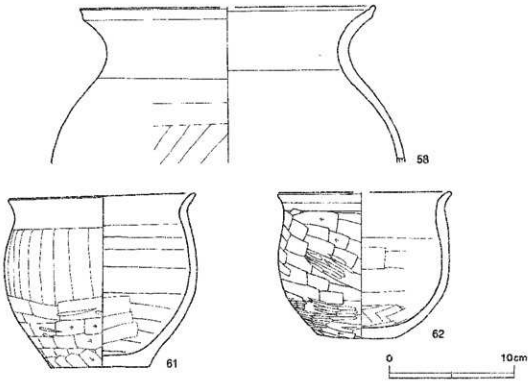
1　黒　褐　色　ロームブロック少量,焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量,焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5　褐　色　ロームブロック少量
6　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片81点（坏19，高坏１，鉢１，甕60）が，竈東側と南壁際に集中して出土している。61・62の甕は入れ子の状態で竈東側の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉と考えられる。



第22図　第63号住居跡・出土遺物実測図



第23図　第63号住居跡出土遺物実測図

第63号住居跡出土遺物観察表（第22・23図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
55	土師器	坏	(14.8)	(4.5)	－	長石・石英	灰褐	普通	体部外面ヘラ削り,内面横ナデ後放射状の磨き	床面	35%
56	土師器	坏	－	(9.1)	6.2	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り,内面ナデ	床面	90%
58	土師器	甕	(23.4)	(12.6)	－	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面ハケナデ,内面ナデ	床面	15%
59	土師器	甕	(15.6)	(16.1)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り,内面ヘラナデ	床面	15%
61	土師器	甕	14.7	14.1	7.8	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面下半ヘラ削り,内面ヘラナデ	床面	80%, PL39
62	土師器	甕	(13.5)	11.8	6.3	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後磨き,内面ヘラナデ	床面	50%

第70号住居跡（第24・25図）

位置　調査区の南部のＥ４e1区に位置し，南東に傾斜した台地の東端部に立地している。

重複関係　南部を第３号溝に，南東コーナー部を第83号土坑にいずれも掘り込まれている。

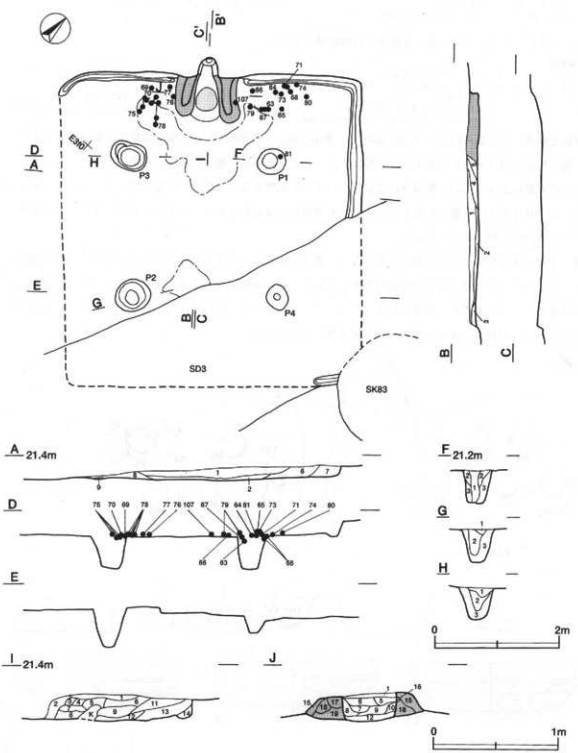
規模と形状　南東コーナー部付近で壁溝の一部が確認されていることから，長軸5.07m，短軸4.86mの方形と推定される。主軸方向はN－41°－Wである。西壁は削平され，その付近は床面が露呈している。壁高は20cmで，残存している壁は外傾して立ち上がっている。

床　西壁際では壁溝まで流出しているが，ほぼ平坦で，竈周辺と中央部付近は踏み固められている。壁溝は，残存していない西壁以外では巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで105cm，両袖部幅96cm である。袖部は砂質粘土で構築されている。火床面は床面と同じ高さの平坦面をそのまま使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がり，煙道の先端部は深さ４cmのピット状となっている。土層は19層からなり，第１～14層が竈内の覆土，第15～19層が袖部の土層である。

竈土層解説

1 黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2 褐　　色　焼土粒子少量,ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3 暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 にぶい褐色　粘土ブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
6 褐　　色　粘土ブロック・焼土粒子少量
7 にぶい赤褐色　焼土ブロック少量,粘土粒子・炭化粒子微量
8 にぶい赤褐色　焼土粒子少量,炭化粒子微量
9 灰　褐　色　焼土粒子少量,炭化粒子微量
10 極暗赤褐色　焼土ブロック少量,ローム粒子・炭化粒子微量
11 極暗赤褐色　炭化物多量,焼土ブロック・粘土粒子少量
12 暗　赤　褐　色　焼土ブロック多量,ローム粒子少量
13 極暗赤褐色　炭化物中量,焼土ブロック・ローム粒子少量
14 極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
15 黒　褐　色　砂粒中量,粘土粒子少量,ローム粒子微量
16 明　赤　褐　色　焼土粒子多量
17 暗　赤　褐　色　焼土粒子中量,ローム粒子・砂粒・粘土粒子少量
18 にぶい黄褐色　粘土ブロック多量,砂粒中量,ローム粒子少量
19 褐　　色　粘土粒子多量,砂粒中量,焼土粒子少量



第24図　第70号住居跡実測図

ピット　4か所。P１～４は主柱穴で，P１～３の深さは56～64cmで，P４は第３号溝の底面で確認されたため，深さは21cmである。P１の第１層は柱痕で，第２・３層は埋土である。P２・３の第１・２層は抜き取り痕で，第３層は埋土である。

P１土層解説

1	黒　褐　色	炭化物少量,ロームブロック微量	
2	褐　色	ロームブロック少量	
3	褐　色	ローム粒子多量	

P２・３土層解説

1	暗　褐　色	ローム粒子中量	
2	極暗褐色	ローム粒子少量,炭化粒子微量	
3	暗　褐　色	ロームブロック中量	

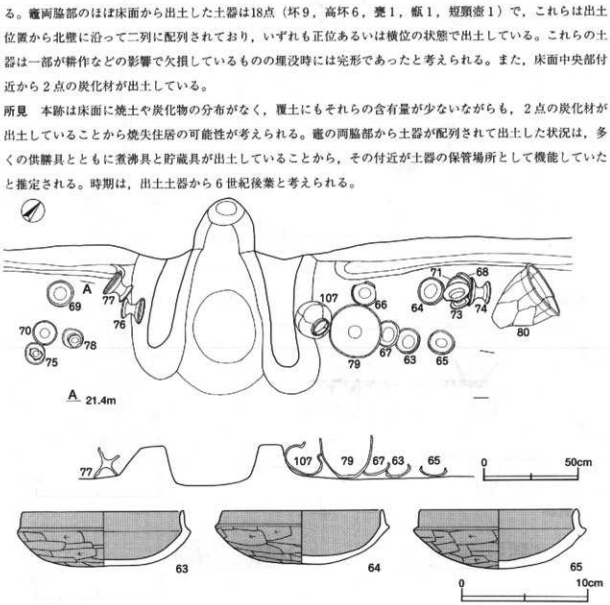
覆土　９層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

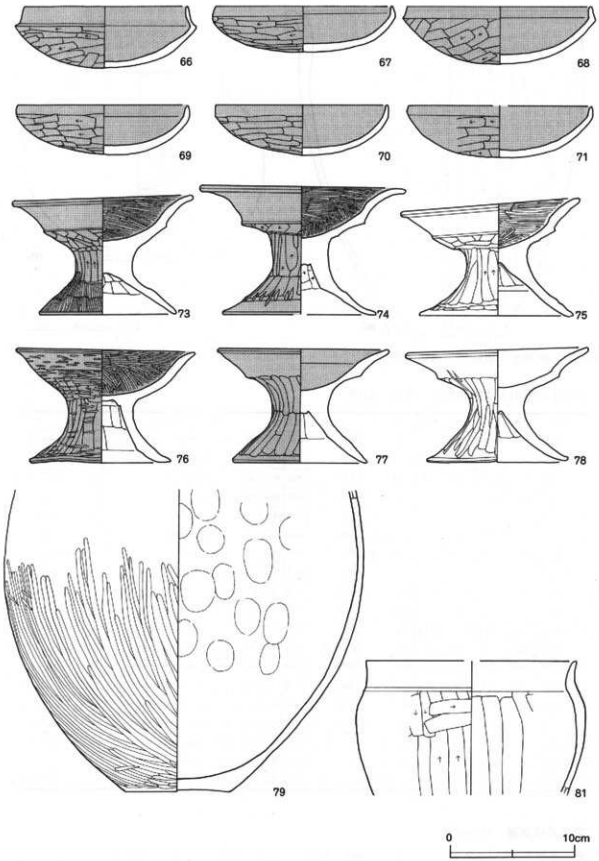
1	黒　色	ローム粒子・焼土粒子微量	
2	褐　色	ロームブロック・焼土ブロック微量	
3	灰　褐　色	ローム粒子微量	
4	灰　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	
5	灰　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック少量,炭化粒子・粘土粒子微量	
6	灰　褐　色	ロームブロック少量,炭化粒子微量	
7	褐　色	ロームブロック少量	
8	褐　色	ローム粒子・炭化粒子微量	
9	褐　色	ロームブロック少量,第7層より色調が明るい	

遺物出土状況　土師器片114点（坏36，高坏６，甕69，甑２，短頸壺１）が，竈の両脇部に集中して出土している。竈両脇部のほぼ床面から出土した土器は18点（坏９，高坏６，甕１，甑１，短頸壺１）で，これらは出土位置から北壁に沿って二列に配列されており，いずれも正位あるいは横位の状態で出土している。これらの土器は一部が耕作などの影響で欠損しているものの埋没時には完形であったと考えられる。また，床面中央部付近から２点の炭化材が出土している。

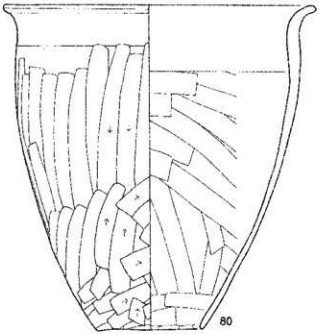
所見　本跡は床面に焼土や炭化物の分布がなく，覆土にもそれらの含有量が少ないながらも，２点の炭化材が出土していることから焼失住居の可能性が考えられる。竈の両脇部から土器が配列されて出土した状況は，多くの供膳具とともに煮沸具と貯蔵具が出土していることから，その付近が土器の保管場所として機能していたと推定される。時期は，出土土器から６世紀後葉と考えられる。

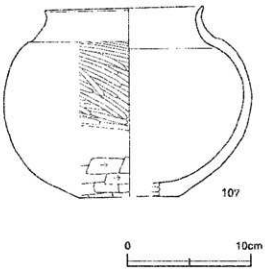


第25図　第70号住居跡遺物出土状況・出土遺物実測図



第26図　第70号住居跡出土遺物実測図(1)





第27図　第70号住居跡出土遺物実測図(2)

第70号住居跡出土遺物観察表（第25～27図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
63	土師器	坏	12.9	4.4	－	白色粒子	黒褐	良好	体部外面ヘラ削り，内面横ナデ，赤仕上げ	床面	98%，PL40
64	土師器	坏	12.7	4.3	－	長石・石英	灰褐	良好	体部外面ヘラ削り，内面横ナデ	床面	98%，PL40
65	土師器	坏	12.3	4.8	－	白色粒子	灰褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面横ナデ	床面	95%，PL40
66	土師器	坏	(13.2)	5.1	－	白色粒子	灰褐	良好	体部外面ヘラ削り，内面横ナデ	床面	75%，PL40
67	土師器	坏	14.1	3.7	－	長石・白英	黒褐	良好	体部外面ヘラ削り，内面横ナデ	床面	98%，PL40
68	土師器	坏	14.8	4.6	－	長石・石英	黒褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面横ナデ	床面	90%，PL40
69	土師器	坏	13.9	4.1	－	長石・石英	灰褐	良好	体部外面ヘラ削り，内面横ナデ	床面	98%，PL40
70	土師器	坏	14.0	4.1	－	長石	褐灰	普通	体部外面ヘラ削り，内面横ナデ	床面	90%
71	土師器	坏	(14.8)	4.5	－	長石	黒褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面赤ナデ	床面	30%
73	土師器	高坏	14.4	9.6	11.1	白色粒子	黒	良好	坏部外面下半ヘラ削り，坏部内面磨き	床面	95%，PL40
74	土師器	高坏	16.6	10.5	(12.2)	長石	黒褐	良好	坏部外面下半ヘラ削り，坏部内面磨き	床面	85%，PL41
75	土師器	高坏	14.5	9.6	12.5	長石	にぶい褐	良好	坏部外面下半ヘラ削り，坏部内面磨き	床面	85%，PL40
76	土師器	高坏	14.5	9.2	11.4	長石	黒褐	良好	坏部外面ヘラ削り後磨き，坏部内面磨き	床面	85%，PL41
77	土師器	高坏	13.5	9.2	10.8	石英	黒褐	普通	坏部外面下半ヘラ削り，坏部内面横ナデ	床面	75%，PL40
78	土師器	高坏	14.6	9.4	11.5	長石	灰褐	良好	坏部外面下半ヘラ削り，坏部内面横ナデ	床面	80%，PL41
79	土師器	甕	－	(24.5)	8.5	雲母・長石・石英	灰褐	普通	体部外面下半ヘラ焼き，内面当て具痕	床面	50%，PL41
80	土師器	甕	24.6	26.7	8.5	長石・石英	にぶい橙	良好	体部外面ヘラ削り，内面ハケナデ	床面	95%，PL41
81	土師器	鉢	(16.8)	(11.0)	－	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	床面	10%
107	土師器	低脚壺	11.8	15.2	(8.0)	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面地ヘラ，脚部下半ヘラ削り	床面	70%，PL39

第75号住居跡（第28図）

位置　調査区の南部のE 4 14区に位置し，南東に傾斜した台地の東端部に立地している。

規模と形状　床面まで削平された状態で検出されたため，竈とピットの位置から判断して，N－38°－Wを主軸とする一辺5.26mの方形と推定される。壁は北西コーナー部付近だけが残存しているだけで，壁高は20cmであ

る。残存している壁は外傾して立ち上がっている。

床　北西コーナー部付近以外は露呈しているが，ほぼ平坦で，竈の周辺部は踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設されている。残存状態は不良で，上部は削平されている。規模は焚口部から煙道部まで94cm，両袖部幅99cmである。袖部は砂質粘土混じりのローム土で構築されている。火床面は床面と同じ高さの平坦面をそのまま使用し，火熱により赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は4層からなり，第1層が竈内の覆土，第2～4層が袖部の土層である。

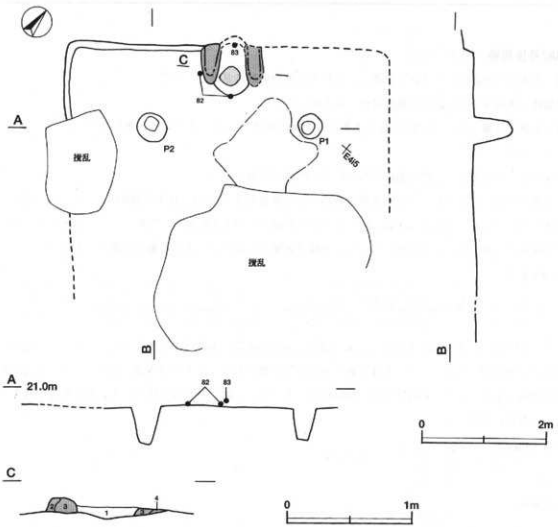
竈土層解説

1	褐	暗 赤	褐 色	焼土ブロック中量,ローム粒子・砂粒少量	3	暗	褐 色	ローム粒子・粘土粒子中量,焼土粒子微量
2	暗	褐	色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量,焼土粒子微量	4	暗	褐 色	ローム粒子中量,粘土粒子・砂粒少量

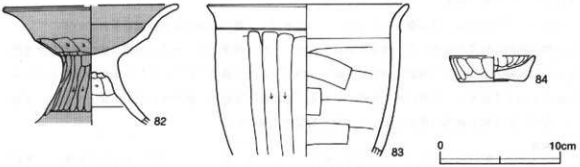
ピット　2か所。P1・2は主柱穴で，深さはP1が55cmで，P2が60cmである。本跡は4本主柱と考えられるが，他の2か所は確認できなかった。

遺物出土状況　土師器片13点（高坏1，甕10，甑1，手捏1）が，竈内覆土及びその周辺から出土している。82の高坏は竈焚き口付近の床面から，83の甑片は竈の煙道部の底面から出土している。

所見　時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第28図　第75号住居跡実測図



第29図　第75号住居跡出土遺物実測図

第75号住居跡出土遺物観察表（第29図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
82	土師器	高坏	[14.5]	(9.9)	－	長石	鶯灰	普通	坏部外面下半ヘラ削り，坏部内面ナデ	床面	50%
83	土師器	甕	16.8	(12.6)	－	長石・石英	鶯灰	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	煙道部底面	30%，PL41
84	土師器	手捏	6.8	2.1	5.4	長石・石英	にぶい黄橙	普通	内・外面指頭痕	竈覆土中	80%，PL41

第82号住居跡（第30・31図）

位置　調査区の西部のＣ１b0区に位置し，平坦な台地の東部に立地している。

重複関係　東部を第10号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.62m，短軸5.58mの方形で，主軸方向はＮ－50°－Ｗである。壁高は18～39cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部がよく踏み固められている。壁溝は全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで142cm，両袖部幅98cm である。袖部は砂質粘土で構築されている。火床面は床面と同じ高さの平坦面をそのまま使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は８層からなり，いずれも竈内の覆土である。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2　灰　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3　暗　褐　色　粘土粒子・砂粒中量,焼土ブロック・炭化物少量
4　灰　褐　色　焼土ブロック少量,粘土粒子・炭化粒子微量
5　灰　褐　色　焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量
6　暗　褐　色　焼土ブロック少量,ローム粒子微量
7　にぶい赤褐色　灰少量,焼土粒子微量
8　赤　褐　色　焼土ブロック中量

ピット　10か所。Ｐ１～３は主柱穴で，深さは53～58cmである。本跡は４本主柱と考えられるが，他の１か所は攪乱のため確認できなかった。Ｐ４は竈と対峙する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと推定される。深さは32cmである。Ｐ５～10は深さ23～60cmのピットであり，特にＰ９は主柱穴であるＰ２を掘り込んでいる。いずれも性格は不明である。

Ｐ１～３土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量
4　褐　　色　ロームブロック少量
5　褐　　色　ロームブロック中量

Ｐ９土層解説

6　暗　褐　色　ローム粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量,焼土粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック少量

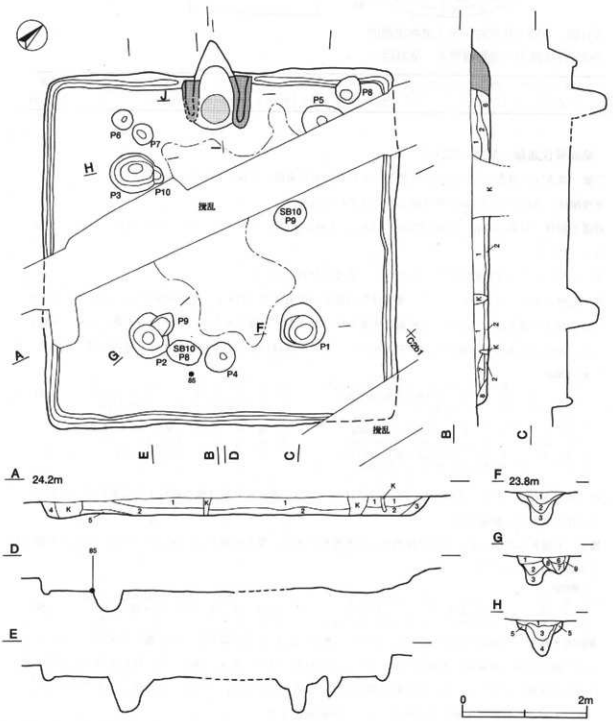
覆土　8層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

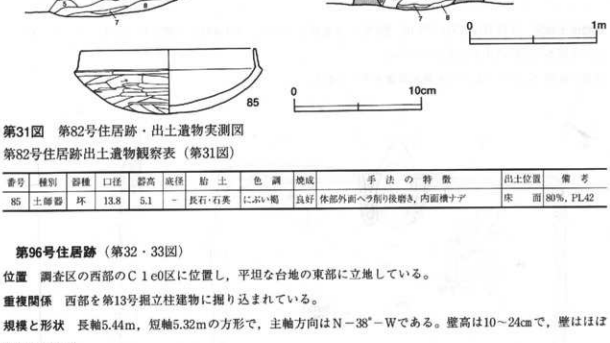
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　極 暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量,炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量,焼土ブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量,焼土粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量,焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片275点（坏46，甕229），須恵器片５点が，ほぼ全域から散在して出土している。85は南部の床面から正位の状態で出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉と考えられる。



第30図　第82号住居跡実測図



第31図　第82号住居跡・出土遺物実測図

第82号住居跡出土遺物観察表（第31図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
85	土師器	坏	13.8	5.1	－	長石・石英	にぶい褐	良好	体部外面ヘラ削り後磨き，内面横ナデ	床　面	80%，PL42

第96号住居跡（第32・33図）

位置　調査区の西部のＣ１e0区に位置し，平坦な台地の東部に立地している。

重複関係　西部を第13号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.44m，短軸5.32mの方形で，主軸方向はＮ－38°－Ｗである。壁高は10～24cmで，壁はほぼ直立している。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。壁溝は全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで110cm，両袖部幅110cmである。袖部と煙道部は砂質粘土で構築されている。火床面は床面と同じ高さの平坦面をそのまま使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は15層からなり，いずれも竈内の覆土である。

竈土層解説

1　褐　色　粘土ブロック少量,ローム粒子・炭化粒子微量
2　にぶい褐色　粘土ブロック・炭化物少量,焼土粒子微量
3　にぶい褐色　粘土ブロック中量
4　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　焼土粒子少量,炭化粒子・粘土粒子微量
7　灰　褐　色　焼土ブロック・炭化物少量,粘土粒子微量
8　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
9　暗　褐　色　粘土粒子少量
10　灰　褐　色　焼土ブロック・炭化物少量,粘土粒子微量
11　暗　赤　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
12　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量,炭化粒子微量
13　褐　灰　色　ローム粒子・焼土粒子微量
14　暗　褐　色　灰少量,焼土粒子・炭化粒子微量
15　灰　褐　色　炭化物少量,焼土粒子・粘土粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～４は主柱穴で，深さは41～53cmである。Ｐ５は竈と対峙する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと推定される。

覆土　６層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。覆土中層から下層にかけては，炭化材と焼土粒子を多量に含んでいる。

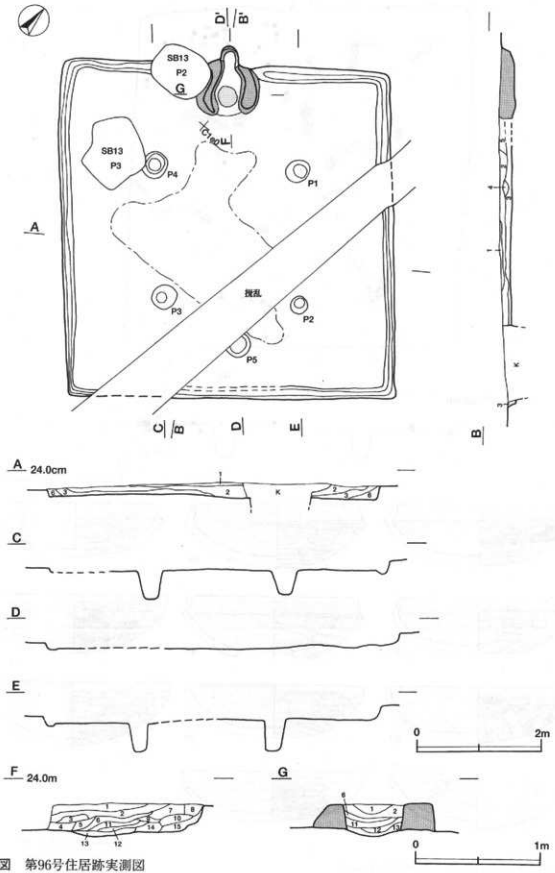
土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　炭化物中量,焼土粒子・ローム粒子微量
3　暗　褐　色　炭化材多量,ローム粒子中量,焼土粒子少量
4　暗　赤　褐　色　焼土粒子多量,炭化粒子少量
5　黒　褐　色　炭化粒子少量,焼土粒子・ローム粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子中量

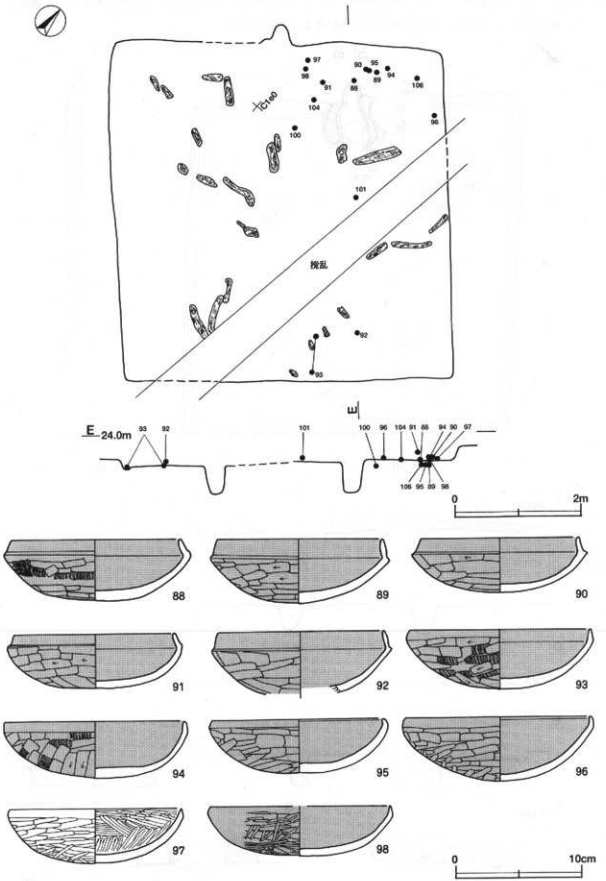
遺物出土状況　土師器片147点（坏92，高坏６，甕48，甑１），須恵器片１点が，竈の東脇部を中心に出土している。竈の上部と東脇部の床面から出土した土器は11点（坏９，甕１，甑１）で，坏は正位の状態で，甕と甑は逆位の状態で出土している。炭化材は覆土下層に包含されており，その多くは床面と水平な状態で出土している。大形の炭化材は床面中央部を中心にして放射状に分布している。

所見　本跡は，炭化材等の出土状況から焼失住居と考えられる。竈の東脇部を中心に土器が配列されて出土し

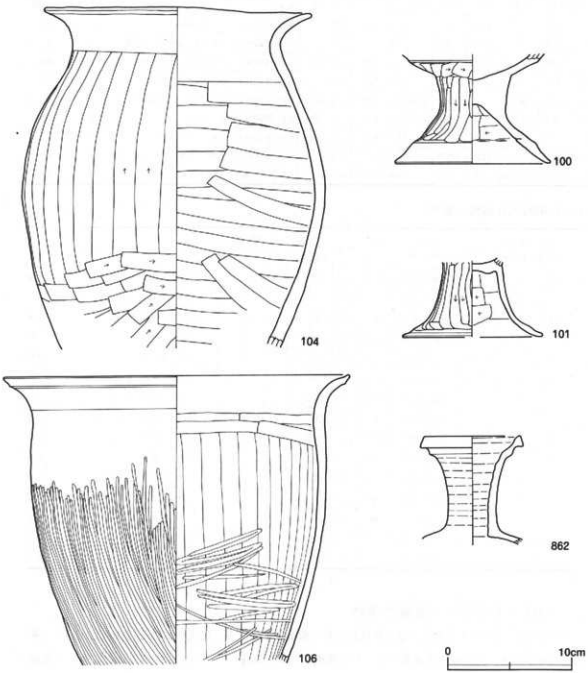
た状況は，多くの供膳具とともに煮沸具が出土していることから，その付近が土器の保管場所として機能していたと推定される。時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第32図　第96号住居跡実測図



第33図　第96号住居跡・出土遺物実測図



第34図　第96号住居跡・出土遺物実測図

第96号住居跡出土遺物観察表（第33・34図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
88	土師器	坏	13.6	4.9	－	長石	灰褐	良好	体部外面ヘラ削り，内面横ナデ	床面	100%，PL42
89	土師器	坏	13.3	5.2	－	長石	黒褐	良好	体部外面ヘラ削り，内面横ナデ	床面	98%，PL42
90	土師器	坏	12.6	4.4	－	長石	黒	良好	体部外面ヘラ削り，内面横ナデ，底仕上げ	床面	98%，PL42
91	土師器	坏	12.8	4.3	－	石英	灰褐	良好	体部外面ヘラ削り，内面横ナデ	床面	90%，PL42
92	土師器	坏	13.3	(4.9)	－	長石	黒	青灰	体部外面ヘラ削り，内面横ナデ	床面	70%
93	土師器	坏	14.6	4.8	－	長石	黒褐	良好	体部外面ヘラ削り，内面横ナデ	床面	95%，PL42
94	土師器	坏	14.4	4.6	－	長石・石英	黒	良好	体部外面ヘラ削り，内面横ナデ	床面	100%，PL42

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
95	土師器	坏	13.8	4.2	－	長石・石英	黒褐	良好	体部外面ヘラ削り，内面横ナデ	床 面	98%，PL42
96	土師器	坏	15.0	5.2	－	長石・石英	黒褐	普通	体部外面ヘラ削り後一部磨き，内面横ナデ	床 面	90%，PL42
97	土師器	坏	13.7	4.5	－	長石・石英	にぶい橙	良好	体部外面ヘラ削り後磨き，内面放射状の磨き	床 面	100%，PL42
98	土師器	坏	[14.5]	4.4	－	長石・石英	黒褐	普通	体部外面ヘラ削り後磨き，内面横ナデ	床 面	50%
100	土師器	高坏	－	(8.9)	12.6	長石・石英	にぶい橙	良好	坏部内面下半ヘラ削り，内面横ナデ	床 面	50%
101	土師器	高坏	－	(6.3)	[11.4]	長石・石英	にぶい橙	良好	脚部内・外面ヘラ削り	床 面	35%
104	土師器	甕	21.6	(27.2)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	床 面	65%
105	土師器	甕	27.8	(23.5)	－	雲母・長石・石英	灰褐	良好	体部外面下半焼き，内面ヘラナデ後一部磨き	床 面	80%
862	須恵器	フラスコ瓶	7.8	(8.7)	－	長石・赤色粒子	灰白	良好	ロクロ整形	覆土中	10%，PL42

表2　古墳時代住居跡一覧表

住居跡番号	遺構	主軸方向(長軸方向)	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考(時期)
							竈	土坑	貯蔵穴	ピット	炉	焼失	壁		
10	B3i6	N-12°-E	方形	4.90×4.76	12～26	平坦	一部	4	2			2	自然	土師器，刀子	7世紀後半
11	B3e1	N-42°-W	[方形]	(2.16)×(1.52)	22	平坦	－	－	－	－	－	－	自然		6世紀後葉
16	B4j4	N-9°-W	[方形]	8.96×[8.80]	40	平坦	全周	8	1	4	－	1	自然	土師器，須恵器，刀子	7世紀前半
23	D3a5	N-2°-W	[方形]	(3.52)×3.44	6～14	平坦	一部	1	1	1			自然	土師器	7世紀後半
32	D3a5	N-0°	長方形	4.52×3.77	2～6	平坦	一部	2	－	3	－	－	自然	須恵器	7世紀後半
49	C4d5	N-3°-W	方形	7.42×7.35	59～70	平坦	全周	4	1	7	－	1	自然	土師器，鎌，鉄鏃	7世紀前半
51	C3h7	N-12°-W	方形	5.86×5.70	30～41	平坦	全周	4	2	3	－	2	自然	土師器，須恵器，銅	7世紀後半
54	C3e7	N-0°	方形	4.71×4.65	40	平坦	全周	4	1	－	－	1	人為自然	土師器，土製支脚	7世紀後半
55	C3b2	N-28°-W	方形	9.32×9.25	30～45	平坦	全周	2	2		1	－	自然	土師器	6世紀後葉
60	D5a5	N-28°-W	長方形	3.59×3.10	10	平坦	一部	4	1	－	－	1	自然	土師器	6世紀後葉
63	E3a9	N-28°-W	方形	4.29×4.15	4～12	平坦	一部	4	1	－	1	1	自然	土師器	6世紀後葉
70	E4e1	N-41°-W	[方形]	[5.07]×[4.86]	20	平坦	一部	4	－	－	－	1	自然	土師器	6世紀後葉
78	E4f4	N-38°-W	[方形]	[5.26]	20	平坦	－	2	－	－	－	1		土師器	6世紀後葉
82	C1b0	N-50°-W	方形	5.52×5.58	18～39	平坦	全周	3	1	6	－	1	自然	土師器	6世紀後葉
96	C1e0	N-38°-W	方形	5.44×5.32	10～24	平坦	全周	4	1	－	－	1	自然	土師器，須恵器	6世紀後葉

2　奈良・平安時代の遺構と遺物

今回の調査で，奈良・平安時代の竪穴住居跡81軒と鍛冶工房跡1基，掘立柱建物跡17棟，土坑34基，溝跡3条，遺物包含層1か所，大形竪穴状遺構2基，不明遺構1か所を確認した。以下，検出された遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴住居跡

第1号住居跡（第35図）

位置　調査区の北部のA3g4区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

重複関係　南東コーナー部付近を第1号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　一辺3.44mの方形で，主軸方向はN－1°－Eである。壁高は38cmで，南壁は撹乱を受けて確認できないが，残存する壁は外傾して立ち上がっている。

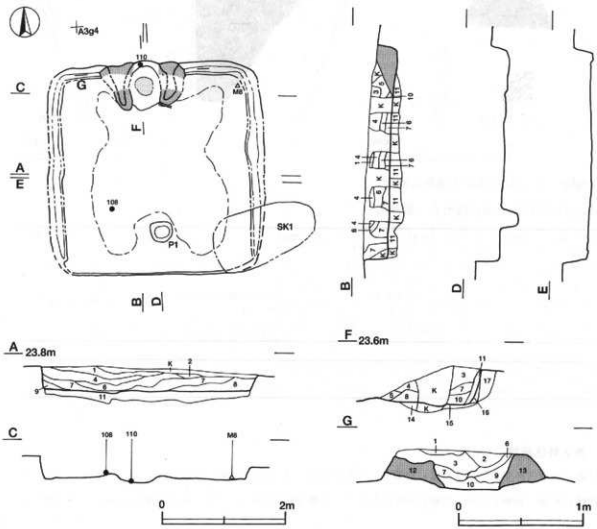
床　ほぼ平坦で，竈の南側から南壁にかけて，中央部が踏み固められている。全面が貼床で，一様に掘り下げられた後に，ローム・ブロックを含む褐色土を埋土として構築されている。壁溝は，撹乱を受けている南壁際を除いて周囲している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで80cm，両袖部幅136cmである。袖部は，床面より10cmほど高く地山を掘り残した上に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床面は，床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用している。火熱により赤変しているが，硬化した面は確認できなかった。煙道は火床面から急に立ち上がっている。煙道部から110の須恵器鉢の大形破片が出土しており，火熱を受けている様子は伺えないが，煙道部の構築材として使用したと考えられる。土層は17層からなり，第１～11層が竈内の覆土，第12・13層が袖部の土層で，第14～17層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1	暗	褐	色	粘土粒子中量，ローム粒子微量
2	暗	褐	色	ロームブロック中量
3	暗	褐	色	炭化物・ロームブロック少量，焼土粒子微量
4	暗	褐	色	ロームブロック少量
5	暗	褐	色	ローム粒子中量，炭化物少量，焼土粒子微量
6	暗	褐	色	粘土粒子多量，ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
7	暗	赤	褐	色	焼土ブロック中量，炭化物・ロームブロック微量
8	褐	暗	褐	色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
9	暗	赤	褐	色	焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量
10	暗	赤	褐	色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
11	暗	赤	褐	色	焼土ブロック・炭化粒子少量
12	灰	黄	褐	色	粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・小礫中量
13	灰	黄	褐	色	粘土粒子多量，砂粒中量，ローム粒子少量
14	褐			色	焼土粒子・ローム粒子微量
15	褐			色	焼土粒子・ローム粒子微量
16	褐			色	焼土粒子少量，炭化粒子・ローム粒子微量
17	暗	褐		色	焼土ブロック・ローム粒子少量

ピット　１か所。主柱穴は，確認できなかった。Ｐ１は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。



第35図　第１号住居跡実測図

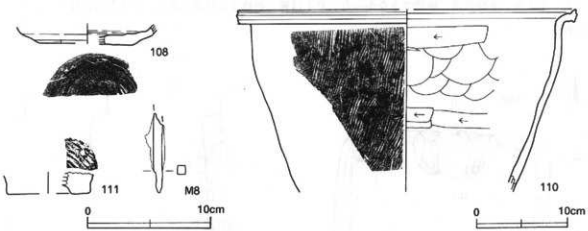
覆土　11層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。第11層は，貼床の埋土である。

土層解説

1	暗　褐　色	ローム粒子微量	
2	暗　褐　色	ローム粒子微量	
3	褐　色	ローム粒子少量	
4	暗　褐　色	ロームブロック微量	
5	暗　褐　色	粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
6	黒　褐　色	ロームブロック・炭化粒子微量	
7	褐　色	ロームブロック微量	
8	褐　色	ロームブロック微量	
9	褐　色	ロームブロック微量	
10	褐　色	粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
11	褐　色	ロームブロック少量	

遺物出土状況　土師器片114点，須恵器片38点，釘１点が，南部を中心に散在して出土している。多くの遺物は覆土中層から出土している。111は須恵器長頸瓶の底部で，覆土中から出土している。竈右袖の南側から，１点の炭化材が出土している。

所見　本跡は床面に焼土や炭化物の分布がなく，覆土にもそれらの含有量が少ないながらも，１点の炭化材が出土していることから焼失住居の可能性が考えられる。時期は，出土土器から８世紀後葉と考えられる。



第36図　第1号住居跡出土遺物実測図

第１号住居跡出土遺物観察表（第36図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
108	須恵器	坏	－	(1.7)	[7.4]	雲母・石英・赤色粒子	褐灰	良好	底部・体部下端回転ヘラ削り	覆土下層	10%
110	須恵器	鉢	[36.8]	(20.1)	－	雲母・長石・石英	にぶい黄褐	良好	体部外面横位の平行叩き，内面ヘラナデ，当て具痕	竈煙道部	30%
111	須恵器	長頸瓶	－	(1.7)	[6.6]	長石	淺黄	良好	上面に凹凸，下面中央に円形の窪み	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M8	釘	(6.5)	0.7	0.7	(20.7)	鉄	断面方形の棒状	覆土下層	

第２号住居跡（第37図）

位置　調査区の北部のＡ３f2区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

規模と形状　長軸4.32m，短軸4.26mの方形で，主軸方向はＮ－７°－Ｗである。壁高は54cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

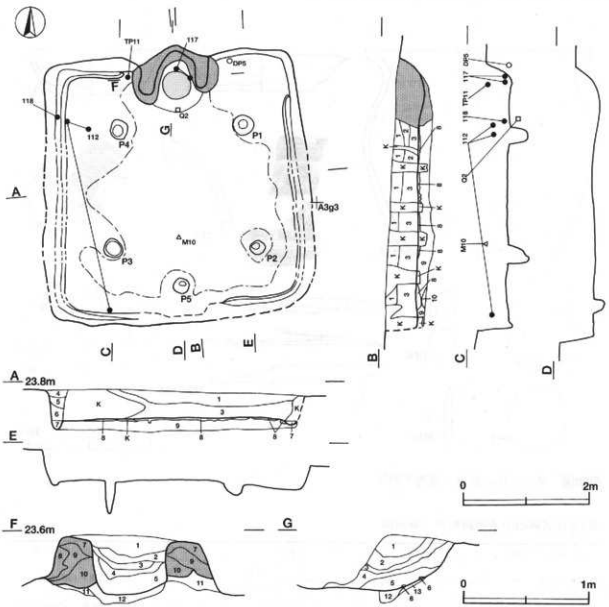
床　ほぼ平坦で，竈の南側から南壁にかけて，南側が開く台形状によく踏み固められている。全面が貼床で，各コーナー部が深く掘り下げられており，ロームブロックを含む褐色土を埋土として構築されている。壁溝は，

南壁際中央が撹乱のために確認できなかったが，北壁の東側を除いて周回していたものと推測される。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで108㎝，両袖部幅137㎝である。袖部は，白色粘土混じりのローム土で構築されている。火床面は，床面から10㎝ほど掘り下げた面を使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は13層からなり，第１～６層が竈内の覆土，第７～10層が袖部の土層で，第11～13層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
2　極暗赤褐色　炭化粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子少量，粘土ブロック微量
3　極暗赤褐色　粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
4　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
5　赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量
6　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物少量，粘土ブロック微量
7　暗褐色　粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物・ロームブロック少量
8　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　にぶい黄褐色　粘土ブロック多量，炭化粒子中量，焼土ブロック少量
10　灰黄褐色　炭化粒子中量，焼土ブロック・粘土粒子微量
11　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量
12　暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量
13　黒褐色　炭化粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子少量，砂粒微量



第37図　第2号住居跡実測図

ピット　5か所。主柱穴は，Ｐ１～４が相当する。深さは，Ｐ２が53cmと深いが，他は30cm前後である。Ｐ５は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

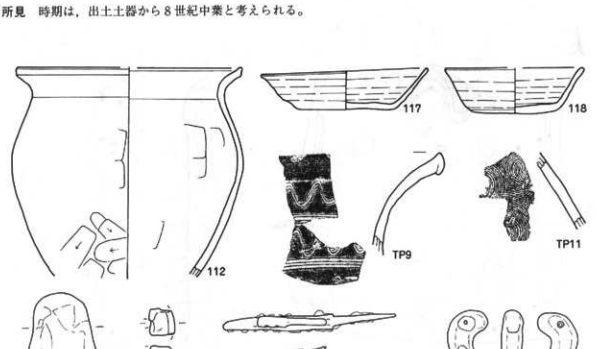
覆土　10層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。第８～10層は，貼床の埋土である。

土層解説

1	暗　褐	色	ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗　褐	色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
2	褐	色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	7	暗　褐	色	ローム粒子少量
3	黒　褐	色	ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8	黒　褐	色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4	暗　褐	色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	9	褐	色	ローム ブロック・焼土粒子少量
5	褐	色	ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10	暗　褐	色	ローム ブロック中量

遺物出土状況　土師器片266点（坏28，甕238），須恵器片38点（坏30，甕８），刀子１点，釘１点，土製支脚１点，土製紡錘車１点，勾玉１点が，ほぼ全域から散在して出土している。全体的に覆土上層からの出土が多い。117の須恵器坏は煙道部から，118の須恵器坏は北西コーナー付近の西壁際の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉と考えられる。



第38図　第２号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
112	土師器	甕	[18.4]	(17.2)	－	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁横ナデ，体部内・外面ヘラナデ，外面下端ヘラ削り	覆土上層	10%
117	須恵器	坏	13.9	3.5	8.0	雲母・長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	覆土下層	60%，PL43
118	須恵器	坏	[11.4]	3.9	7.2	雲母・長石	灰黄	良好	底部二方向のヘラ削り	覆土下層	50%，PL43

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP9	須恵器	甕	－	(8.4)	－	雲母・長石・石英	黄灰	良好	頸部外面波状文，内面横ナデ	覆土中	PL55
TP11	須恵器	甕	－	(6.3)	－	雲母・長石・赤色粒子	灰白	普通	体部外面同心円の叩き，内面ヘラ当て	覆土上層	

番号	器種	口径	底径	器高	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP5	支脚	(8.1)	5.5	4.0	(158.7)	土製	円筒状，無面ナデ	覆土下層	

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP6	紡錘車	(4.6)	(0.6)	2.2	(13.1)	土製	整文，体部外面ナデ，無面下位・底面が煤煙による黒色化	覆土中	PL58

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	勾玉	(3.1)	2.1	1.2	(9.3)	滑石	表面を丁寧に研磨，孔径0.2cmで一方向から穿孔	表土下層	PL59

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M10	鏃	(4.2)	0.6	0.6	(3.0)	鉄	断面方形の棒状	覆土中層	

番号	器種	全長	刀身長	身幅	重ね	茎長	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M9	刀子	14.4	9.1	1.5	0.4	5.3	18.3	鉄	両関	覆土中	PL61
M154	刀子	(5.7)	(2.4)	0.7	0.3	(3.3)	－	鉄	刃部・茎尻欠損	覆土中	PL61

第3号住居跡（第39図）

位置　調査区の北部のA3f5区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

規模と形状　北側が床面下まで削平された状態で検出されたため，ピットの位置から判断して一辺3.5mの方形と推定される。主軸方向はN－10°－Wである。壁の立ち上がりは南壁と西壁で確認され，壁高は5cmでともに外傾して立ち上がっている。

床　確認できた部分は平坦で，壁際を除いてよく踏み固められている。壁溝は，西壁中央から南東コーナー部にかけて確認できた壁際を巡っている。全面が貼床で，各コーナー部が深く掘り込まれ，ロームブロックを含む暗褐色土を埋土として構築している。また，削平された西壁際の一部でも，壁溝が確認できた。

壁　削平により遺存していない。北壁中央部と思われる付近にくぼみがあり，北壁中央に付設されていたものと推測される。

ピット　5か所。主柱穴はP1～4が相当し，深さはP1・2が25cm前，P3・4は45cm前後である。P3からは，柱痕と思われる第1層が確認できた。P5はP2・3の中間で南壁際に位置し，出入り口に伴うピットと考えられる。

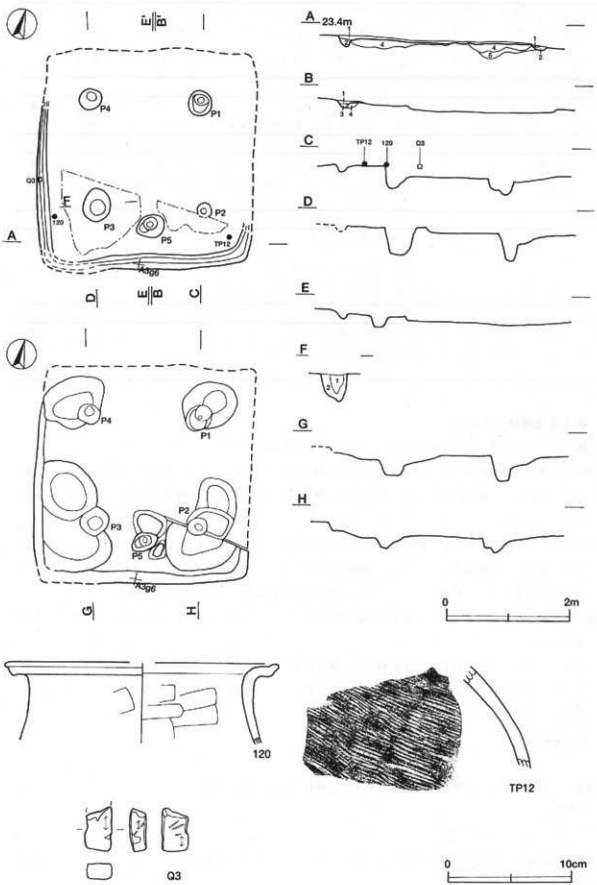
P3土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量　　2　褐　色　ロームブロック微量

覆土　5層からなり，自然堆積である。第4・5層は，貼床の埋土である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
5　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片18点，須恵器片3点，砥石1点が，南部の壁溝沿いから出土している。遺物は覆土下層を中心に出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第39図　第3号住居跡・出土遺物実測図

第３号住居跡出土遺物観察表（第39図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
120	土師器	甕	[22.2]	(6.5)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁横ナデ，体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	5%
TP12	須恵器	甕	－	(8.2)	－	雲母・長石	灰黄	普通	体部外面横位の平行叩き，内面ヘラナデ	床面	

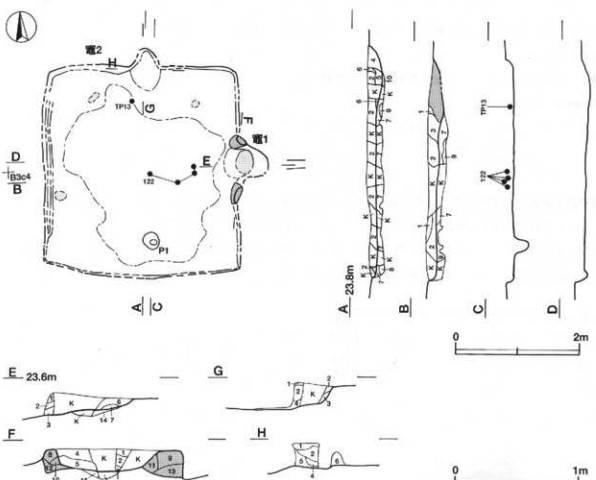
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	砥石	(3.5)	(2.2)	1.3	(14.3)	凝灰岩	片側欠損，砥面3面，溝状の砥面1か所	覆土下層	

第４号住居跡（第40図）

位置　調査区の北部のＢ３c4区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

規模と形状　長軸3.47m，短軸3.18mの方形で，主軸方向はＮ－90°－Ｅである。壁高は15cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部がよく踏み固められている。全面が貼床で，一様に掘り下げられた後，焼土粒子やローム粒子を含む褐色土を埋土として構築している。壁溝は，西壁際の中央にのみ確認できた。北東・北西コーナー部と西壁際の中央付近に焼土が堆積している。



第40図　第4号住居跡実測図

竈　2か所。竈1は東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで70cm，両袖部幅112cmである。袖部は，ローム土を基部にローム土混じりの粘土を貼り付け，さらに粘土を貼り付けて構築されている。撹乱を受けたため，袖は東壁との接続部以外は遺存していない。火床面は，床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。竈1は15層からなり，第1～7層が竈内の覆土，第8～13層が袖部の土層で，第14・15層は竈の掘り方の埋土である。竈2は，北壁中央部に付設され，煙道部だけが遺存している。壁外への掘り込みは32cm，幅は撹乱のために不明である。煙道は，外傾して立ち上がっている。竈2の煙道は6層からなる。竈1が完存し，竈2は煙道部だけが遺存していることから，竈2から竈1へ作り替えたことが考えられる。

竈1土層解説

1	暗　褐　色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量	
2	暗 赤 褐 色	粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量	
3	暗　褐　色	ロームブロック・炭化粒子微量	
4	暗　褐　色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	
5	暗　褐　色	焼土ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	
6	暗　褐　色	炭化物少量，焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	
7	暗 赤 褐 色	焼土ブロック少量，粘土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量	
8	にぶい黄褐色	粘土ブロック多量，ローム粒子微量	
9	灰　褐　色	焼土ブロック多量，粘土ブロック・炭化粒子・ローム粒子中量	
10	褐　　色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量	
11	暗　褐　色	粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量	
12	暗　褐　色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	
13	暗　褐　色	炭化粒子・ローム粒子微量	
14	にぶい赤褐色	焼土ブロック少量	
15	褐　　色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	

竈2土層解説

1	極暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化物・ローム粒子・粘土粒子少量	
2	暗 赤 褐 色	ローム粒子中量，焼土ブロック少量，炭化物微量	
3	褐　　色	ロームブロック少量	
4	暗 赤 褐 色	焼土ブロック少量，ローム粒子微量	
5	暗 赤 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	
6	褐　　色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量	

ピット　1か所。主柱穴は，確認できなかった。P1は竈2と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

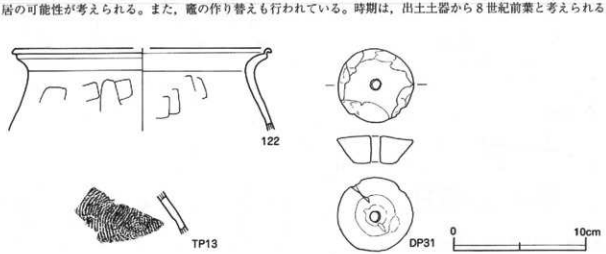
覆土　10層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。第7～10層は，貼床の埋土である。

土層解説

1	暗　褐　色	ロームブロック・焼土粒子微量	
2	黒　褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
3	暗　褐　色	粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
4	暗 赤 褐 色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	
5	暗 赤 褐 色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	
6	暗　褐　色	炭化物・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	
7	褐　　色	ローム粒子微量	
8	褐　　色	ローム粒子少量	
9	明　褐　色	ローム粒子少量	
10	暗 赤 褐 色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量	

遺物出土状況　土師器片179点，須恵器片15点，土製紡錘車1点が，北部の覆土下層を中心に散在して出土している。DP31の紡錘車は撹乱層の中から出土しており，混入の可能性が考えられる。

所見　本跡は床面に3か所の焼土が検出され，覆土中に焼土粒子や炭化粒子の含有が認められるため，焼失住居の可能性が考えられる。また，竈の作り替えも行われている。時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第41図　第4号住居跡出土遺物実測図

第４号住居跡出土遺物観察表（第41図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
122	土師器	甕	[19.4]	(6.3)	－	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁横ナデ，体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	5%
TP13	須恵器	甕	－	(3.3)	－	雲母・長石・石英・小礫	灰	普通	体部外面同心円の叩き，内面ナデ	覆土下層	

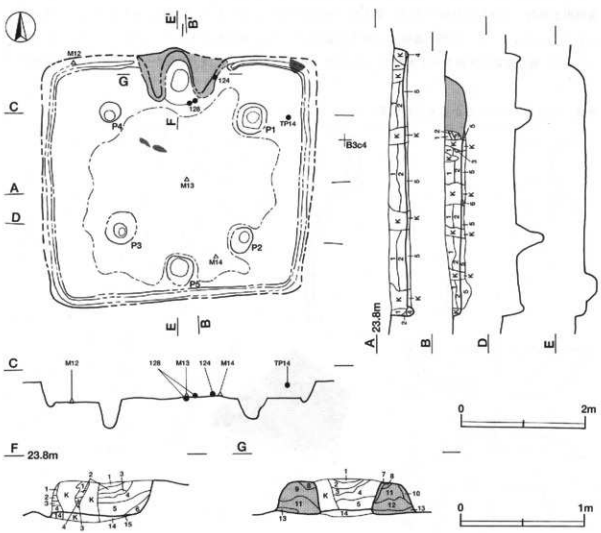
番号	機種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP31	紡錘車	5.8	0.8	2.1	65.6	土製	断面逆台形，外面ヘラ削り	撹乱層内	PL58

第５号住居跡（第42図）

位置　調査区の北部のＢ３c3区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

規模と形状　長軸4.41ｍ，短軸4.04ｍの方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁高は10～30cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈南側から南壁にかけて中央部がよく踏み固められており，壁溝は全周している。北東コーナー部付近と竈の南側に粘土塊が確認されたが，竈の構築材の粘土が流出したものと考えられる。



第42図　第5号住居跡実測図

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで95cm，両袖部幅143cmである。袖部は，砂質粘土で構築されている。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用している。火熱による赤変した面は確認できなかったが，若干の硬化が認められた。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は15層からなり，第１～６層が竈内の覆土，第７～13層が袖部の土層で，第14・15層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1	灰　褐　色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子・砂粒中量		9	暗　褐　色	炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土ブロック・ローム粒子少量	
2	灰　褐　色	焼土ブロック・炭化粒子中量，粘土粒子・砂粒少量		10	暗　褐　色	ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量	
3	にぶい赤褐色	炭化粒子中量，焼土ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子・砂粒微量		11	にぶい褐色	粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子中量，炭化粒子微量	
4	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量，粘土粒子・砂粒少量		12	灰　褐　色	粘土粒子・砂粒多量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量	
5	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量		13	褐　色	粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量	
6	暗　褐　色	焼土粒子・ローム粒子少量		14	暗　褐　色	焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子微量	
7	赤　褐　色	焼土ブロック多量，炭化粒子中量，粘土粒子・砂粒少量		15	黒　褐　色	炭化粒子中量，焼土粒子・ローム粒子微量	
8	にぶい褐色	粘土粒子・砂粒多量，焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子中量					

ピット　５か所。主柱穴は，Ｐ１～４が相当する。深さはＰ２が32cmと浅いが，他は50cm前後である。Ｐ５は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

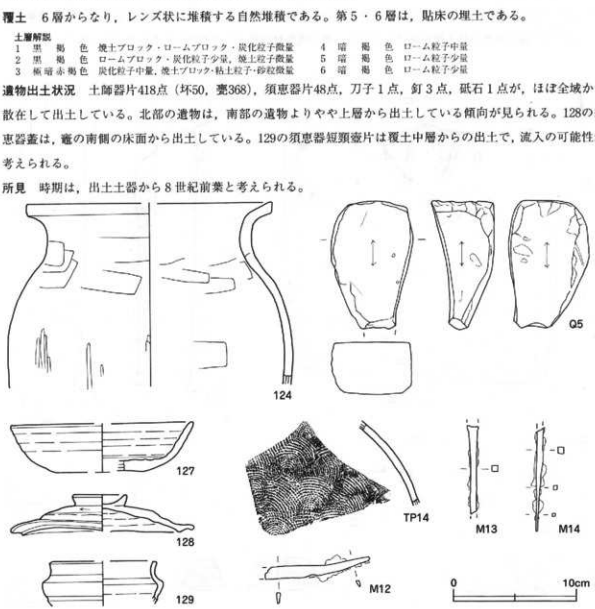
覆土　６層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。第５・６層は，貼床の埋土である。

土層解説

1	黒　褐　色	焼土ブロック・ロームブロック・炭化粒子微量		4	暗　褐　色	ローム粒子中量	
2	黒　褐　色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量		5	暗　褐　色	ローム粒子少量	
3	極暗赤褐色	炭化粒子中量，焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量		6	暗　褐　色	ローム粒子少量	

遺物出土状況　土師器片418点（坏50，甕368），須恵器片48点，刀子１点，釘３点，砥石１点が，ほぼ全域から散在して出土している。北部の遺物は，南部の遺物よりやや上層から出土している傾向が見られる。128の須恵器蓋は，竈の南側の床面から出土している。129の須恵器短頸壺片は覆土中層からの出土で，流入の可能性が考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第43図　第5号住居跡出土遺物実測図

第５号住居跡出土遺物観察表（第43図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
124	土師器	甕	20.0	(14.8)	－	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁横ナデ，体部外面下位ヘラ削り，内面・外面上位ヘラナデ	床　面	10%
127	須恵器	坏	(14.8)	4.0	(7.6)	雲母・長石	灰黄褐	良好	底部回転ヘラ削り	覆土中	10%
128	須恵器	蓋	(14.8)	3.2	－	雲母・長石	灰	良好	天井部左回りの回転ヘラ削り	床　面	60%，PL43
129	須恵器	短頸壺	(8.4)	(3.6)	－	長石・石英	灰黄	良好	ロクロ整形，口縁横ナデ	覆土中	5%
TP74	須恵器	甕	－	(7.0)	－	雲母・長石・石英	灰	普通	体部外面回転ヘラ削りの痕，内面ヘラナデ	覆土中層	PL55

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q5	砥石	(10.9)	6.7	4.3	413.2	凝灰岩	砥面3面	覆土中	PL59
M13	釘	(7.3)	(0.9)	0.5	(9.5)	鉄	断面方形の棒状	覆土下層	PL62
M14	釘	(8.6)	0.5	0.5	(8.0)	鉄	断面方形の棒状，端が尖る	覆土下層	PL62

番号	器種	全長	刀身長	身幅	重ね	茎長	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M12	刀子	(8.8)	(3.8)	1.0	0.3	5.0	(6.7)	鉄	刃部欠損，片刃	覆土下層	PL61

第６号住居跡（第44図）

位置　調査区の北部のＢ３ｃ1区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

重複関係　第11号住居跡の東部を掘り込んでいる。

規模と形状　西側部分が調査区域外に延びているため，南北軸4.15m，東西軸2.60mだけが確認された。形状は方形または長方形と推定され，主軸方向はＮ－10°－Ｅである。壁高は44cmで，北壁はほぼ直立し，東壁・南壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈の南側から南壁にかけて，中央部がよく踏み固められている。壁溝は，東壁際のみ巡っている。竈の東側に焼土の広がりが確認できた。

竈　北壁に付設されている。規模は，西側が調査区域外のため，確認できた部分のみで焚口部から煙道部まで110cm，両袖部幅62cmである。袖部は，ローム土混じりの粘土で構築されている。火床面は，床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し，火熱により赤変硬化している。鍋底は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は20層からなり，第１～16層が竈内の覆土，第17～20層が袖部の土層である。

竈土層解説

1	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	
2	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量，粘土粒子極微量	
3	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	
4	灰褐色	焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量	
5	灰褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	
6	灰褐色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	
7	にぶい褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	
8	暗褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	
9	灰褐色	粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
10	暗赤褐色	粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量	
11	暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量	
12	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	
13	にぶい褐色	焼土ブロック微量	
14	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	
15	にぶい赤褐色	焼土ブロック少量，粘土粒子微量	
16	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量	
17	灰褐色	粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量	
18	暗褐色	ローム粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	
19	灰褐色	粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	
20	にぶい褐色	粘土粒子少量，焼土粒子微量	

ピット　２か所。主柱穴はＰ１・２が相当し，深さはＰ１が38cm，Ｐ２が47cmである。

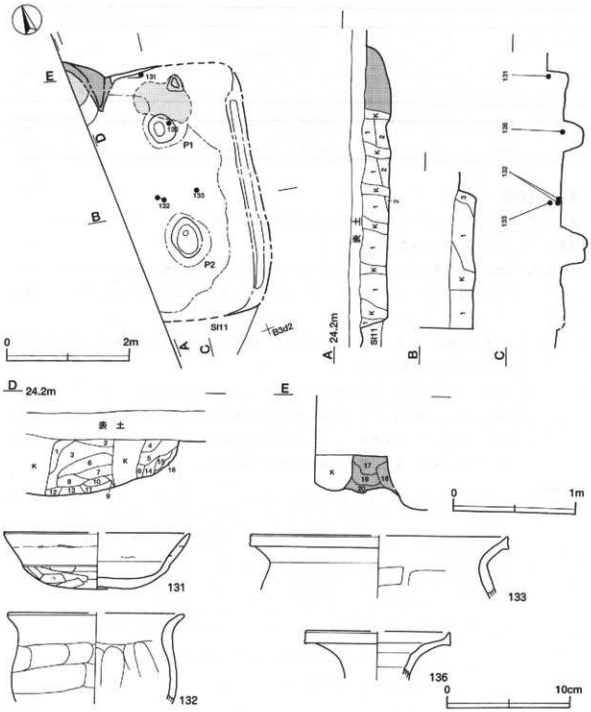
覆土　３層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ローム ブロック・炭化粒子中量，焼土ブロック少量，粘土粒子・微粒微量	
2	暗褐色	焼土ブロック中量，炭化粒子・ローム粒子少量	
3	褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	

遺物出土状況　土師器片322点（坏47，甕275），須恵器片28点が，ほぼ全域から散在して出土している。遺物の出土レベルは全体的に高く，北部では覆土上層，南部では覆土中層から多く出土している。131の土師器坏は北壁際の覆土上層から出土している。136の須恵器長頸瓶の口縁部は北東コーナー部の床面から出土している。

所見　本跡は，竈の東側の床面に焼土が確認でき，覆土にも多量の焼土ブロックや炭化粒子の含有が確認されたことから，焼失住居の可能性が考えられる。時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第44図　第６号住居跡・出土遺物実測図

第６号住居跡出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
131	土師器	坏	[15.2]	4.6	－	雲母・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	普通	口縁横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ	覆土上層	60%，底部外面黒斑状跡 PL43
132	土師器	小形甕	[14.6]	(7.3)	－	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	口縁横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	覆土下層	10%
133	土師器	甕	[21.0]	(5.1)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁横ナデ，体部内面ヘラナデ	覆土上層	5%
136	須恵器	長頸瓶	[12.9]	(3.9)	－	緻密	黄灰	良好	ロクロ整形	床面	10%

第７号住居跡（第45図）

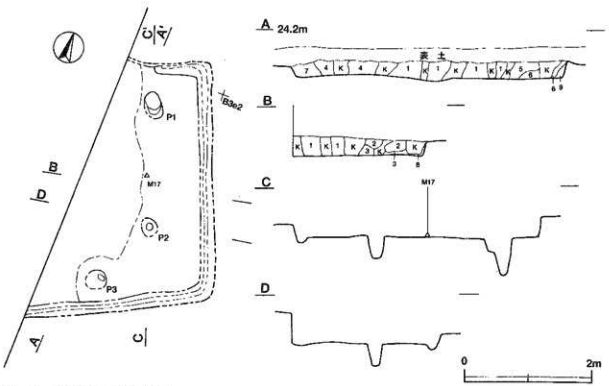
位置　調査区の北部のＢ３e1区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

規模と形状　西側部分が調査区域外に延びているため，南北軸3.92m，東西軸2.53mだけが確認された。形状は，方形または長方形と推定され，主軸方向はＮ－20°－Ｗである。壁高は18～32cmで，北壁はほぼ直立し，東壁・南壁は外傾して立ち上がっている。

床　確認されていた部分は平坦で，北壁から南壁にかけて中央部がよく踏み固められている。壁溝は，確認された壁際を巡っている。

竈　北壁に付設されていると推測されるが，調査区域外であるため不明である。

ピット　３か所。主柱穴はＰ１・２が相当し，深さはＰ１が60cm，Ｐ２が38cmである。Ｐ３は南壁の中央に位置すると推測され，出入り口に伴うピットと考えられる。



第45図　第7号住居跡実測図

覆土　9層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説
1　極暗褐色　ローム ブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム ブロック少量，焼土ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム ブロック中量
4　暗　褐　色　ローム ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　極暗褐色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
6　暗　褐　色　ローム ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
7　褐　褐　色　ローム ブロック中量
8　暗　褐　色　ローム ブロック少量
9　黒　褐　色　ローム ブロック中量

遺物出土状況　土師器片142点，須恵器片32点，釘1点が，北部を中心に散在して出土している。多くの遺物が覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第46図　第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表（第46図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M17	釘	(5.6)	0.6	0.6	(5.3)	鉄	断面方形の棒状	覆土下層	PL.62

第8号住居跡（第47図）

位置　調査区の北部のB3g2区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

規模と形状　長軸5.08m，短軸5.05mの方形で，主軸方向はN－20°－Wである。壁高は11～23cmで，北壁・西壁はほぼ直立し，南壁・東壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈の南西側から中央部がよく踏み固められている。全面が貼床で，各コーナー部が深く掘り込まれ，ローム粒子を含む褐色土を埋土として構築している。壁溝は，全周している。焼土が竈の西側，北東コーナー部，南壁際の東寄りで確認できたが，床面は焼土化していない。

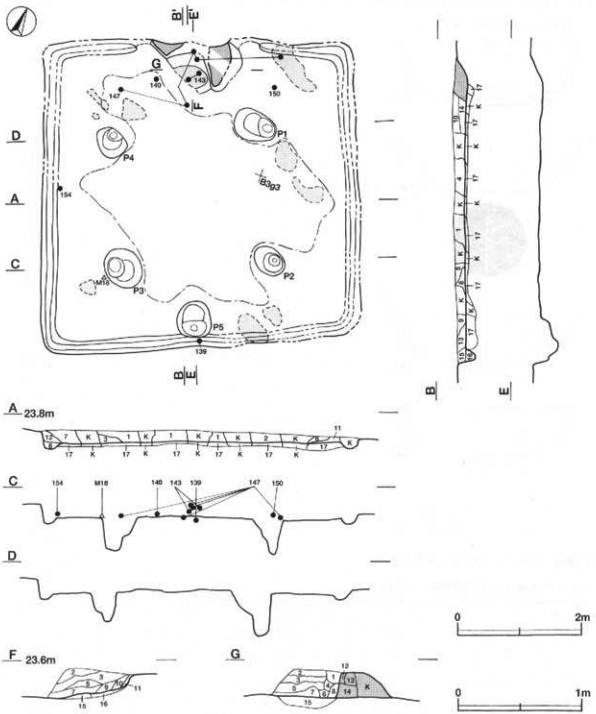
竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで84cm，両袖部幅140cmである。袖部は，地山を掘り残した上に粘土混じりのローム土を貼り付けて構築されている。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は16層からなり，第1～11層が竈内の覆土，第12～14層が袖部の土層で，第15・16層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説
1　極暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
2　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
3　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
4　黒　褐　色　炭化物・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
5　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
6　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
7　赤　褐　色　焼土ブロック・炭化物少量
8　極暗赤褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック微量
9　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
10　暗　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
11　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子・ローム粒子微量
12　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・粘土粒子微量
13　にぶい褐色　粘土粒子少量，焼土粒子・ローム粒子微量
14　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
15　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム ブロック・粘土粒子微量
16　褐　色　ローム粒子微量

ピット　5か所。主柱穴は，P1～4が相当する。深さは，P1が73cmと深いが，他は50cm前後である。P5は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土　17層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。第17層は，貼床の埋土である。

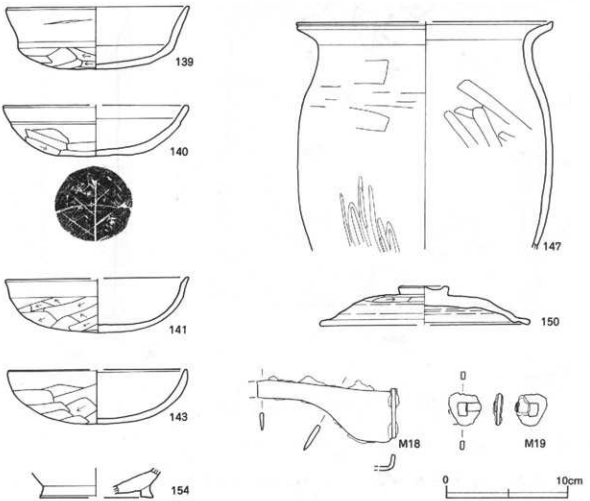
土層解説
1　極暗褐色　焼土粒子少量，炭化物・ローム ブロック微量
2　極暗褐色　焼土粒子・ローム粒子少量，炭化物微量
3　暗　褐　色　ローム ブロック中量
4　暗　褐　色　炭化物・ローム ブロック少量，焼土ブロック微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック微量
6　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化物微量
7　暗　褐　色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8　暗　褐　色　ローム ブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
9　極暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　暗　褐　色　ローム ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　暗　褐　色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量
13　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量
14　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム ブロック微量
15　暗　褐　色　ローム ブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
16　暗　褐　色　ローム ブロック少量
17　黒　褐　色　ローム粒子少量



第47図　第8号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片506点（坏88，甕418），須恵器片48点，灰釉陶器片1点，鎌1点，不明鉄製品1点が，南西部を中心に散在して出土している。多くの遺物は，覆土下層から出土している。139の土師器坏は南壁中央に立てかけられるように，143の土師器坏は竈の覆土上層から，140の土師器坏は竈の南西側の床面から，150の須恵器蓋は竈東側の覆土下層から出土している。154は灰釉陶器長頸瓶の底部片で覆土下層からの出土であるが，混入したものと考えられる。

所見　本跡は，床面の焼土塊や覆土中の焼土粒子や炭化粒子の含有から，焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第48図　第8号住居跡出土遺物実測図

第８号住居跡出土遺物観察表（第48図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
139	土師器	坏	14.4	4.9	－	長石	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，口縁・体部内面横ナデ	覆土下層	70%，PL43
140	土師器	坏	[14.6]	4.0	－	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，口縁・体部内面横ナデ	床　面	60% 底部外面墨書 PL43・56
141	土師器	坏	[14.4]	4.3	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り，口縁・体部内面横ナデ	覆土下層	50%，PL43
142	土師器	坏	[14.0]	4.2	－	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，口縁・体部内面横ナデ	床　面	50%，PL43
147	土師器	甕	[21.0]	(18.6)	－	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁横ナデ，体部内面・外面上位ヘラナデ，外面下位ヘラ削り	覆土下層・覆土下層	40%，PL45
150	須恵器	蓋	[17.2]	3.2	－	雲母・長石・石英	灰黄	良好	天井部右回りの回転ヘラ削り	覆土下層	40%
154	灰釉陶器	長頸瓶	－	(2.3)	[9.0]	緻密	灰白・オリーブ	良好	ロクロ整形，高台貼り付け	覆土下層	5%

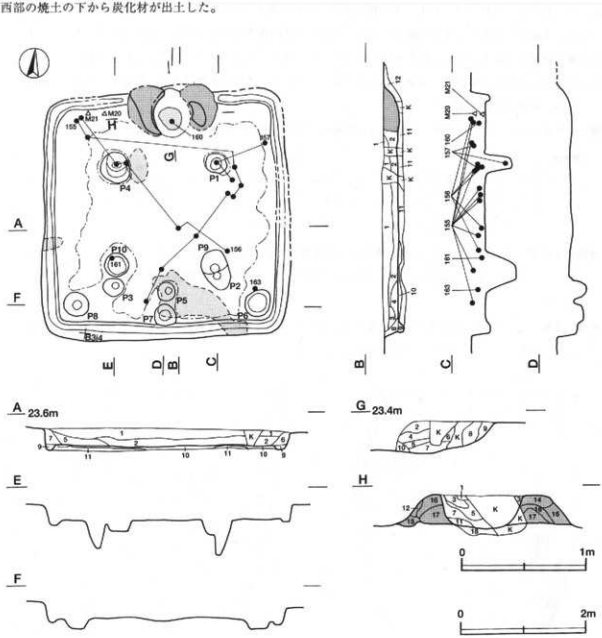
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M18	鎌	(11.4)	4.4	0.4	(43.4)	鉄	切先欠損，刃部若干湾曲，基部は全体を折り返す	覆土下層	PL60
M19	不　明	2.6	(2.7)	0.7	(5.8)	鉄	方形の中央に長方形の孔，片側に孔を巡る板状の部分有	覆土中	PL62

第９号住居跡（第49図）

位置　調査区の北部のＢ３h4区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

規模と形状　長軸4.00m，短軸3.98mの方形で，主軸方向はＮ－７°－Ｗである。壁高は28cmで，各壁ともほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，西壁際と各コーナー部付近を除いて，全面がよく踏み固められている。全面が貼床で，各ピットの周辺が深く掘り込まれ，ロームブロックを含む褐色土を埋土として構築している。壁溝は，全周している。焼土が南壁際と竈の南西部で確認でき，南壁際は広い範囲で床面まで焼土が堆積している。また，竈の南西部の焼土の下から炭化材が出土した。



第49図　第９号住居跡実測図

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで84cm，両袖部幅146cmである。袖部は，砂質粘土で構築されている。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用している。火熱により若干赤変はしているが，硬化した面は確認できなかった。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は18層からなり，第１～

11層が竈内の覆土，第12～17層が袖部の土層で，第18層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1 暗　褐　色　ロームブロック少量
2 暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3 暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量，焼土ブロック微量
4 にぶい黄褐色　粘土粒子多量，砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
5 暗 赤 褐 色　焼土ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子少量，炭化物微量
6 にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子・ローム粒子微量
7 暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭中量，ローム粒子少量
8 暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
9 暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
10 極暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
11 暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化物・ローム粒子・灰少量
12 暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量
13 暗　褐　色　ローム粒子中量，粘土粒子・砂粒少量
14 にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子・ローム粒子少量
15 黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量
16 灰 黄 褐 色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子少量，炭化粒子・ローム粒子微量
17 黒　褐　色　粘土ブロック・砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子微量
18 暗　褐　色　ロームブロック少量

ピット　10か所。主柱穴は，Ｐ１～４が相当する。Ｐ１の覆土下層からは157の土師器甕の口縁片が出土しているが，床面から出土した破片と接合できたことから，柱の抜き取り時に混入したものと考えられる。Ｐ５・７は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。Ｐ９・10は，主柱穴であるＰ２・３の北側に位置するが柱痕が確認できず深さも大きく違うことから，性格は不明である。Ｐ６・８は深さ20cmほどのピットで，性格は不明である。

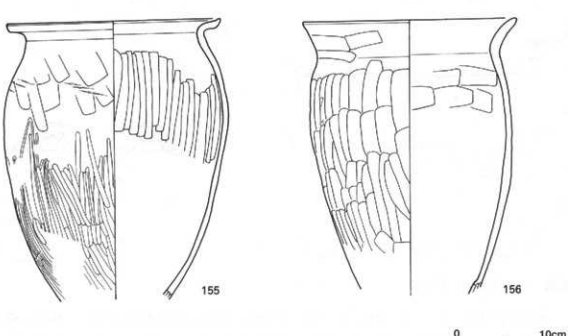
覆土　12層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。第10～12層は，貼床の埋土である。

土層解説

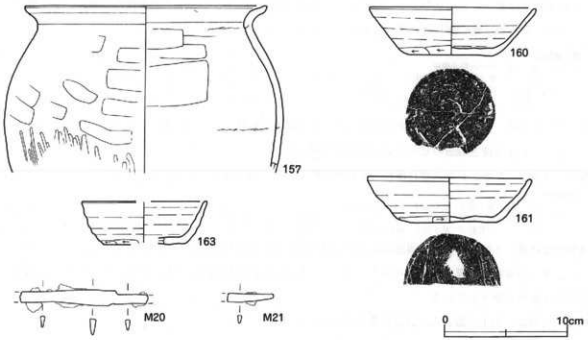
1 黒　褐　色　炭化粒子・ローム粒子少量，焼土粒子微量
2 極 暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
3 暗　褐　色　ロームブロック微量
4 暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
5 極暗褐色　炭化粒子少量，焼土ブロック・ロームブロック微量
6 暗　褐　色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
7 極 暗 褐 色　ローム粒子少量
8 極暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
9 褐　色　ローム粒子中量
10 暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
11 褐　色　ロームブロック少量
12 褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片449点（坏34，甕415），須恵器片55点（坏48，甕７），刀子２点が，ほぼ全域から散在して出土している。多くの遺物は，覆土下層から出土している。163の須恵器坏は南東コーナー部付近の覆土下層から出土している。

所見　本跡は，焼土塊や炭化材の存在や覆土中に焼土粒子や炭化粒子を含有していることから，焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から８世紀中葉と考えられる。



第50図　第９号住居跡出土遺物実測図



第51図　第９号住居跡出土遺物実測図(1)

第９号住居跡出土遺物観察表（第50・51図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
155	土師器	甕	22.6	(30.5)	－	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁横ナデ，体部内面・外面上位ヘラナデ，外面下位ヘラ磨き	覆土下層	50%，PL44
156	土師器	甕	22.8	(30.0)	－	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁横ナデ，体部内面・外面上位ヘラナデ，外面下位ヘラ削り	覆土下層	50%，PL44
157	土師器	甕	[26.4]	(18.2)	－	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁横ナデ，体部内面・外面上位ヘラナデ，外面下位ヘラ磨き	覆土下層	30%
160	須恵器	坏	13.6	3.9	7.0	雲母・長石・石英	灰	良好	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	70%，PL43
161	須恵器	坏	13.3	3.9	8.0	雲母・長石	灰白	不良	底部多方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	50%，PL43
163	須恵器	坏	[10.4]	3.5	[6.6]	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部多方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	20%

番号	器種	全長	刀身長	身幅	重ね	茎長	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M20	刀子	(10.5)	(8.0)	1.3	0.5	(2.5)	(12.2)	鉄	刃部・茎尻欠損，両関	覆土中	PL61
M21	刀子	(3.9)	－	－	0.3	(3.9)	(2.1)	鉄	茎部破片，茎尻は潰る	覆土下層	

第12号住居跡（第52図）

位置　調査区の北部のＡ４d3区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

規模と形状　長軸3.27ｍ，短軸3.07ｍの方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｗである。東壁・西壁の中央部より北側の壁の上層は撹乱を受けているが，壁高は10～25cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。全面が貼床で，北東・北西コーナー部を深く掘り込み，ロームブロックを含む暗褐色土を埋土として構築している。壁溝は，東壁際の南寄りが撹乱を受けて確認できないが，全周していたものと推測される。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで82cm，両袖部幅104cmである。袖部は，粘土混じりのローム土で構築されている。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用し，火熱により赤変硬化してい

る。煙道は火床面から急に立ち上がっている。土層は8層からなり，第1～6層が竈内の覆土，第7層が袖部の土層で，第8層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1	黒	褐	色	ローム粒子微量	5	黒	褐	色	炭化物・焼土粒子・ローム粒子少量
2	黒	褐	色	粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	6	暗	赤	褐	色	焼土ブロック中量，ローム粒子少量
3	灰	黄	褐	色	粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量	7	暗	褐	色	焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量
4	暗	赤	褐	色	焼土ブロック・粘土粒子少量	8	暗	褐	色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量

ピット　2か所。主柱穴は，確認できなかった。P1は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。P2は深さ42cmのピットで，性格は不明である。

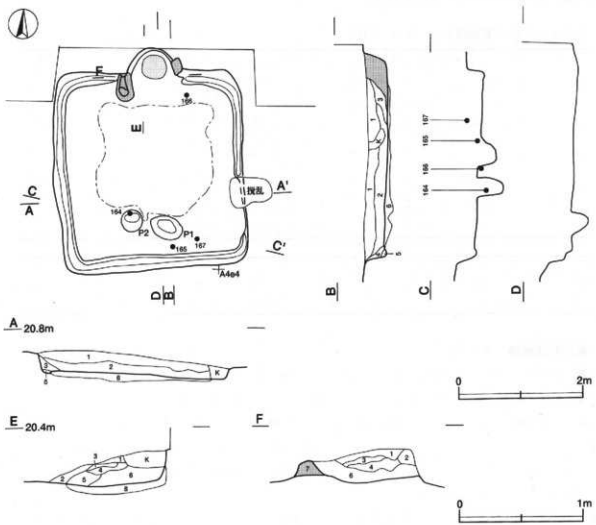
覆土　6層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。第6層は，貼床の埋土である。

土層解説

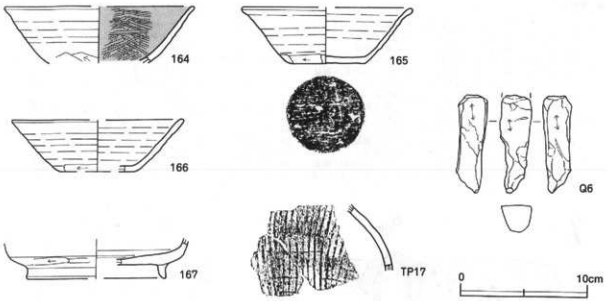
1	黒	褐	色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	4	暗	褐	色	ロームブロック少量
2	極	暗	褐	色	焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量	5	暗	褐	色	ローム粒子微量
3	黒	褐	色	炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量	6	暗	褐	色	ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片46点，須恵器片35点，砥石1点が，住居中央部から南東部にかけて点在して出土している。多くの遺物は，覆土下層から出土している。164の土師器坏はP2の覆土中層から，165の須恵器坏は南壁際の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第52図　第12号住居跡実測図



第53図　第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表（第53図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
164	土師器	坏	[15.0]	(4.5)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き	覆土下層	10%
165	須恵器	坏	[13.4]	4.4	6.0	雲母・長石・石英	灰	普通	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	床　面	80%，PL44
166	須恵器	坏	[13.7]	4.2	[6.0]	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部ヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	30%
167	須恵器	高台付坏	－	(3.2)	[6.0]	雲母・長石・石英	にぶい黄	普通	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け	覆土下層	20%
TP17	須恵器	甕	－	(5.3)	－	雲母・長石・石英・小礫	灰黄	普通	体部外面縦位の平行叩き，内面当て具痕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q6	紡錘石	7.8	2.5	2.1	43.7	凝灰岩	紡面3面，溝状の紡面1か所	覆土中	

第13号住居跡（第54図）

位置　調査区の中央部のＢ４j1区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

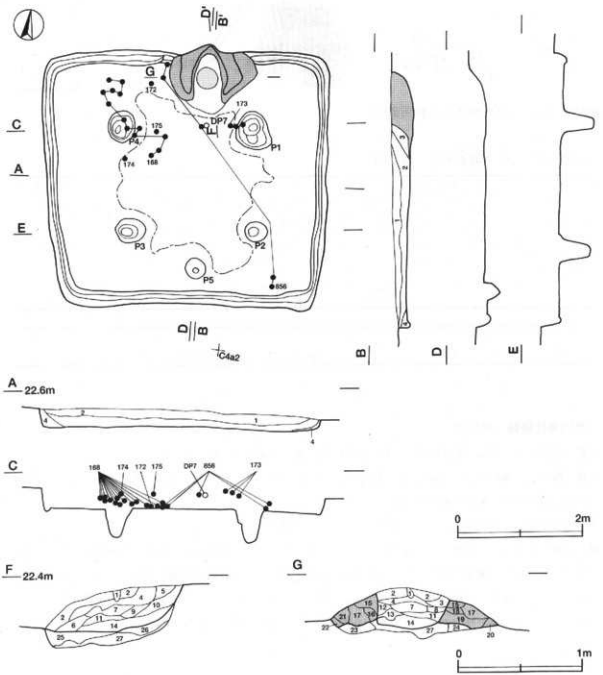
規模と形状　長軸4.56m，短軸4.12mの長方形で，主軸方向はＮ－６°－Ｗである。壁高は16～38cmで，北壁・西壁はほぼ直立し，南壁・東壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。壁溝は，全周している。

竈　北壁中央部のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで111cm，両袖部幅143cmである。袖部は，砂質粘土で構築されている。火床面は，床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用している。火熱により赤変しているが，硬化した面は確認できなかった。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は27層からなり，第１～14層が竈内の覆土，第15～22層が袖部の土層で，第23～27層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1 褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量
2 暗　褐　色　ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3 暗　褐　色　焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
4 暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
5 暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
6 暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
7 褐　色　粘土粒子少量,焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
8 暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量9　暗褐色 焼 土粒子・粘土粒子少量,ローム粒子微量
10 暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
11 暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
12 褐　色　焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
13 暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量,ローム粒子微量
14 黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
15 暗　褐　色　粘土粒子・砂粒多量,焼土粒子・ローム粒子少量
16 暗 赤 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子少量
17 灰 黄 褐 色　粘土粒子・砂粒多量,ローム粒子少量
18 褐　色　ローム粒子多量,粘土粒子・砂粒中量,焼土ブロック少量
19 暗 赤 褐 色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量,焼土ブロック・炭化粒子少量
20 暗　褐　色　粘土粒子・砂粒多量,ローム粒子中量,焼土ブロック少量
21 暗　褐　色　炭化物・ロームブロック少量,焼土粒子微量
22 黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
23 褐　色　ロームブロック少量,焼土粒子微量
24 暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量,焼土粒子少量
25 暗　褐　色　炭化物・ロームブロック・焼土粒子微量
26 黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
27 極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量



第54図　第13号住居跡実測図

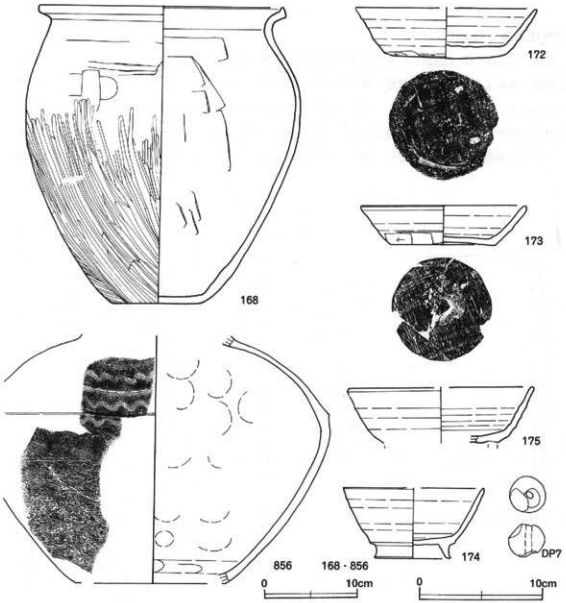
ピット　5か所。主柱穴はＰ１～４が相当し，深さは45～55cmである。Ｐ５は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土　４層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　炭化物・ロームブロック・焼土粒子少量，砂粒微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片383点（坏20，甕363），須恵器片114点（坏84，高台付坏２，甕28），土玉１点が，竈の周辺を中心に全域から散在して出土している。多くの遺物が覆土中・上層から出土している。172の須恵器坏は竈左袖の西側の覆土下層から，856の須恵器甕は南東コーナー部付近の覆土下層から出土している。174の須恵器高台付坏は，覆土上層からの出土であり流れ込みと考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第55図　第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表（第55図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
168	土師器	甕	26.0	32.3	9.6	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁横ナデ，体部外面ヘラナデ後磨き，内面ヘラナデ	覆土下層	70%，PL44
172	須恵器	坏	[14.8]	4.1	9.8	長石・石英	灰白	普通	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	60%，PL44
173	須恵器	坏	13.3	3.3	8.4	雲母・長石・石英	黄灰	良好	底部多方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	60%
174	須恵器	高台付坏	[11.4]	5.7	6.2	雲母・長石・赤色粒子	灰黄褐	良好	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け	覆土上層	40%，PL44
175	須恵器	高台付坏	[15.0]	(4.5)	－	雲母・長石	灰	良好	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け	覆土上層	20%
856	須恵器	甕	－	(27.1)	[16.0]	雲母・長石	灰褐	良好	体部外面同心円の叩き後，波状文の掻描き	覆土下層	10%，PL44

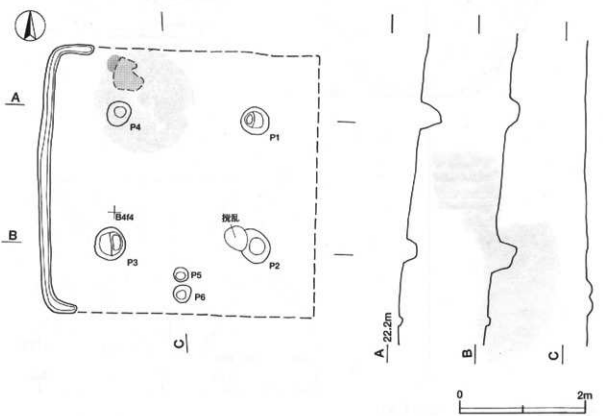
番号	器種	長さ	径	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP7	土玉	2.6	3.0	0.5	19.4	土製	断面円形	覆土上層	PL59

第14号住居跡（第56図）

位置　調査区の北部のＢ４e4区に位置し，東に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状　床面まで削平された状態で検出されたため，ピットの位置から判断して，Ｎ－２°－Ｗを主軸とする一辺4.26ｍほどの方形と推定される。残存する西壁の壁高は５㎝で，壁は緩やかに立ち上がっている。

床　床面まで削平されていたため，特に硬化した面は確認できなかった。壁溝は，削平の度合いの少ない北西コーナー部から南西コーナー部にかけて確認できた壁際を巡っている。北壁際の西部から粘土と焼土が確認された。



第56図　第14号住居跡実測図

竈　北壁に付設されていたと推測されるが，痕跡はなく不明である。北壁際の西部から確認された粘土と焼土はＰ４の真北に位置するため，竈の残存とは考えにくい。

ピット　６か所。主柱穴はＰ１～４が相当し，深さは18～36cmである。Ｐ５・６はＰ２・３の中間で南壁際の中央に位置し，出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土　確認できなかった。

遺物出土状況　土師器片３点が出土している。小片であり，図示できなかった。

所見　時期は，出土土器片や主軸方向から８世紀代と考えられる。

第15号住居跡（第57図）

位置　調査区の東部のＢ４区に位置し，東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係　第16号住居跡の北西部を掘り込んでいる。また，東壁中央部を第42号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.28m，短軸2.78mの長方形で，主軸方向はＮ－４°Ｗである。壁高は12～22cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部とＰ１の東側がよく踏み固められている。壁溝は，攪乱を受けた東壁の中央を除いて周回しており，全周していたものと推測される。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで106cm，両袖部幅128cmである。袖部は，粘土混じりのローム土に粘土を貼り付けて構築されている。火床面は，床面をやや掘り下げた平坦面を使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は37層からなり，第１～19層が竈内の覆土，第20～35層が袖部の上層で，第36・37層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1	暗褐色	焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量		19	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	
2	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量		20	暗褐色	粘土ブロック・焼土粒子・ローム粒子微量	
3	暗褐色	粘土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量		21	灰褐色	粘土粒子少量，焼土粒子・ローム粒子微量	
4	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量		22	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量	
5	暗褐色	焼土粒子少量，炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量		23	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	
6	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子微量		24	暗褐色	粘土ブロック中量，ローム粒子微量	
7	暗褐色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量		25	暗褐色	焼土粒子・粒土粒子少量，炭化粒子・ローム粒子微量	
8	褐色	焼土粒子少量，粘土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量		26	にぶい褐色	粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量	
9	褐色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量		27	にぶい黒色	粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量	
10	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量		28	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量	
11	暗褐色	粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量		29	黒褐色	焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	
12	暗褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子微量		30	灰褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	
13	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量		31	灰褐色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	
14	暗褐色	焼土粒子・ローム粒子微量		32	灰褐色	粘土ブロック・焼土粒子・ローム粒子微量	
15	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量		33	褐色	焼土粒子・ローム粒子微量	
16	にぶい赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量		34	暗褐色	粘土ブロック・焼土粒子・ローム粒子微量	
17	にぶい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量		35	暗褐色	ローム粒子微量	
18	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量		36	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量	
				37	暗褐色	焼土粒子微量	

ピット　１か所。主柱穴は，確認できなかった。Ｐ１は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

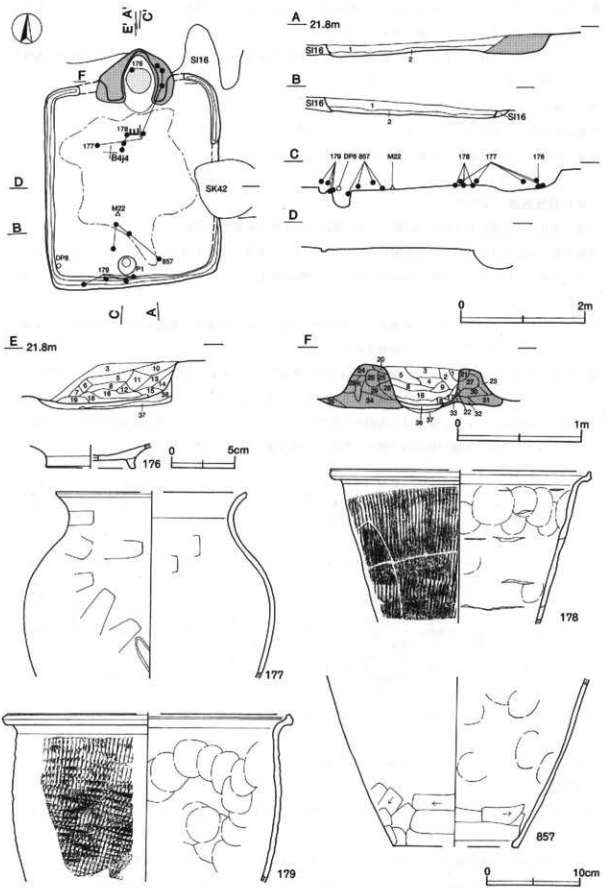
覆土　２層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

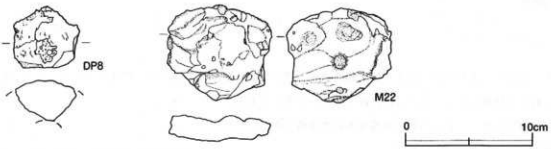
1	暗褐色	ロームブロック少量	
2	極暗褐色	ロームブロック・砂粒少量，焼土ブロック微量	

遺物出土状況　土師器片250点（坏23，甕227），須恵器片55点（坏23，甕31，瓶１），鞴羽口１点，鉄滓１点，鍛造剥片が，竈の南側と南部の中央から集中して出土している。多くの遺物は，覆土下層から出土している。176の土師器高台付皿は竈覆土下層から，ＤＰ８の鞴羽口は南西コーナー部付近の覆土下層から出土している。

所見　本跡は，鍛冶炉は確認できなかったものの鞴羽口や鉄滓・鍛造剥片が検出されていることから，鍛冶に関わる作業を行った可能性が考えられる。時期は，出土土器から９世紀後葉と考えられる。



第57図　第15号住居跡・出土遺物実測図



第58図　第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表（第57・58図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
176	土師器	高台付皿	－	(1.9)	[7.0]	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け	竈覆土下層	30%
177	土師器	甕	[20.6]	(20.0)	－	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁横ナデ，体部外面下位ヘラ磨き，内面・外面上位ヘラナデ	覆土下層	20%
178	須恵器	瓶	[27.8]	(16.5)	－	雲母・長石・赤色粒子	灰	良好	体部外面縦位の平行叩き，内面当て具痕・輪積み痕	覆土下層	20%
179	須恵器	瓶	[30.4]	(18.2)	－	雲母・長石・石英・赤色粒子	褐灰	良好	体部外面縦位の平行叩き，内面当て具痕	覆土下層	50%
857	須恵器	瓶	－	(8.3)	[13.4]	雲母・長石・石英・赤色粒子	黒褐	良好	体部外面縦位の平行叩き，内面当て具痕	覆土下層	20%

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP8	鞭羽口	(4.9)	[9.2]	[3.0]	(64.0)	土製	外面鉄滓付着	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M22	鉄滓	7.5	8.3	2.2	179.1	鉄	椀形滓	床面	PL62

第17号住居跡（第59図）

位置　調査区の東部のＢ４j6区に位置し，東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係　北東コーナー部付近を第25号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　床面まで削平された状態で検出されたので，ピットの位置から判断して，Ｎ－３°－Ｅを主軸とする長軸3.45m，短軸3.25mの方形と推定される。壁高は９～22cmで，西壁と一部が残存する南壁はほぼ直立し，北壁は外傾して立ち上がっている。

床　東側以外は露呈しており，ほぼ平坦で，竈の左袖の南側から南壁にかけて中央部がよく踏み固められている。壁溝は，確認された壁際を巡っている。

竈　北壁中央部のやや東寄りに付設されている。遺存状態が悪く，右袖は遺存していない。袖部は，粘土混じりのローム土で構築されている。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用しており，火熱による若干の赤変は確認できたが，硬化はしていない。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は４層からなり，いずれも竈内の覆土である。

竈土層解説
1　暗　褐　色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子・ローム粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子微量
4　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量

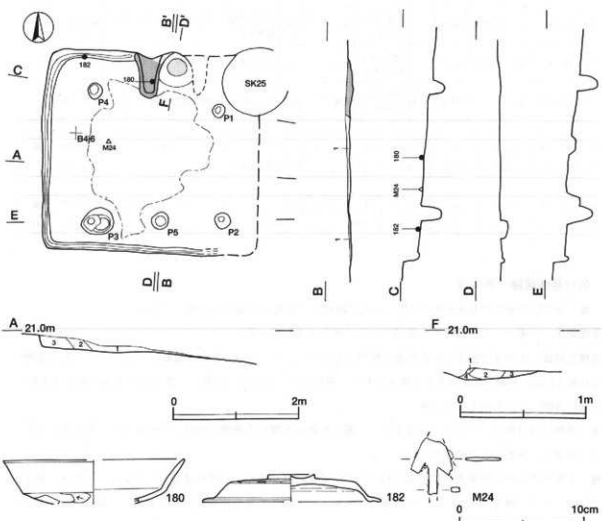
ピット　5か所。主柱穴は，P1～4が相当する。深さはP1が23cmと浅いが，他は32～42cmである。P5は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土　3層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片35点，須恵器片3点，鉄鏃1点が，西部から散在して出土している。多くの遺物は，覆土下層から出土している。182の須恵器蓋は北西コーナー部に近い北壁際の覆土下層から，M24の鉄鏃は中央部の西寄りの覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第59図　第17号住居跡・出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表（第59図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
180	土師器	坏	[14.4]	(3.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁・体部内面横ナデ，外面ヘラ削り	竈覆土下層	30%
182	須恵器	甕	[14.2]	2.2	－	赤母・長石・石英	灰白	普通	天井部右回りの回転ヘラ削り	覆土下層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M24	鏃	(4.5)	(3.3)	0.2～0.4	(4.8)	鉄	長三角形式，先端部・逆刺・柄部欠損	覆土下層	PL60

第18号住居跡（第60図）

位置　調査区の北部のＢ４d2区に位置し，東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係　北東コーナー部を第８号溝に掘り込まれている。

規模と形状　床面まで削平された状態で検出されたため，ピットや竈の位置から判断して，Ｎ－10°－Ｅを主軸とする長軸3.85m，短軸3.55mの方形と推定される。残存する西壁は高さは10cmで，外傾して立ち上がっている。

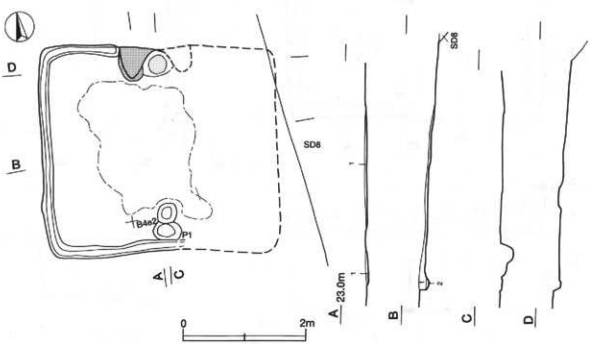
床　東側以外は露呈しており，ほぼ平坦で中央部がよく踏み固められている。壁溝は，確認された壁際を巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。遺存状態が悪く，右袖は遺存していない。袖部は，粘土混じりのローム土で構築されている。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用し，火熱により赤変硬化している。

ピット　１か所。主柱穴は，確認できなかった。Ｐ１は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土　２層からなり，自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量　　2　暗　褐　色　ローム粒子中量



第60図　第18号住居跡実測図

遺物出土状況　確認できなかった。

所見　本跡は，遺物が出土していないため時期の判断が困難であるが，８世紀後葉から９世紀前葉と推定される第８号溝との重複関係や西方40mほどに位置する８世紀前葉と推定される第６号住居跡と方向・規模が同一であることから，８世紀代の可能性が考えられる。

第19号住居跡（第61図）

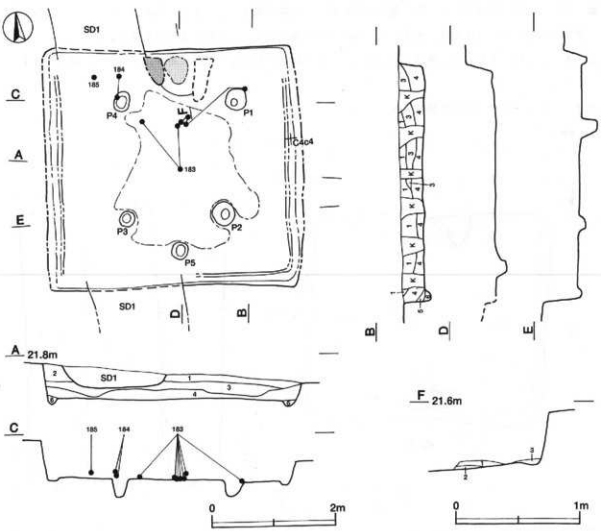
位置　調査区の東部のＣ４c3区に位置し，東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係　西部を第１号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.17m，短軸3.90mの方形で，主軸方向はＮ－６°－Ｅである。壁高は16～60cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が南に開く台形状によく踏み固められている。壁溝は，北東コーナー部から南壁の中央までの壁際と西壁際に確認できた。

竈　北壁中央部に付設されている。遺存状態が悪く，左袖の基部と火床面が確認できるだけである。左袖の基部は，粘土混じりのローム土で構築されている。推測される右袖の範囲には，粘土粒子が散在している。火床



第61図　第19号住居跡実測図

面は，床面と同じ高さの平坦面を使用している。火熱により赤変しているが，硬化した面と焼道は確認できなかった。上層は3層からなり，いずれも竈内の覆土である。

竈土層解説

1	黒	褐	色	砂質中量，焼土粒子少量，焼土ブロック・ローム ブロック微量	2	黒	色	炭化粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子微量	
					3	暗	褐	色	ロームブロック・砂粒少量，焼土ブロック微量

ピット　5か所。主柱穴は，P1～4が相当する。深さは，P3が13cmと浅いが，他は30cm前後である。P5は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

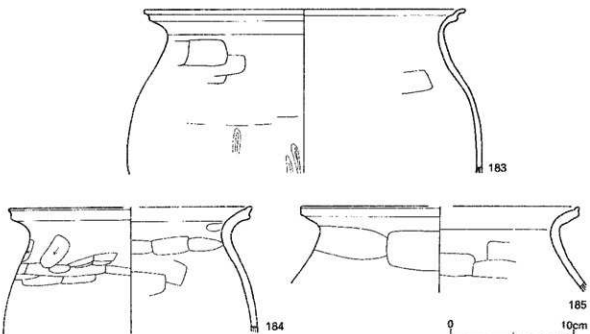
覆土　6層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗	褐	色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐		色	ロームブロック少量	5	暗	褐	色	ロームブロック微量
3	黒	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗	褐	色	ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片343点（坏68，甕275），須恵器片24点が，北部から集中して出土している。多くの遺物は，覆土下層から出土している。184の土師器甕は，竈の西側の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第62図　第19竹住居跡出土遺物実測図

第19竹住居跡出土遺物観察表（第62図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
183	土師器	甕	26.0	(13.3)	－	長石・石英	橙	普通	口縁横ナデ，体部内面・外面上位ヘラナデ，外面下位ヘラ削さ	竈 覆土下層	30%	
184	土師器	甕	19.6	(10.2)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁横ナデ，体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	20%	
185	土師器	甕	22.6	(6.9)	－	石英・長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁横ナデ，体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	10%	

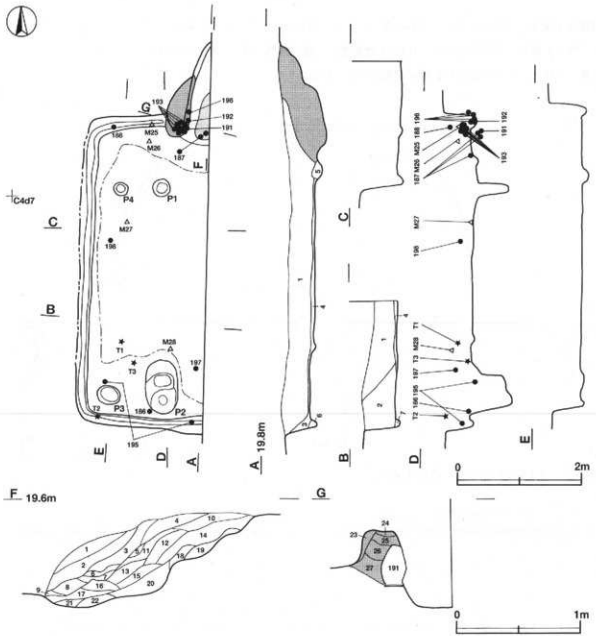
第20号住居跡（第63図）

位置　調査区の東部のＣ４d7区に位置し，東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係　第44号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　東側部分が調査区域外に延びているため，南北軸5.10m，東西軸2.07mだけが確認された。形状は，方形または長方形と推定され，主軸方向はＮ－１°－Ｅである。壁高は40～55cmで，各壁ともほぼ直立している。

床　平坦で，北壁際と南西コーナー部付近を除いて全体がよく踏み固められている。壁溝は，確認された壁際を巡っている。



第63図　第20号住居跡実測図

竈　北壁に付設されている。確認できる規模は焚口部から煙道部まで159cm，両袖部幅64cmである。袖部は，粘土混じりのローム土で構築されている。左袖部材として191～193の土師器甕と196の須恵器瓶が，逆位で南北に並んで埋設されている。火床面は，床面から30cmほど掘り下げた平坦面を使用している。火熱により赤変しているが，硬化した面は確認できなかった。煙道は火床面から階段状に緩やかに立ち上がっている。土層は27層からなり，第１～22層が竈内の覆土，第23～27層が袖部の土層である。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
3　暗　褐　色　焼土粒子・ローム粒子微量
4　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
5　灰　褐　色　焼土粒子・粘土粒子微量
6　灰　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子微量
7　にぶい赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
8　暗　赤　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量
9　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子微量
10　暗　赤　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
11　暗　赤　褐　色　焼土ブロック中量，粘土粒子微量
12　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
13　灰　褐　色　粘土ブロック中量，炭化粒子微量
14　暗　赤　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子微量
15　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量
16　灰　褐　色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
17　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
18　灰　褐　色　粘土粒子少量，焼土ブロック微量
19　灰　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック微量
20　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
21　にぶい赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
22　暗　赤　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
23　極　暗　褐　色　粘土粒子多量，砂粒中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
24　黒　褐　色　粘土粒子中量，砂粒少量，ローム粒子微量
25　暗　褐　色　粘土粒子多量，砂粒中量
26　灰　黄　褐　色　粘土ブロック多量，砂粒中量
27　暗　褐　色　粘土ブロック多量，砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　４か所。主柱穴は，Ｐ１・２が相当する。深さは，Ｐ１が50cm，Ｐ２が68cmである。Ｐ３・４は，深さ10cm前後のピットであり，性格は不明である。

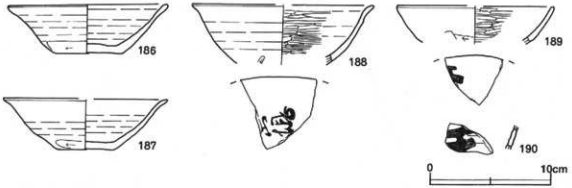
覆土　７層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

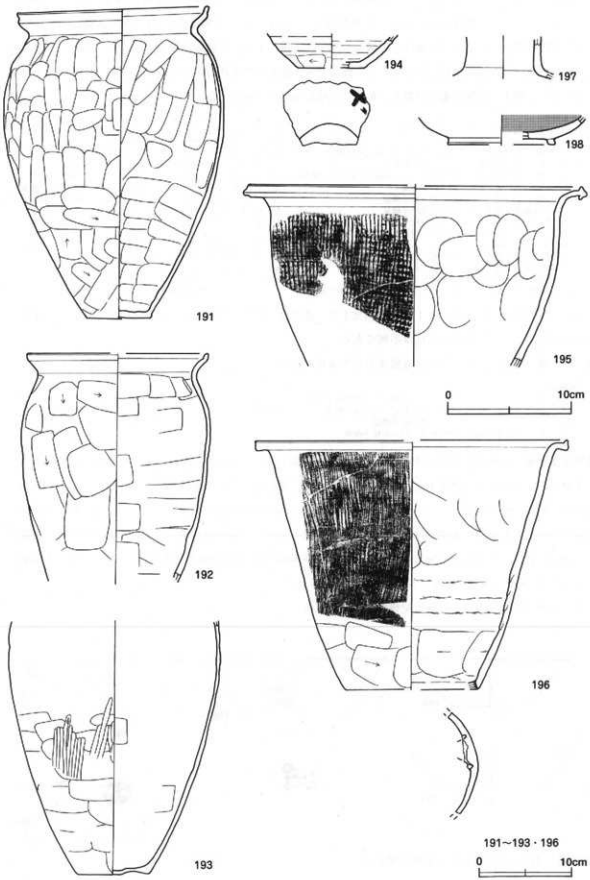
1　黒　褐　色　焼土ブロック・ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
5　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
6　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　灰　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片764点（坏144，甕620），須恵器片255点（坏156，甕99），灰釉陶器２点，瓦３点，土製紡錘車１点，刀子２点，鉄滓１点，不明鉄製品１点が，竈際を中心に全域から散在して出土している。多くの遺物は，覆土下層から出土している。186の須恵器坏は，南壁際の床面から出土している。西壁際の中央の覆土下層から出土した198は，猿投産の灰釉陶器高台付椀の底部片で，黒笹14号窯式のものと考えられる。南部の覆土下層から出土した197は，198と同じくの猿投産の灰釉陶器長頸瓶の頸部である。しかし，197の長頸瓶は，198の高台付椀よりも古い段階のものであると考えられる。

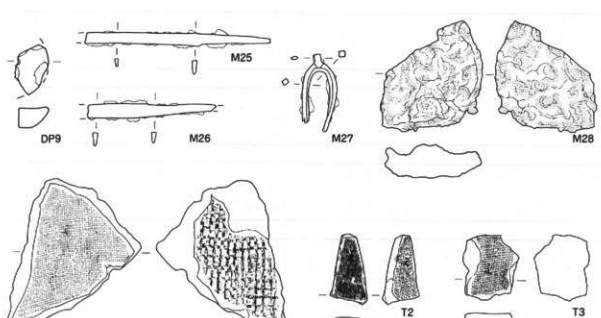
所見　時期は，出土土器から９世紀後葉と考えられる。



第64図　第20号住居跡出土遺物実測図(1)



第65図　第20号住居跡出土遺物実測図(2)



第66図　第20号住居跡出土遺物実測図(3)

第20号住居跡出土遺物観察表（第64～66図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
186	須恵器	坏	13.4	4.2	5.6	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	床面	70%，PL44
187	須恵器	坏	[13.8]	4.2	5.0	雲母・長石・石英	明褐	普通	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層・覆土下層	30%
188	土師器	坏	[15.0]	(5.0)	－	雲母・長石・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き	覆土上層	10%，体部外面墨書「[□]崎ヵ」PL56
189	土師器	坏	[13.2]	(3.1)	－	長石・石英	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き	覆土上層	5%，体部外面墨書「[□]」
190	須恵器	坏	－	(2.0)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロ整形	覆土下層	5%，体部外面墨書「[□]」
191	土師器	甕	20.6	33.7	6.8	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	左袖構築材	100%，PL45
192	土師器	甕	[19.4]	(24.8)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	左袖構築材	30%
193	土師器	甕	－	(27.5)	7.8	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラナデ後磨き，外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ	左袖構築材	40%
194	須恵器	坏	－	(2.7)	[5.2]	雲母・長石・石英	灰黄	普通	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	20%，体部外面墨書「[□]」
195	須恵器	鉢	[27.0]	(14.6)	－	雲母・長石・赤色粒子	黒褐	良好	口縁横ナデ，体部外面縦位の平行叩き，内面当て具痕	床面	15%
196	須恵器	甕	[34.0]	27.0	[14.6]	雲母・長石・石英	褐灰	普通	体部外面縦位の平行叩き，体部内面・外面下位ヘラ削り，内面当て具痕・輪積み痕	覆土下層	30%
197	灰釉陶器	長頸瓶	－	(3.4)	－	緻密	褐灰	普通	ロクロ整形	覆土下層	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
198	灰釉陶器	壺台付瓶	-	(2.3)	[8.8]	微密	浅黄・グリーン	良好	底部回転ヘラ切り後、壺台貼り付け	覆土下層	10%

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP9	紡錘車	12.91	[1.0]	1.6	(13.8)	土製	断面逆台形、上面黒色、側面ナデ、下面ヘラ削り	覆土中	PL.58

番号	器種	全長	刀身長	身幅	重ね	茎長	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M25	刀子	(15.2)	(9.1)	1.1	0.4	6.1	(17.4)	鉄	刃部欠損、刃薄	覆土下層	PL.61
M26	刀子	(10.5)	(5.6)	1.1	0.4	(4.9)	(13.5)	鉄	刃部欠損、両関	覆土下層	PL.61

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M27	不明	(5.2)	(2.7)	0.5	(9.8)	鉄	断面方形のU字状、頂点部に断面楕円形の部分が接着	床面	PL.60
M28	鉄滓	8.9	8.4	2.7	258.8	鉄	椀形滓	覆土中層	
T1	平瓦	(12.4)	(11.0)	2.3	(241.1)	土製	凸面格子目の叩き、凹面布目痕	覆土下層	PL.63
T2	丸瓦	(5.6)	(3.1)	1.0	(18.7)	土製	凸面ヘラ削り、凹面布目痕	覆土下層	PL.63
T3	平瓦	(5.3)	(4.5)	(1.2)	(21.6)	土製	凸面縄叩、凹面布目痕	床面	

第21号住居跡（第67図）

位置　調査区の中央部のD3a8区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

規模と形状　長軸3.77m，短軸3.38mの長方形で，主軸方向はN－6°－Wである。壁高は40～50cmで，各壁ともほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，各コーナー部付近を除いて全面が踏み固められている。壁溝は，東壁際の一部を除いて周回している。

竈　北壁中央部のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで129cm，両袖部幅128cmである。袖部は，20cmほどローム土を積み上げた上に，砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床面は，床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用している。火熱により赤変しているが，硬化した面は確認できなかった。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は22層からなり，第1～10層が竈内の覆土，第11～18層が袖部の土層で，第19～22層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

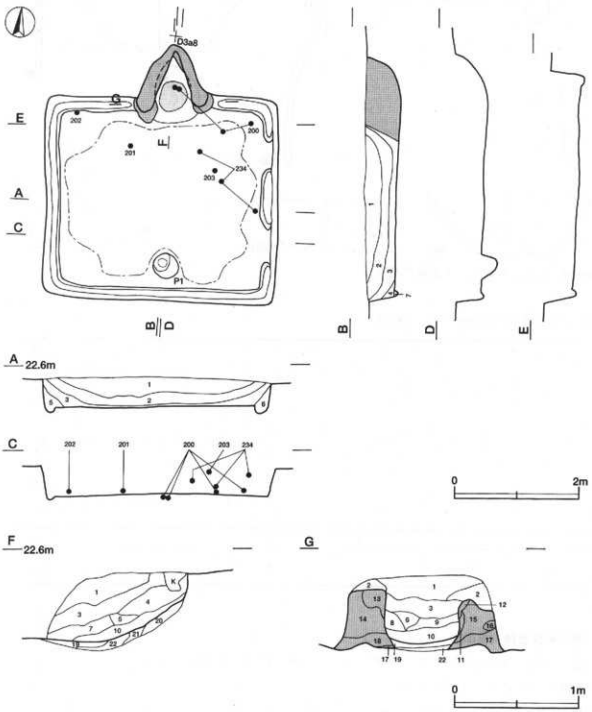
1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 粘土ブロック・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4 灰褐色 粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子微量
5 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
6 黒褐色 粘土粒子・砂粒少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
7 灰褐色 粘土ブロック少量，焼土粒子・ローム粒子微量
8 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
9 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
10 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
11 灰褐色 粘土ブロック中量，焼土粒子微量
12 褐色 粘土粒子中量，ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
13 暗褐色 粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
14 にぶい黄褐色 粘土粒子多量，砂粒中量，ローム粒子微量
15 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量，炭化粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子微量
16 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
17 黒褐色 粘土ブロック・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
18 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
19 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
20 褐色 ロームブロック微量
21 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
22 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量

ピット　1か所。主柱穴は，確認できなかった。P1は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土　7層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

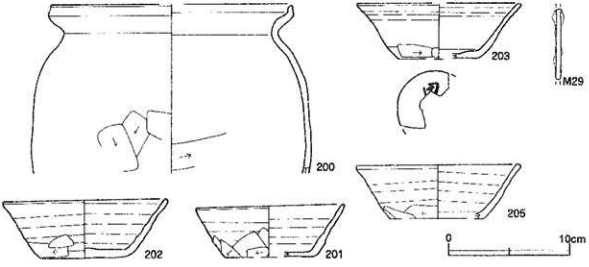
1　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
4　褐　　色　焼土粒子少量
5　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック微量



第67図　第21号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片214点，須恵器片67点，軸1点が，全域から散在して出土している。多くの遺物が覆土中層から出土している。201の須恵器坏は竈の左袖の南側の床面から，陽青土器である203の須恵器坏は右袖の南側の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第68図　第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表（第68図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
200	土師器	甕	(19.8)	(14.0)	－	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁横ナデ，体部内・外面ヘラナデ	覆土下層・床面	10%
201	須恵器	坏	12.3	4.3	(7.4)	長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	床　面	70%，PL45
202	須恵器	坏	13.5	4.9	7.2	雲母・長石	灰白	不良	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	60%，PL45
203	須恵器	坏	13.6	4.6	(6.8)	雲母・長石	黄灰	良好	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	40%，底部糸切痕残存，PL57
205	須恵器	坏	13.4	4.5	7.6	長石・石英	灰白	良好	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	50%，PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	形態	出土位置	備考
M29	軸	(3.8)	0.4	0.4	(3.5)	鉄	断面方形の棒状	覆土中	PL62

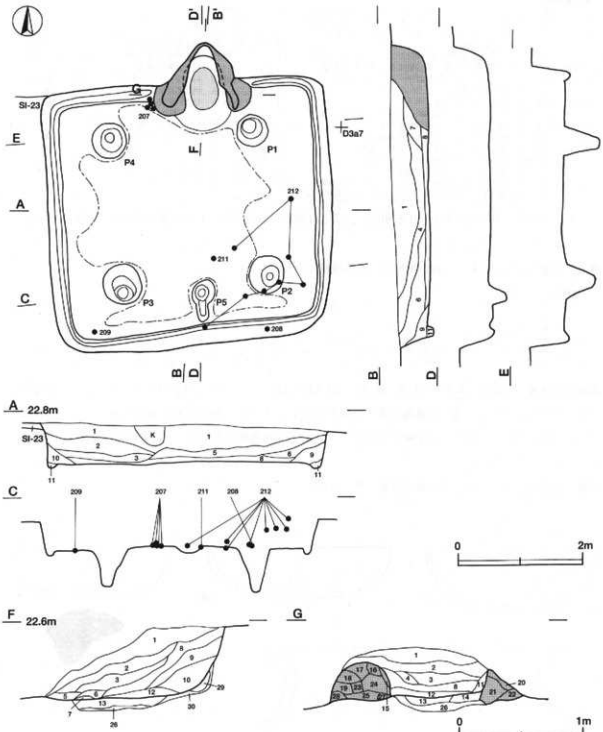
第22号住居跡（第69図）

位置　調査区の中央部のD3a6区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

重複関係　第23号住居跡の東部を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸4.60m，短軸4.30mの方形で，主軸方向はN－5°－Wである。壁高は43～66cmで，南壁は外傾して立ち上がり，他の壁はほぼ直立している。

床　平坦で，東壁際と西壁際を除いて全面が踏み固められている。壁溝は，全周している。



第69図　第22号住居跡実測図

竈　北壁中央部のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで144cm，両袖部幅161cmである。袖部は，粘土混じりのローム土で構築されている。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。土層は30層からなり，第1～12層が竈内の覆土，第15～25・27・28層が袖部の土層で，第13・14・26・29・30層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1 暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量
2 灰　褐　色　粘土ブロック少量，焼土粒子・ローム粒子微量
3 灰　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子微量
4 にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土ブロック・ローム粒子少量
5 褐　色　ローム粒子中量，炭化物少量，焼土粒子微量
6 黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
7 赤　褐　色　焼土粒子多量
8 暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量
9 褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
10 暗 赤 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子少量
11 暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量
12 暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
13 にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
14 褐　色　焼土粒子・ローム粒子微量
15 暗　褐　色　粘土粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
16 黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
17 にぶい黄褐色　粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
18 灰　褐　色　粘土ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
19 暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
20 暗　褐　色　粘土粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
21 にぶい褐色　粘土粒子中量，砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
22 にぶい褐色　粘土ブロック・砂粒少量，炭化物・焼土粒子微量
23 褐　色　焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
24 にぶい褐色　粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
25 暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量
26 褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
27 褐　色　ロームブロック微量
28 褐　色　ロームブロック微量
29 暗　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子微量
30 暗　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック微量

ピット　5か所。主柱穴はＰ１～４が相当し，深さは50～71cmである。Ｐ５は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

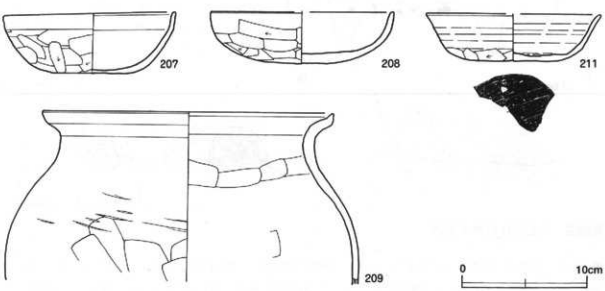
覆土　11層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

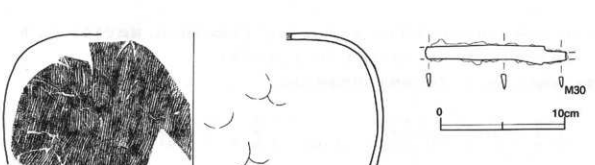
1 暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗　褐　色　ロームブロック少量
3 黒　褐　色　ロームブロック少量
4 暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・砂粒少量
5 暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
6 黒　褐　色　ロームブロック微量
7 暗　褐　色　焼土ブロック・ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
8 褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
9 褐　色　ロームブロック少量
10 褐　色　ローム粒子中量，炭化物・焼土粒子少量
11 暗　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片173点（坏28，甕145），須恵器片34点，刀子１点，炭化種子が，東部を中心に全域から散在して出土している。多くの遺物が覆土上層から出土している。209の土師器甕は南西コーナー部の床面から逆位で検出され，内部から炭化種子が出土した。212の須恵器甕は南東コーナー部付近の覆土上・下層から散在して出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第70図　第22号住居跡出土遺物実測図(1)



第71図　第22号住居跡出土遺物実測図(2)

第22号住居跡出土遺物観察表（第70・71図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
207	土師器	坏	13.7	5.0	6.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁・体部内面横ナデ，体部外面ヘラ削り	覆土下層	70%，PL45
208	土師器	坏	[14.8]	4.2	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁・体部内面横ナデ，体部外面ヘラ削り	覆土下層	50%
209	土師器	甕	23.2	(13.7)	－	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁横ナデ，体部内・外面ヘラナデ，体部外面下位ヘラ削り	床　面	30%，PL45
211	須恵器	坏	14.0	4.2	[7.2]	雲母・長石	灰白	良好	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	30%
212	須恵器	甕	－	(23.9)	－	雲母・長石・石英	褐灰	良好	体部外面横位の平行叩き，内面当て具痕	覆土上・下層	30%

番号	器種	全長	刀身長	身幅	重ね	茎長	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M30	刀子	(11.7)	(9.7)	1.5	0.4	(2.0)	(15.8)	鉄	刃部・茎尻欠損，両関	覆　土	PL61

第24号住居跡（第72図）

位置　調査区の中央部のＤ３d4区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

規模と形状　一辺4.12mほどの方形で，主軸方向はＮ－０°である。壁高は20～25cmで，西壁はほぼ直立し，他の壁はいずれも外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部から南壁際にかけてよく踏み固められている。壁溝は，全周している。

竈　北壁中央部の西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで114cm，両袖部幅110cmである。袖部は，砂質粘土で構築されている。火床面は床面と同じ高さの平坦面を使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は22層からなり，第１～17層が竈内の覆土，第18～20層が袖部の土層で，第21・22層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

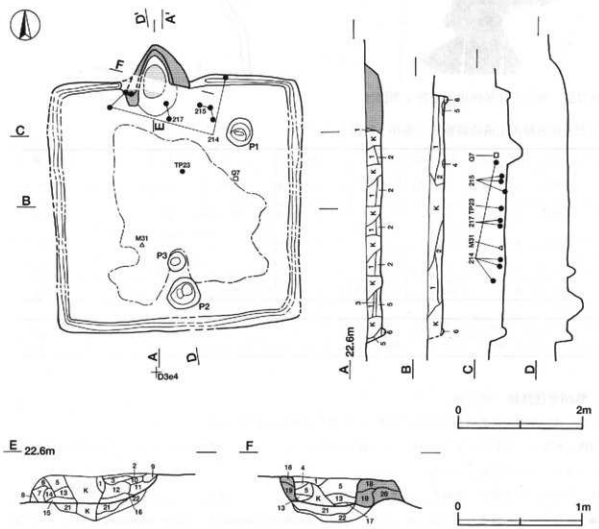
1　褐　色　焼土粒子・ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
4　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
5　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・粘土粒子微量
6　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
8　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
9　褐　色　焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
10　暗　褐　色　焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
11　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
12　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
13　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
14　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
15　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
16　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子微量
17　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量
18　にぶい黄褐色　砂粒多量，ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量
19　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
20　暗 赤 褐 色　ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
21　赤　褐　色　焼土粒子・ローム粒子少量
22　暗 赤 褐 色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量

ピット　3か所。主柱穴はＰ１が相当し，深さは25cmである。その他の主柱穴は，確認できなかった。Ｐ２・Ｐ３は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土　6層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

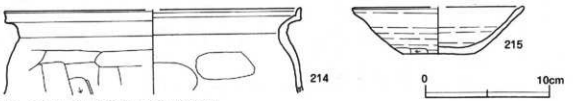
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　焼土粒子・ローム粒子微量
3　暗　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック微量
5　褐　　色　焼土粒子・ローム粒子微量
6　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量



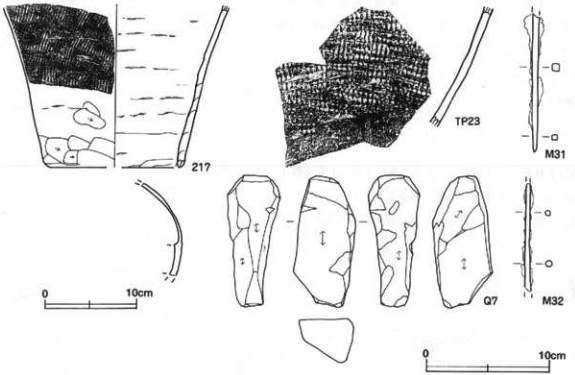
第72図　第24号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片302点（坏36，甕266），須恵器片130点（坏96，甕33，瓶１），釘１点，鉄製軸１点，砥石１点が，中央部を中心に全域から散在して出土している。多くの遺物は覆土下層から出土している。215の須恵器坏は，竈の南東側の床面から出土している。

所見　時期は出土土器から，９世紀中葉と考えられる。



第73図　第24号住居跡出土遺物実測図(1)



第74図　第24号住居跡出土遺物実測図(2)

第24号住居跡出土遺物観察表（第73・74図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
214	土師器	甕	[23.8]	(6.9)	－	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	覆土下層	30%
215	須恵器	坏	[13.8]	3.8	5.8	長石・石英・赤色粒子	灰黄	良好	底部多方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	床　面	40%
217	須恵器	瓶	－	(17.9)	[14.0]	雲母・長石・石英	橙	普通	体部外面縦位の平行叩き，外面下位ヘラ削り，輪積痕	覆土下層	20%
TP23	須恵器	甕	－	(9.9)	－	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面格子目の叩き，外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ，当て具痕	覆土下部	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q7	砥石	10.7	5.0	4.2	187.6	凝灰岩	砥面4面，溝状の砥面1か所	覆土中層	
M31	釘	(11.4)	0.6	0.6	(14.1)	鉄	断面方形の棒状，一端が尖る	覆土下層	PL62
M32	軸	(0.9)	0.6	0.6	(8.1)	鉄	断面円形，一端が細る	覆土中	PL62

第25号住居跡（第75図）

位置　調査区の中央部のD3b5区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

重複関係　第23号住居跡の南西コーナー部を掘り込んでいる。

規模と形状　床面まで削平された状態で検出されたため，竈の位置から判断して，N－15°－Wを主軸とする長軸3.50m，短軸3.20mの方形と推定される。壁の立ち上がりは確認できなかった。

床　遺存した北東コーナー部は平坦で，竈の右袖の南東部に硬化した面が認められる。壁溝は，確認できなかった。

竈　北壁中央部に付設されていると推測される。遺存状態が悪く，火床面と右袖の基部だけが確認されている。火床面は火熱により赤変硬化しており，付近の床面には竈材の一部と考えられる粘土粒子が散在している。

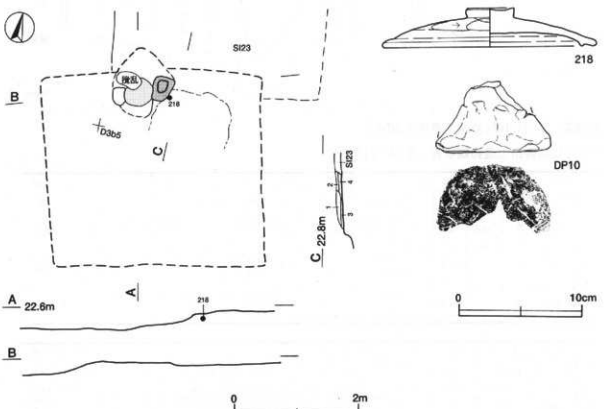
ピット　主柱穴は，確認できなかった。

覆土　4層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
2　極　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量
3　極　暗　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
4　黒　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片2点，須恵器片1点，土製支脚1点が，北東部の覆土下層より出土している。218の須恵器蓋は，竈の南東側の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第75図　第25号住居跡・出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
218	須恵器	蓋	17.4	3.1	－	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	天井部右回りの回転ヘラ削り	覆土下層	80%，PL45

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP10	支脚	(5.7)	9.4	－	(165.2)	土製	側面ナデ，底部に被熱痕	竈覆土中	

第26号住居跡（第76図）

位置　調査区の中央部のＤ３a3区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

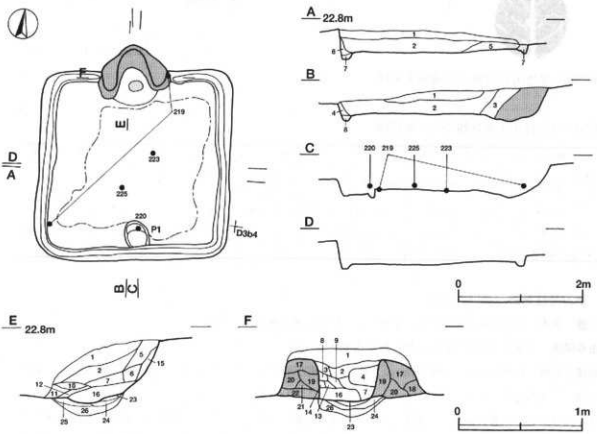
規模と形状　一辺3.07ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－６°－Ｗである。壁高は12～35cmで，各壁ともほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，西壁際の北側を除いてほぼ全面がよく踏み固められている。壁溝は，全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで93cm，両袖部幅117cmである。袖部は，粘土混じりのローム土の上に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床面は，床面を10cmほど掘り下げた面を使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は26層からなり，第１～16層が竈内の覆土，第17～22層が袖部の土層で，第23～26層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1	暗	褐	色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
2	暗	褐	色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
3	暗	褐	色	粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
4	暗	褐	色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
5	暗	褐	色	粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
6	暗	褐	色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
7	暗	褐	色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
8	灰	褐	色	粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9	暗	褐	色	焼土ブロック・炭化粒子微量
10	黒	褐	色	炭化物・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
11	暗	褐	色	焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
12	暗	褐	色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
13	赤	褐	色	焼土ブロック中量
14	暗	褐	色	焼土粒子・炭化粒子微量
15	にぶい赤褐色			焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
16	暗	赤	褐	色	焼土ブロック・ローム粒子微量
17	暗	褐	色	砂粒多量，ローム粒子・粘土粒子中量
18	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
19	極暗赤褐色			ローム粒子中量，焼土ブロック少量
20	暗	褐	色	ローム粒子・砂粒中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
21	暗	褐	色	ローム粒子中量，粘土ブロック・砂粒少量
22	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子少量
23	暗	赤	褐	色	焼土ブロック中量
24	暗	褐	色	ロームブロック中量，焼土粒子少量
25	黒	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
26	暗	褐	色	ロームブロック中量，焼土粒子少量



第76図　第26号住居跡実測図

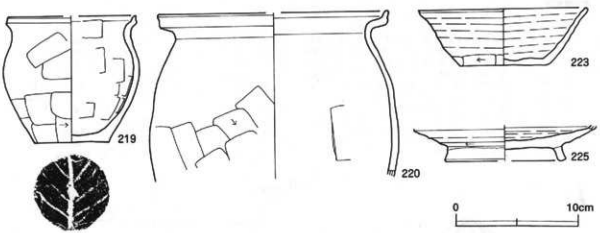
ピット　１か所。主柱穴は，確認できなかった。Ｐ１は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土　8層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
4　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量
7　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片268点（坏10，甕258），須恵器片66点（坏48，高台付盤1，甕17）が，南西部と竈の南側に集中して出土している。多くの遺物は，覆土下層から出土している。223の須恵器坏は，竈の南側の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第77図　第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表（第77図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
219	土師器	甕	[10.4]	10.3	6.0	長石・石英	灰褐	普通	口縁横ナデ，体部外面下位ヘラ削り，内面・外面上位ヘラナデ	覆土下層	40%
220	土師器	甕	[18.8]	(13.6)	－	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	覆土下層	5%
223	須恵器	坏	13.8	4.7	7.2	雲母・長石・石英	黄灰	良好	底部二方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	床　面	70%，PL45
225	須恵器	高台付盤	－	(2.8)	[9.4]	長石・石英	褐灰	良好	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け	覆土下層	30%

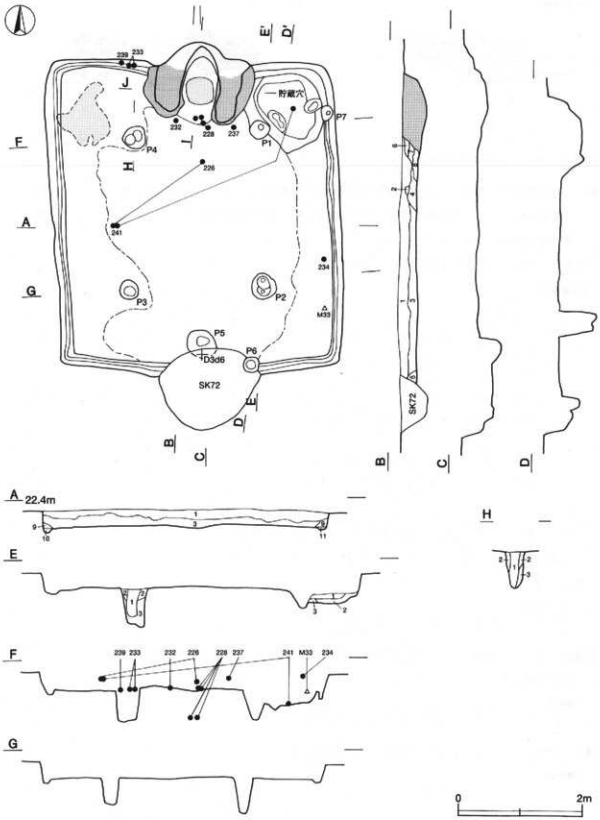
第27号住居跡（第78・79図）

位置　調査区の中央部のＤ３c5区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

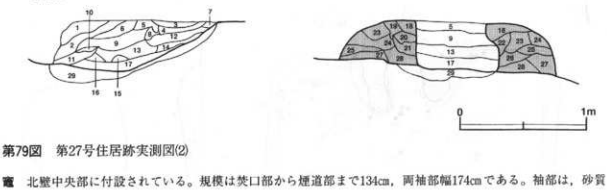
重複関係　南壁中央部を第72号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.05m，短軸4.68mの方形で，主軸方向はＮ－3°－Ｅである。壁高は25～30cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈の南側から南壁にかけて中央部が踏み固められている。壁溝は，南壁際中央の第72号土坑との重複部以外は周回しており，全周していたものと推測される。竈の西側から西壁際にかけて，床上５cmから厚さ10cmほどの焼土層が確認された。



第78図　第27号住居跡実測図(1)



第79図　第27号住居跡実測図(2)

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで134cm，両袖部幅174cmである。袖部は，砂質粘土で構築されている。火床面は，床面から20cmほど掘り下げた平坦面を使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は29層からなり，第１～17層が竈内の覆土，第18～28層が袖部の土層で，第29層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1	にぶい褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	16	にぶい赤褐色	粘土ブロック・焼土粒子微量
2	褐色	炭化物・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	17	にぶい赤褐色	灰多量，焼土ブロック・砂粒中量，炭化物少量
3	暗赤褐色	砂粒中量，焼土ブロック・炭化物・ロームブロック少量	18	にぶい黄褐色	砂粒多量，ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
4	にぶい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂粒中量，炭化粒子少量	19	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子少量
5	にぶい赤褐色	砂粒中量，ロームブロック・焼土粒子少量，粘土ブロック・炭化粒子微量	20	暗赤褐色	焼土ブロック少量
6	にぶい褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	21	極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
7	暗褐色	焼土ブロック・ロームブロック・炭化粒子少量	22	暗赤褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック少量
8	にぶい赤褐色	砂粒中量，焼土ブロック・灰中量，ローム粒子少量	23	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
9	褐色	粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	24	暗褐色	砂粒多量，ローム粒子・粘土粒子中量
10	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量	25	暗褐色	粘土粒子多量，ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
11	黒褐色	焼土粒子微量	26	暗褐色	焼土ブロック・ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量
12	暗赤褐色	焼土ブロック・砂粒中量，炭化物・ローム粒子少量	27	暗褐色	砂粒・ローム粒子中量，焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
13	明赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・小礫微量	28	暗褐色	焼土ブロック・ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量
14	暗赤褐色	焼土ブロック・砂粒中量，炭化物・ローム粒子少量	29	極暗赤褐色	焼土ブロック・ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量
15	にぶい赤褐色	焼土粒子少量，粘土粒子微量			

ピット　７か所。主柱穴はＰ１～４が相当し，深さは45～62cmである。Ｐ２・４からは柱痕が確認されている。Ｐ５は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。Ｐ６・７は深さが20cm前後のピットで，性格は不明である。

Ｐ２・４土層解説

1	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	3	褐色	ローム粒子少量
2	褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量			

貯蔵穴　１か所。北東コーナー部に位置し，南西部に小ピットが伴っている。深さは26cmで，覆土は３層からなる自然堆積である。

土層解説

1	暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子微量	3	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量			

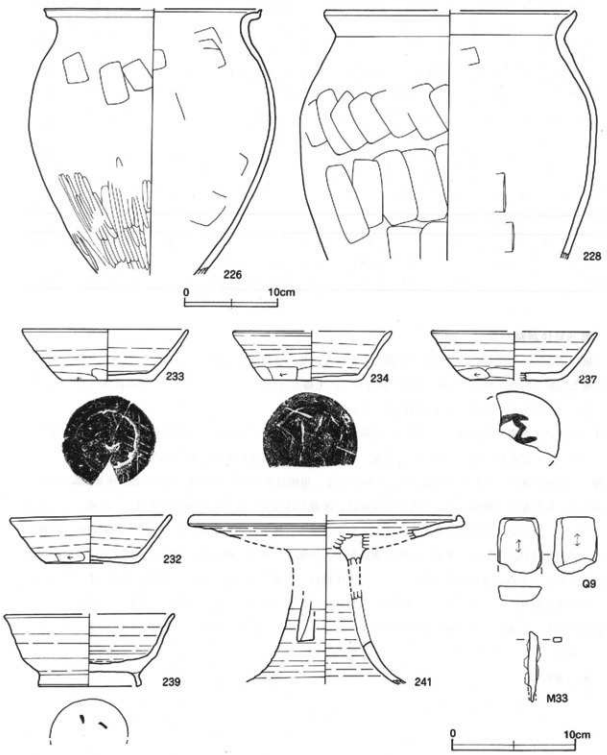
覆土　11層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量	7	褐色	砂粒中量，焼土ブロック・炭化物・ロームブロック少量
2	赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量，炭化物少量	8	褐色	砂粒中量，焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量
3	暗褐色	炭化物・ロームブロック中量，焼土ブロック少量	9	明赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量，炭化物少量
4	暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量，砂粒微量	10	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒褐色	炭化物中量，焼土ブロック・ロームブロック少量	11	褐色	ロームブロック微量
6	暗褐色	砂粒中量，焼土ブロック・炭化物・ロームブロック少量			

遺物出土状況　土師器片574点（坏32，甕542），須恵器片205点（坏164，高台付坏1，高盤1，鉢1，甕38），砥石1点，釘1点が，北部を中心に全域から散在して出土している。多くの遺物は，覆土下層から出土している。墨書土器である237の須恵器坏は竈の南側の覆土中層から，同じく墨書土器である239の須恵器高台付坏は北壁際の覆土下層から，241の須恵器高盤は北東コーナー部の貯蔵穴覆土下層から出土している。

所見　本跡は，焼土等の出土状況から焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第80図　第27号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表（第80図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	硬質	手法の特徴	出土位置	備考
226	土師器	甕	(23.8)	(28.7)	－	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	口縁横ナデ，体部外面ナデ後ヘラ磨き，内面・外面上位ヘラナデ	覆土下層	30%
228	土師器	甕	(20.2)	(20.1)	－	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁横ナデ，体部外面ナデ後ヘラ磨き，内面・外面上位ヘラナデ	覆土下層	30%，PL46
232	須恵器	坏	13.1	3.9	7.5	雲母・長石・石英	暗	良好	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	90%，PL46
233	須恵器	坏	13.3	4.4	7.2	雲母・長石・石英	灰	良好	底部糸切ヘラ切り後，一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	床面	70%，PL46
234	須恵器	坏	(12.8)	4.0	7.8	長石・石英	黄灰	良好	底部多方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	60%，PL46
235	須恵器	坏	(13.2)	4.1	8.2	長石・石英	灰	良好	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	50%，PL45
237	須恵器	坏	(13.4)	3.9	(7.6)	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	良好	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	30%，底部外面墨書「十」
239	須恵器	高台付坏	(13.6)	4.9	8.2	雲母・長石・赤色粒子	灰黄褐	良好	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け	覆土上層	60%，底部外面墨書「十」，PL45
241	須恵器	高盤	(11.6)	(13.6)	－	雲母・石英	灰白	良好	ロクロ整形，孔は3孔式，孔ヘラ切り	覆土中層・貯蔵穴覆土上層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q29	砥石	(4.5)	3.5	1.2	(25.0)	凝灰岩	片側欠損，砥面2面	覆土中	
M33	釘	(4.8)	0.7	0.4	(7.3)	鉄	断面長方形の棒状，一端が曲る	覆土下層	PL62

第28号住居跡（第81・82図）

位置　調査区の中央部のD3c7区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

規模と形状　長軸6.30m，短軸5.58mの長方形で，主軸方向はN－79°Eである。壁高は20～32cmで，東壁は外傾して立ち上がり，その他はほぼ直立している。

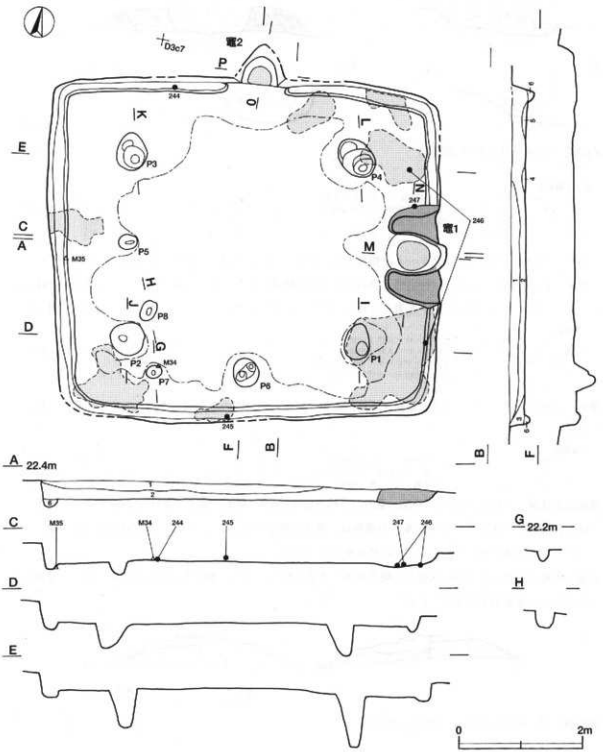
床　平坦で，北東・北西コーナー部付近を除いてほぼ全面がよく踏み固められている。壁溝は，全周している。北西コーナー部を除く各コーナー部と西壁・南壁際の中央に焼土の堆積が見られた。

竈　2か所。竈1は，東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで96cm，両袖部幅164cmである。袖部は，砂質粘土で構築されている。火床面は，床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。竈1は26層からなり，第1～16層が竈内の覆土，第17～23層が袖部の土層で，第24～26層は竈の掘り方の埋土である。竈2は，竈1の西側である北壁の中央部に付設され，火床面と煙道部を検出している。火床面は，床面とほぼ同じ高さの平坦面をそのまま使用し，火熱により赤変硬化している。壁外への掘り込みは55cmで，幅は87cmである。煙道は，外傾して立ち上がっている。竈1は完存し，竈2は火床面と煙道部だけが残存していることから，竈2から竈1へ作り替えられたことが考えられる。

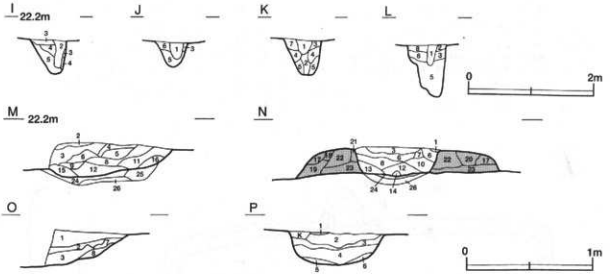
竈1土層解説

1　暗褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子・ローム粒子中量
2　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子中量，焼土粒子少量
3　褐色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子中量，焼土ブロック少量
4　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量
5　赤褐色　焼土ブロック中量
6　暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子少量
7　灰黄褐色　粘土粒子多量，砂粒中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
8　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック少量
9　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック少量
10　黒褐色　炭化物中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量
11　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
12　暗褐色　焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量

13 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量
14 褐色 ローム粒子多量
15 極暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量
16 極暗赤褐色 炭化物・焼土粒子・ローム粒子少量
17 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子中量
18 暗赤褐色 粘土粒子多量，焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量
19 黒褐色 炭化物・ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量，焼土ブロック微量
20 暗褐色 粘土粒子多量，ローム粒子・砂粒中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
21 赤褐色 焼土粒子多量
22 にぶい黄褐色 粘土粒子多量，砂粒中量，ローム粒子少量
23 暗褐色 粘土粒子多量，ローム粒子・砂粒中量，炭化物少量，焼土ブロック微量
24 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
25 暗褐色 ロームブロック微量
26 褐色 ロームブロック少量



第81図　第28号住居跡実測図(1)



第82図　第28号住居跡実測図(2)

竈2土層解説

1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
2　灰　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　粘土粒子中量，ロームブロック微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物少量
6　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量
7　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット　8か所。主柱穴は，P1～4が相当する。深さは，P4が84cm，P3が62cmと深いが，P1・2は45cm前後である。P1～4からは柱痕部と思われる土層が確認された。P5は竈1と，P6は竈2と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。P7・8は，深さ27・28cmのピットで，性格は不明である。

土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
2　極 暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
3　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　極 暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
8　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量

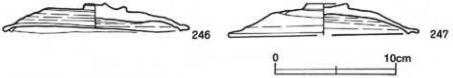
覆土　6層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。南壁際の第3層や床面上の第4・5層は焼土の混入が多い。

土層解説

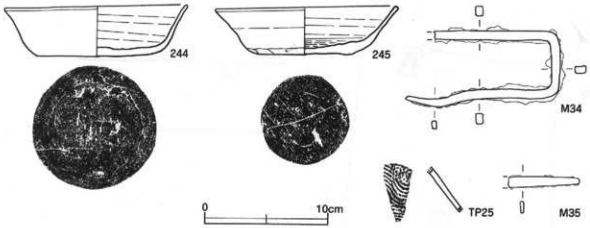
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
4　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
6　極 暗 褐 色　炭化粒子・ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片335点（坏58，甕277），須恵器片106点（坏93，蓋2，甕11），鬥金具1点，刀子1点が，全域から散在して出土している。多くの遺物は，覆土中層から出土している。245の須恵器坏は南壁に立てかけられたように焼土中から出土し，二次焼成を受けている。

所見　本跡は，焼土等の出土状況から焼失住居と考えられる。また，竈を作り替えた住居である。時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第83図　第28号住居跡出土遺物実測図(1)



第84図　第28号住居跡出土遺物実測図(2)

第28号住居跡出土遺物観察表（第83・84図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
244	須恵器	坏	15.0	4.3	9.9	長石・石英	灰黄	良好	底部一方向のヘラ削り	覆土下層	90%，PL46
245	須恵器	坏	14.7	4.0	7.4	雲母・長石	浅黄橙	不良	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	80%，底部外面花押「一」PL46
246	須恵器	蓋	15.6	2.4	－	雲母・長石・赤色粒子	灰白	普通	天井部左回りの回転ヘラ削り	床面・覆土下層	70%，PL46
247	須恵器	蓋	[16.0]	2.7	－	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	良好	天井部左回りの回転ヘラ削り	覆土下層	60%，PL46
TP25	須恵器	甕	－	(3.7)	－	雲母・長石	にぶい褐	普通	体部外面同心円の叩き	覆土中	

番号	機種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M34	門金具	12.8	6.3	0.6	(61.2)	鉄	コの字状を呈し，一端は細る	覆土下層	PL60

番号	器種	全長	刀身長	身幅	重ね	茎長	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M35	刀子	(5.9)	－	1.0	0.4	(5.9)	(8.2)	鉄	茎部破片，茎尻が細る	覆土下層	PL61

第29号住居跡（第85図）

位置　調査区の中央部のＤ３f0区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

規模と形状　床面まで削平された状態で検出されたため，竈とピットの位置から判断して，Ｎ－28°－Ｗを主軸とする一辺3.22ｍの方形と推定される。壁の立ち上がりは確認できなかった。

床　ほぼ平坦で，竈の南側から南西部にかけて硬化した面が確認できた。壁溝は，確認できなかった。

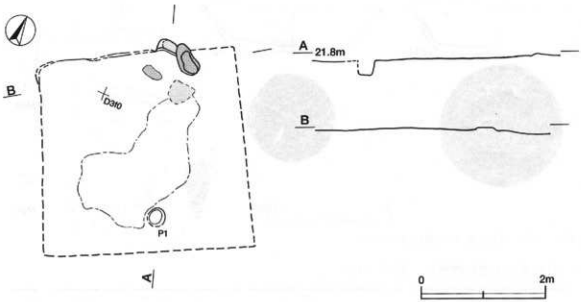
竈　北壁中央部のやや東寄りに付設されている。道存状態が悪く，右袖の基部が確認できるだけである。右袖の基部は，砂質粘土で構築されている。推定される左袖の範囲には，粘土粒子が散在している。火床面は確認できなかったが，煙道部と推測される部分や竈の南側に焼土が散在している。竈の土層は確認できなかった。

ピット　１か所。主柱穴は，確認できなかった。Ｐ１は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土　確認できなかった。

遺物出土状況　土師器片６点，須恵器片１点が覆土中から出土している。小片であり，図示できなかった。

所見　時期は，出土土器から８世紀代と考えられる。



第85図　第29号住居跡実測図

第31号住居跡（第86図）

位置　調査区の東部のＤ４c6区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

重複関係　南西コーナー部を第２号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.58m，短軸3.42mの方形で，主軸方向はＮ－２°－Ｗである。壁高は31～42cmで，各壁ともほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，竈の南側から南壁中央にかけて逆台形状によく踏み固められている。壁溝は，全周している。

竈　北壁中央部のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで96cm，両袖部幅115cmである。袖部は，砂質粘土で構築されている。火床面は，床面をやや掘り下げた平坦面を使用している。火熱により赤変しているが，硬化面は確認できなかった。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は12層からなり，第１～７層が竈内の覆土，第８～10層が袖部の土層で，第11・12層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

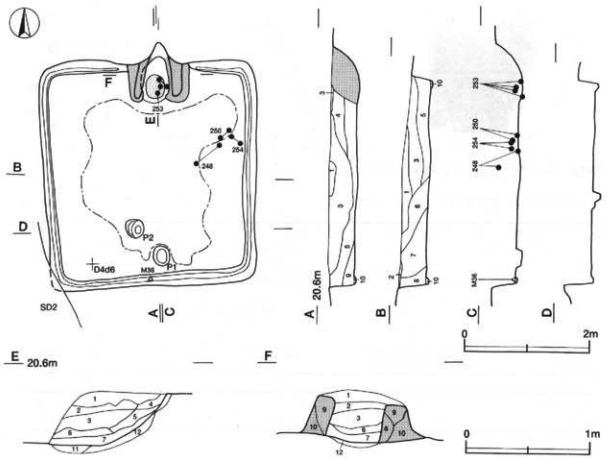
1	灰　褐　色	粘土ブロック少量，焼土ブロック・ローム粒子・砂粒微量	
2	暗　褐　色	粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂粒微量	
3	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	
4	黒　褐　色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量	
5	暗 赤 褐 色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量	
6	灰　褐　色	粘土粒子少量，焼土粒子・ローム粒子微量	
7	にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	
8	にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量，砂粒微量	
9	にぶい褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・ローム粒子・砂粒微量	
10	にぶい褐色	粘土ブロック多量	
11	暗 赤 褐 色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量	
12	褐　色	焼土粒子・ローム粒子微量	

ピット　２か所。主柱穴は，確認できなかった。Ｐ１は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。Ｐ２は，深さ14cmのピットで，性格は不明である。

覆土　10層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

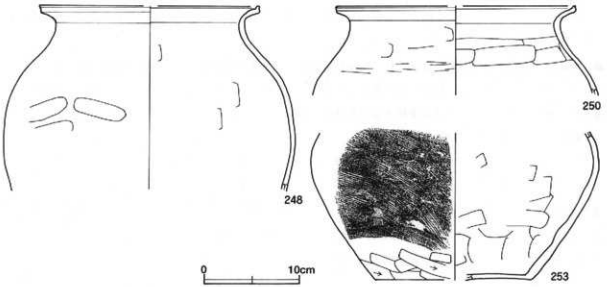
1	暗　褐　色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	
2	黒　褐　色	ローム粒子微量	
3	暗　褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
4	暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量	
5	暗　褐　色	ロームブロック・焼土粒子微量	
6	褐　色	ロームブロック・焼土粒子微量	
7	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	
8	黒　褐　色	ローム粒子微量	
9	黒　褐　色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	
10	褐　色	ローム粒子多量	



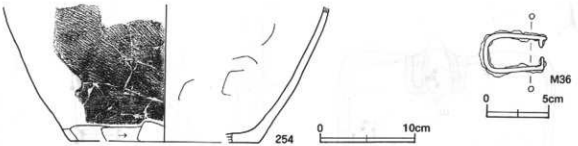
第86図　第31号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片190点（坏15，甕175），須恵器片78点，鉸具１点が，東壁際の中央部と南壁際を中心に散在して出土している。東部では覆土中層，西部では覆土下層から多くの遺物が出土している。248・250の土師器甕は，東部中央の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉から中葉と考えられる。



第87図　第31号住居跡出土遺物実測図(1)



第88図　第31号住居跡出土遺物実測図(2)

第31号住居跡出土遺物観察表（第87・88図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
248	土師器	甕	[22.8]	(19.3)	－	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁横ナデ，体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	20%
250	土師器	甕	[25.2]	(9.3)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁横ナデ，体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	10%
253	須恵器	甕	－	(15.5)	[15.4]	雲母・長石・石英	浅黄	良好	体部外面斜位の平行叩き，外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ，当て具痕	覆土上層	30%
254	須恵器	鉢	－	(14.4)	[19.8]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面斜位の平行叩き，外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ，当て具痕	覆土中層	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M36	鞍具	5.1	3.2	0.4	7.7	鉄	断面円形のU字状の基部に両側から突起	覆土下層	PL60

第33号住居跡（第89図）

位置　調査区の東部のＤ４e5区に位置し，東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係　北東コーナー部付近を第２号溝に，東部を第31・54号土坑に，南東コーナー部付近を第46号土坑にいずれも掘り込まれている。また，第32号住居跡の南部を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.57m，短軸2.78mの長方形で，主軸方向はＮ－90°－Ｅである。壁高は12～25cmで，東壁を除く確認された各壁は，いずれも緩やかに立ち上がっている。

床　南東コーナー部付近がやや低くなるが，中央部から西部は平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は，確認できなかった。

竈　確認できなかった。北壁に付設されている様子はなく，東壁に付設されていたものと推測される。

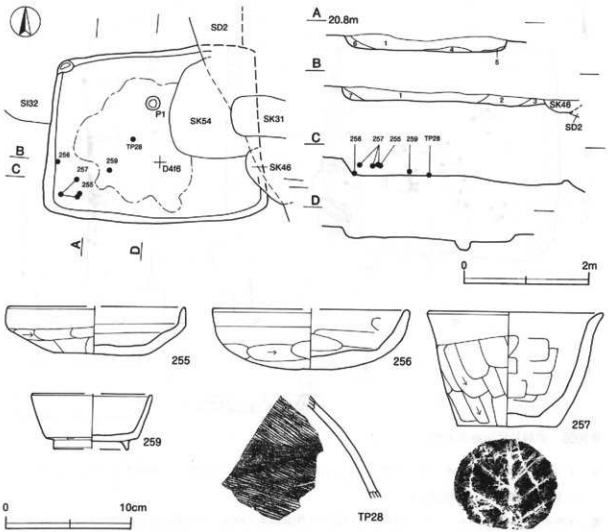
ピット　１か所。主柱穴は，精査したが確認できなかった。Ｐ１は深さ17cmのピットで，性格は不明である。

覆土　７層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
2　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック微量
7　暗　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片124点，須恵器片11点が，西部を中心に散在して出土している。多くの遺物は，覆土下層から出土している。257の土師器小形鉢は，南西コーナー部付近の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉から中葉と考えられる。



第89図　第33号住居跡・出土遺物実測図

第33号住居跡出土遺物観察表（第89図）

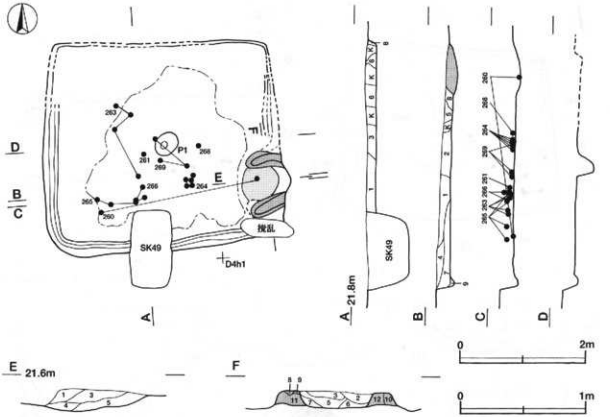
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
255	土師器	坏	[14.2]	3.9	7.1	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口縁・内面横ナデ，体部外面ヘラ削り	覆土中層	50%
256	土師器	坏	[15.6]	4.8	－	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	覆土下層	30%
257	土師器	鉢	14.1	9.3	8.0	長石・石英・赤色粒子	黒・にぶい赤褐	普通	口縁横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	覆土中層	90%，PL46
259	須恵器	高台付坏	[9.5]	4.4	[5.8]	雲母・長石・石英	浅黄	良好	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け	覆土下層	30%
TP28	須恵器	甕	－	(8.0)	－	雲母・長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面斜位の平行叩き後ヘラ削り，内面ナデ	覆土下層	

第34号住居跡（第90図）

位置　調査区の中央部のＤ３g0区に位置し，平担な台地の東端部に立地している。

重複関係　南部の中央を第49号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.76m，短軸3.43mの方形で，主軸方向はＮ－88°－Ｅである。壁高は13～22cmで，西壁は外傾して立ち上がり，他の壁は緩やかに立ち上がっている。



第90図　第34号住居跡実測図

床　平坦で，中央部から南壁にかけて踏み固められている。壁溝は，南壁際から西壁際の中央付近まで巡っており，東壁際中央にも一部確認された。

竈　東壁の南側に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで88cm，両袖部幅123cmである。袖部は，砂質粘土で構築されている。火床面は，床面を10cmほど掘り下げた平坦面を使用している。火熱により赤変しているが，硬化した面は確認できなかった。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は12層からなり，第1～7層が竈内の覆土，第8～12層が袖部の土層である。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
2　極暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子少量
3　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
4　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
5　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
6　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
7　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
8　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
9　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・粘土粒子微量
10　にぶい褐色　粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
11　灰　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　灰黄褐色　粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　1か所。主柱穴は，確認できなかった。P 1は深さ28cmのピットで，性格は不明である。

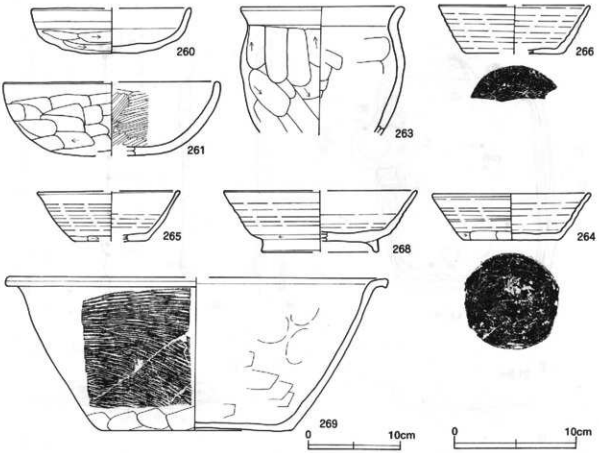
覆土　9層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1　極暗褐色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量
8　暗　褐　色　ローム粒子中量，砂粒少量
9　暗　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片154点（坏13，甕141），須恵器片40点が，中央部から集中して出土している。多くの遺物は，覆土下層から出土している。265・266の土師器坏は，南西部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第91図　第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表（第91図）

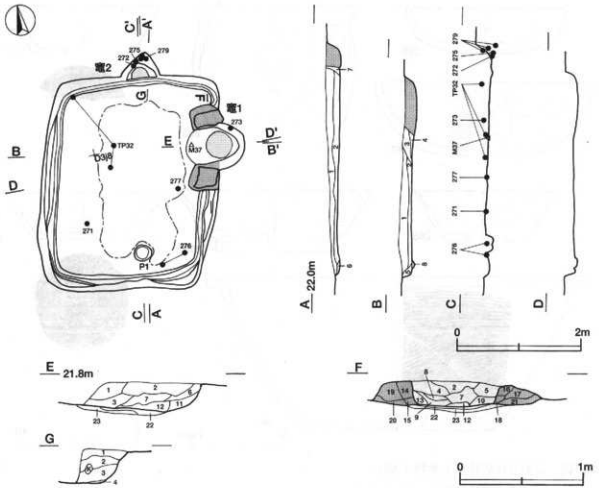
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
260	土師器	坏	[13.0]	3.7	－	長石・石英	明褐	普通	口縁・体部内面横ナデ，外面ヘラ削り	覆土下層	50%
261	土師器	坏	[17.6]	(6.0)	－	長石・石英	橙	普通	口縁横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	覆土下層	40%
263	土師器	小形甕	13.3	(10.4)	－	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	覆土下層	40%
264	須恵器	坏	12.8	3.8	7.8	雲母・長石・石英	灰黄	良好	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	80%，PL46
265	須恵器	坏	[11.7]	4.1	[5.9]	長石	灰黄	良好	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	70%，PL46
266	須恵器	坏	[12.6]	3.9	[7.8]	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	底部多方向のヘラ削り	覆土下層	30%
268	須恵器	高台付坏	[15.8]	5.0	[9.4]	雲母・長石	灰	良好	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け	覆土下層	30%
269	須恵器	鉢	[41.0]	16.7	20.0	雲母・長石・石英	黒褐	良好	体部外面斜位の平行叩き，外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ，当て具痕	覆土下層	30%

第35号住居跡（第92図）

位置　調査区の南部のＤ３j8区に位置し，南に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状　長軸3.47ｍ，短軸2.85ｍの長方形で，主軸方向はＮ－97°－Ｅである。壁高は6～10cmで，北壁・東壁は外傾して立ち上がり，南壁・西壁は緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。壁溝は，全周している。



第92図　第35号住居跡実測図

竈　2か所。竈1は，東壁の北側に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで95cm，両袖部幅137cmである。袖部は，粘土混じりのローム土で構築されている。火床面は，床面をやや掘り下げた平坦面を使用し，火熱により赤変している。煙道は，火床面から外傾して立ち上がっている。煙道部から273の土師器甕が出土している。竈1は23層からなり，第1～13層が竈内の覆土，第14～21層が袖部の土層で，第22・23層は竈の掘り方の埋土である。竈2は竈1の西側である北壁の中央部に付設され，火床面と煙道部だけが遺存している。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用している。火熱により赤変しているが，硬化した面は確認できなかった。壁外への掘り込みは38cmで，幅は64cmである。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。煙道部からは，逆位の272の土師器甕の上に279の須恵器甑が逆位で重ねられ，更に275の須恵器坏が逆位で重ねられて出土している。何らかの意図をもって，竈の廃絶時に置かれたものと考えられる。竈2の煙道部は4層からなる。竈1は完存し，竈2は煙道部だけが残存していることから，竈2から竈1へ作り替えられたことが考えられる。

竈1土層解説

1	暗　褐　色	ローム粒子・粘土粒子微量	
2	褐　　色	粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	
3	暗　褐　色	焼土粒子少量，炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	
4	暗　褐　色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	
5	暗　褐　色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	
6	黒　褐　色	焼土粒子少量，炭化粒子・ローム粒子微量	
7	褐　　色	焼土ブロック少量，炭化粒子微量	
8	暗　褐　色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	
9	暗　赤　褐　色	焼土ブロック・炭化粒子微量	
10	にぶい赤褐色	焼土粒子少量，炭化粒子微量	
11	黒　褐　色	焼土粒子少量，炭化粒子微量	
12	暗　褐　色	焼土粒子少量，炭化粒子微量	
13	黒　褐　色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	
14	暗　褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	
15	暗　褐　色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・砂粒微量	
16	暗　褐　色	ローム粒子中量，粘土粒子・砂粒少量	

17 暗　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量
18 暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量
19 灰　褐　色　粘土ブロック・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量

竈2土層解説
1 極 暗 褐 色　炭化物・焼土粒子・ローム粒子少量
2 にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子・灰少量
20 灰　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
21 暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量
22 極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
23 暗　褐　色　ローム粒子中量，粘土粒子・砂粒微量
3 暗 赤 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子少量
4 極暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量

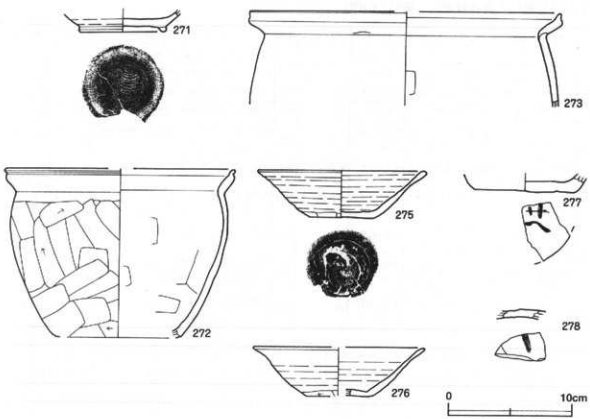
ピット　1か所。主柱穴は，確認できなかった。P 1は竈2と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土　8層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

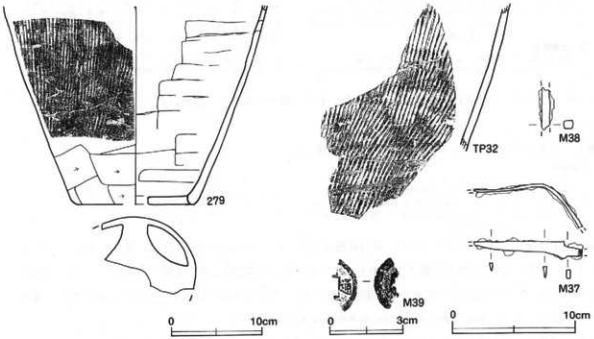
土層解説
1 極 暗 褐 色　炭化物・焼土粒子・ローム粒子少量
2 極 暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子少量
3 暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
4 暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
5 褐　色　ロームブロック少量
6 極 暗 褐 色　炭化粒子・ローム粒子・砂粒少量
7 極 暗 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
8 褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片246点（坏21，高台付椀1，甕224），須恵器片74点（坏44，甕29，甑1），刀子1点，釘1点，古銭1点が，全域から散在して出土している。多くの遺物は，覆土下層から出土している。276の須恵器坏は南東コーナー部付近の床面から，墨書土器である277の須恵器坏は竈1の右袖の西側の覆土下層から出土している。また，墨書土器である278の須恵器坏が覆土中から出土している。

所見　本跡は，竈を作り替えた住居である。時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第93図　第35号住居跡出土遺物実測図(1)



第94図　第35号住居跡出土遺物実測図(2)

第35号住居跡出土遺物観察表（第93・94図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
271	土師器	高台付椀	－	(1.8)	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後回転ヘラ削り，その後高台貼り付け，体部内面ヘラ磨き	覆土下層	30%
272	土師器	小形甕	[18.8]	13.8	[10.0]	長石・石英	橙	普通	口縁横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	竈覆土下層	20%
273	土師器	甕	[25.2]	(7.6)	－	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁横ナデ，体部内面ヘラナデ	竈覆土下層	5%
275	須恵器	坏	13.6	3.9	5.2	雲母・長石・石英	灰黄	良好	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	竈 2 覆土下層	90%，PL46
276	須恵器	坏	[14.0]	4.0	[5.0]	長石・石英	灰黄	良好	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	床面	30%
277	須恵器	坏	－	(1.5)	[8.4]	長石・石英	灰黄褐	良好	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	覆土下層	10%，底部外面墨書「天」PL56
278	須恵器	坏	－	(0.8)	－	長石・石英	灰	良好	底部一方向のヘラ削り	覆土中	5%，底部内面墨書「□」
279	須恵器	甑	－	(21.6)	[13.6]	雲母・長石・石英	灰	良好	体部外面縦位の平行叩き，外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ，輪積み痕	竈 2 覆土中層	30%
TP32	須恵器	鉢	－	(12.0)	－	雲母・長石・石英	橙	普通	体部外面縦位の平行叩き後ヘラ削り，内面ヘラナデ，当て具痕	覆土上層	

番号	器種	全長	刀身長	身幅	重ね	茎長	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M37	刀子	(8.9)	7.7	1.5	0.3	(1.2)	(9.0)	鉄	切先・茎尻欠損，両関，刃部屈曲	覆土下層	PL61

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M38	釘	(9.1)	0.7	0.7	(7.1)	鉄	断面方形の棒状	覆土中	

番号	銭名	径	孔	厚さ	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M39	不明	[2.4]	0.7	0.1	(1.0)	不明	銅	円体方孔，無背，欠損により残存側の「通」のみ確認	覆土中	

第36号住居跡（第95図）

位置　調査区の南部のD 4 j1区に位置し，東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係　南東コーナー部付近を第50号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸2.66m，短軸2.48mの方形で，主軸方向はN－19°－Wである。壁高は1～5cmで，各壁とも緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。壁溝は，西壁際を除いて巡っている。

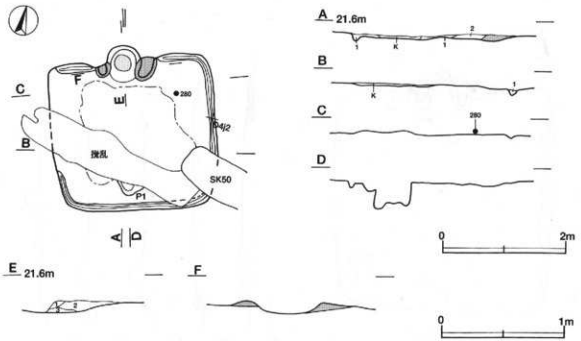
竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで59cm，両袖部幅100cm である。遺存状態が悪く，袖部は粘土混じりのローム土で構築された基部のみが遺存している。火床面は，床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用している。火熱により赤変しているが，硬化した面は確認できなかった。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は3層からなり，いずれも竈内の覆土である。

竈土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
2　暗　赤　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　極暗赤褐色　焼土ブロック微量

ピット　1か所。主柱穴は，確認できなかった。P 1は撹乱を受けているが竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土　2層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

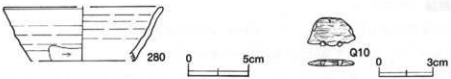
土層解説
1　暗　褐　色　焼土粒子・ローム粒子微量
2　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量



第95図　第36号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片23点，須恵器片6点，釘2点，双孔円板1点が，北東コーナー部付近の覆土下層から出土している。280の須恵器坏は，竈の南東側の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第96図　第36号住居跡出土遺物実測図

第36号住居跡出土遺物観察表（第96図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
280	須恵器	坏	[13.2]	4.5	[8.8]	雲母・長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	30%

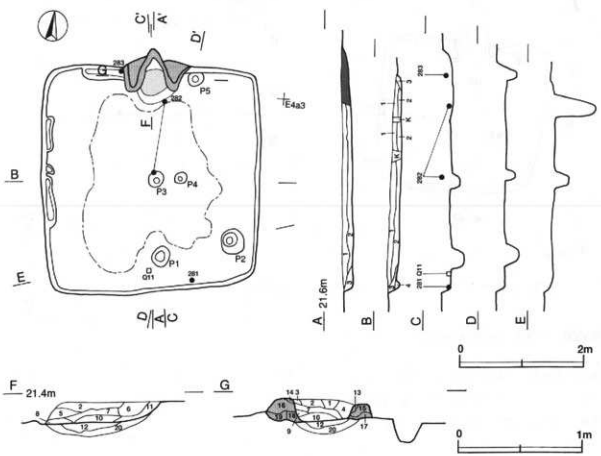
番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q10	双孔円板	2.6	[0.2]	0.3	(2.1)	滑石	孔は一方向から穿孔	覆土中	PL59

第37号住居跡（第97図）

位置　調査区の南部のＥ４a2区に位置し，東に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状　長軸3.76m，短軸3.53mの方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｗである。壁高は８～15cmで，各壁とも緩やかに立ち上がっている。

床　北東コーナー部付近がやや低いが，ほぼ平坦で，南北に長く中央部がよく踏み固められている。壁溝は，西壁の中央部と北壁際の竈の西側にだけ確認されている。



第97図　第37号住居跡実測図

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで141cm，両袖部幅112cmである。袖部は，10cmほど盛り上げたローム土の上に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床面は，床面をやや掘り下げた平坦面を使用し，火熱により赤変している。一部硬化した面も確認できた。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は20層からなり，第1～11層が竈内の覆土，第13～19層が袖部の土層で，第12・20層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1	にぶい褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒微量	11	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	12	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，炭化粒子・ローム粒子微量
3	暗赤褐色	焼土粒子多量	13	にぶい赤褐色	粘土粒子少量，焼土粒子微量
4	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	14	暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
5	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	15	にぶい褐色	粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・ローム粒子微量
6	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	16	にぶい褐色	粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
7	にぶい赤褐色	焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量	17	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
8	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	18	褐色	焼土粒子・ローム粒子微量
9	暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子微量	19	褐色	ロームブロック少量
10	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	20	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量

ピット　5か所。主柱穴は，確認できなかった。P1は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。P2～5は，P1と覆土の色調が違い，しまりが弱いことから住居に伴わないと考えられる。深さはP2が69cmと深いが，他は16～18cmであり，いずれも性格は不明である。

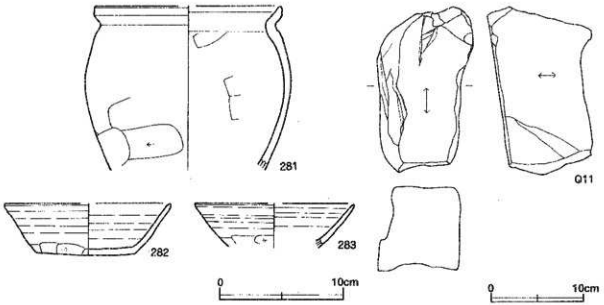
覆土　4層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1	極暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量	3	暗褐色	ローム粒子中量
2	極暗褐色	焼土粒子・ローム粒子少量	4	暗褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片151点，須恵器片49点，砥石1点が，中央部と南壁際から散在して出土している。多くの遺物は，覆土下層から出土している。282の須恵器坏は，竈の南側の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第98図　第37号住居跡出土遺物実測図

第37号住居跡出土遺物観察表（第98図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
281	土師器	小形甕	15.0	(13.3)	－	雲母・長石・石英・砂粒	にぶい褐	普通	口縁部ナデ，体部外面下位ヘラ削り，内面・外面上位ヘラナデ	覆土下層	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
282	須恵器	坏	[13.6]	4.3	8.0	雲母・長石・石英	灰白	普通	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	60%
283	須恵器	坏	[12.8]	(3.6)	－	雲母・長石・石英・赤色粒子	5Yオリーブ	良好	体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q11	砥石	18.2	10.5	11.4	2879.4	砂岩	砥面2面	覆土下層	

第38号住居跡（第99図）

位置　調査区の南部のD4h2区に位置し，東に傾斜する台地の東端部に立地している。

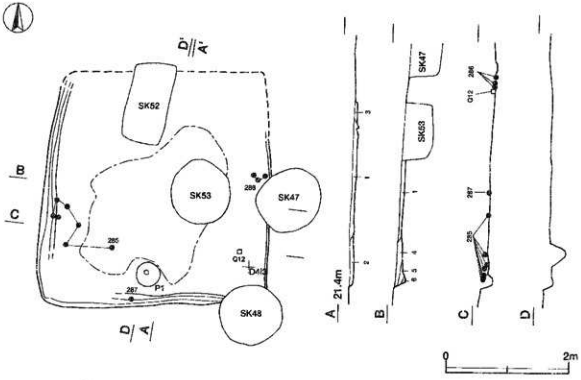
重複関係　北壁中央部を第52号土坑に，中央部を第53号土坑に，東壁中央を第47号土坑に，南東コーナー部を第48号土坑にいずれも掘り込まれている。

規模と形状　北壁が攪乱と削平を受けているため，硬化面の広がりから判断して，N　4″－Wを主軸とする長軸3.83m，短軸3.73mの方形と推定される。攪乱を受けた北壁と重複を受けている東壁では壁の立ち上がりは確認できないが，南壁と西壁の壁高は12cmで，いずれも外傾して立ち上がっている。

床　東端はやや低くなるが，ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。壁溝は，南壁際と西壁際を巡っている。

竈　遺存状態が悪く，確認できなかった。P1の位置から判断して，攪乱を受けた北壁に付設されていたものと推測される。

ピット　1か所。主柱穴は，確認できなかった。P1は南壁際の中央に位置し，出入り口に伴うピットと考えられる。



第99図　第38号住居跡実測図

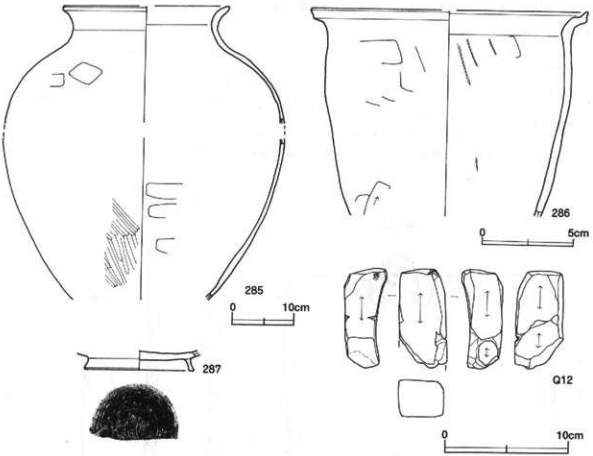
覆土　6層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，砂粒少量，焼土ブロック微量
3　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片99点，須恵器片25点，砥石1点が，南西部に集中して出土している。多くの遺物は，覆土下層から出土している。285の土師器甕は，南西コーナー部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第100図　第38号住居跡出土遺物実測図

第38号住居跡出土遺物観察表（第100図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
285	土師器	甕	[26.8]	[48.1]	－	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁横ナデ，体部外面下位ヘラ磨き，内面・外面上位ヘラナデ	覆土下層	40%
286	土師器	甕	[29.8]	(22.4)	－	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁横ナデ，体部外面下位ヘラ削り，内面・外面上位ヘラナデ	覆土下層	10%
287	須恵器	高台付坏	－	(1.6)	8.8	長石	灰	良好	底部回転糸切り後回転ヘラ削り，その後高台貼り付け	覆土下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q12	砥石	(8.0)	4.0	3.5	(133.3)	凝灰岩	砥面4面	覆土下層	

第39号住居跡（第101図）

位置　調査区の南部のＥ３b7区に位置し，南に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状　長軸4.26m，短軸3.58mの長方形で，主軸方向はＮ－８°－Ｅである。壁高は８～16cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

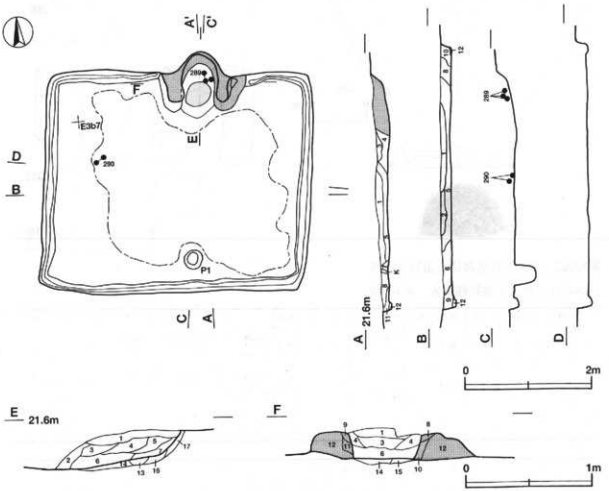
床　平坦で，西壁際と北東コーナー部付近を除いて全面が踏み固められている。壁溝は，全周している。

竈　北壁中央部のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで102cm，両袖部幅143cmである。袖部は，砂質粘土で構築されている。火床面は，床面とほぼ同じ高さに粘土を貼った平坦面を使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は17層からなり，第１～７層が竈内の覆土，第８～12層が袖部の土層で，第13～17層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1	暗　褐　色	ローム ブロック少量	
2	暗　褐　色	ローム ブロック・焼土粒子少量	
3	灰　黄　褐　色	焼土粒子多量，ローム粒子・砂粒中量	
4	極 暗 褐 色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量	
5	暗　赤　褐　色	粘土ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量	
6	暗　赤　褐　色	焼土ブロック中量，ローム粒子少量	
7	極暗赤褐色	粘土粒子・砂粒中量，焼土ブロック・ローム粒子少量	
8	暗　褐　色	ローム粒子中量，粘土粒子・砂粒少量	
9	にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量，砂粒微量	
10	暗　赤　褐　色	焼土ブロック中量，粘土粒子・砂粒少量	
11	暗　赤　褐　色	焼土ブロック中量，炭化粒子少量，粘土粒子微量	
12	にぶい黄褐色	粘土粒子多量，砂粒中量	
13	にぶい褐色	粘土ブロック少量，焼土粒子微量	
14	にぶい赤褐色	焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量	
15	暗　赤　褐　色	焼土ブロック少量	
16	黒　褐　色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	
17	褐　色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	

ピット　１か所。主柱穴は，確認できなかった。Ｐ１は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。



第101図　第39号住居跡実測図

覆土　12層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1	暗　褐	色	ロ・ムブロック・焼土粒子微量
2	褐	色	ロ・ムブロック少量
3	暗　褐	色	粘土ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子微量
4	暗　褐	色	ロ・ムブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒　褐	色	ロ・ムブロック少量，炭化粒子微量
6	褐	色	ロ・ムブロック微量
7	褐	色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
8	褐	色	ロ・ムブロック微量
9	暗	色	ローム粒子少量
10	褐	色	ロ・ムブロック微量
11	褐	色	ロ・ムブロック少量
12	暗　褐	色	ロ・ムブロック少量

遺物出土状況　土師器片24点，須恵器片13点が，西部の覆土下層から点在して出土している。火床面の北端からは，二次焼成を受けて赤変した289の須恵器坏が正位で出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第102図　第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表（第102図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
289	須恵器	坏	13.6	4.3	8.4	雲母・長石・石英	浅黄	不良	底部：方向のヘラ切り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	90%，PL47
290	須恵器	坏	13.3	4.3	7.0	雲母・長石・石英	灰白	良好	底部：一方向のヘラ削り	覆土下層	80%，PL47

第41号住居跡（第103図）

位置　調査区の東部のＣ４16区に位置し，東に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状　長軸3.79m，短軸3.53mの不整方形で，主軸方向はＮ－９°－Ｅである。壁高は27～55cmで，各壁ともほぼ直立している。

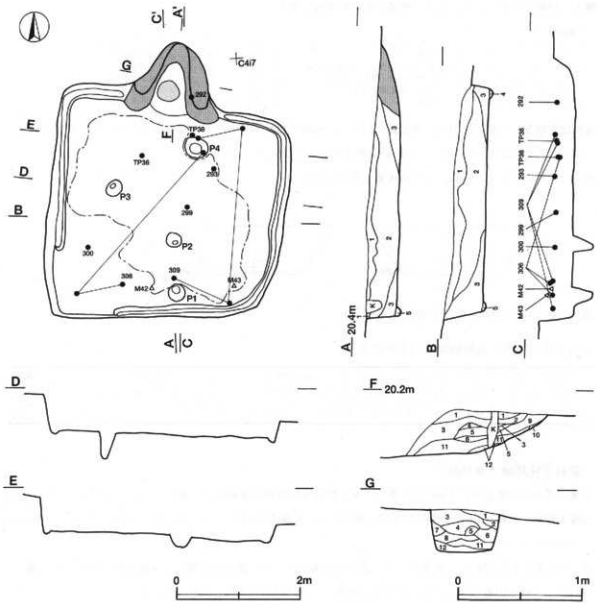
床　東に緩やかに傾斜し，北東コーナー部付近と南西コーナー部付近を除いて全面が踏み固められ，竈の南側は特によく踏み固められている。壁溝は，南西コーナー部付近を除いて巡っている。

竈　北壁中央部のやや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで115cm，両袖部幅157cmである。袖部は，粘土混じりのロ・ム土で構築されている。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は12層からなり，いずれも竈内の覆土である。

竈土層解説

1	褐	色	焼土粒子・ローム粒子微量
2	暗　褐	色	焼土粒子・粘土粒子微量
3	褐	色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
4	褐	色	焼土ブロック・ロームブロック・炭化粒子微量
5	褐	色	焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
6	暗　褐	色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
7	にぶい赤褐色		焼土ブロック・炭化粒子少量，ロ・ムブロック微量
8	褐	色	粘土ブロック中量，焼土ブロック・ロ・ム粒子・砂粒少量
9	暗　褐	色	焼土粒子少量，炭化粒子・ローム粒子微量
10	暗　褐	色	焼土粒子・ローム粒子微量
11	にぶい赤褐色		焼土ブロック・炭化粒子微量
12	にぶい赤褐色		焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量

ピット　４か所。主柱穴は，確認できなかった。Ｐ１は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。Ｐ２～４は，深さが23～36cmのピットで，性格は不明である。



第103図　第41号住居跡実測図

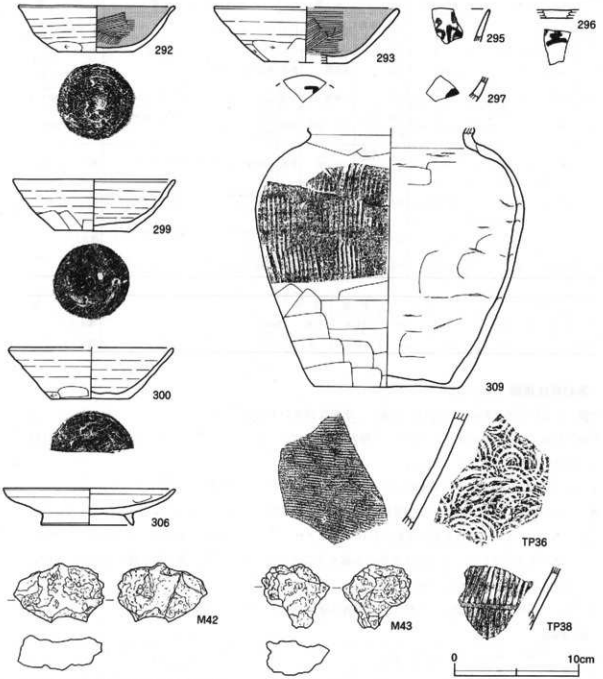
覆土　5層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1	黒　褐	色	焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量	4	褐	色	ロームブロック微量
2	暗　褐	色	炭化粒子少量，焼土ブロック・ロームブロック微量	5	暗　褐	色	ロームブロック微量
3	極 暗 褐	色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量				

遺物出土状況　土師器片573点（坏88，高台付椀1，甕484），須恵器片393点（坏178，高台付皿1，甕212，鉢2），鉄滓2点が，全域から散在して出土している。多くの遺物は，覆土上層から出土している。墨書土器である293の土師器坏は，竈の南側の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第104図　第41号住居跡出土遺物実測図

第41号住居跡出土遺物観察表（第104図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
292	土師器	坏	12.6	3.7	6.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き	覆土中層	90%，PL47
293	土師器	坏	[14.8]	4.5	[6.8]	長石・石英	にぶい橙	普通	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き	覆土中層	30%，底部外面墨書「□」
295	土師器	坏	－	(2.6)	－	長石・石英	橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5%，体部外面墨書「□」

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	成形	手法の特徴	出土位置	備考
296	土師器	坏	－	(0.7)	－	長石・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5%、底部外面墨書[1]
297	土師器	椀	－	(2.0)	－	雲母	淡黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5%、体部外面墨書[1]
299	須恵器	坏	13.2	4.2	6.1	長石	灰黄褐	普通	底部一方向のヘラ削り、体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	80%、PL47
300	須恵器	坏	(13.4)	4.0	(6.4)	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部一方向のヘラ削り、体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	30%
306	須恵器	高台付皿	13.8	2.9	7.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	覆土上層	70%、PL47
309	須恵器	甕	－	(21.2)	11.6	長石・石英	灰	良好	体部外面縦位の平行叩き、外面下位ヘラ削り、内面ヘラナデ、当て具痕、輪積み痕	覆土中層	50%
TP38	須恵器	甕	－	(9.5)	－	長石・石英	灰黄	良好	体部外面横位の平行叩き、内面同心円の当て具痕	覆土中層	
TP38	須恵器	甕	－	(5.1)	－	雲母・長石・石英	黄灰	普通	体部外面縦位の平行叩き、内面当て具痕	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M42	鉄滓	4.8	7.3	2.8	135.0	鉄	椀形滓	覆土中層	
M43	鉄滓	5.2	5.6	2.7	65.2	鉄	椀形滓	覆土中層	

第43号住居跡（第105図）

位置　調査区の中央部のＣ３d9区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

規模と形状　一辺3.62mほどの方形で，主軸方向はＮ－15°－Ｗである。壁高は20～27cmで，南壁はほぼ直立し，他の壁は外傾して立ち上がっている。

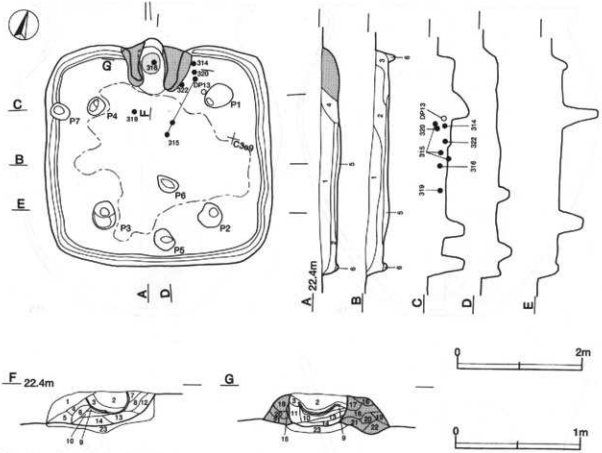
床　ほぼ平坦で，中央部から東壁際にかけて踏み固められている。壁溝は，全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで143cm，両袖部幅105cmである。袖部は，粘土混じりのローム土の上に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床面は，床面よりやや高い平坦面を使用し，火熱により赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。竈土第９層の上面から316の土師器甕が横位で出土しているが，土層の観察から埋没時の混入と思われる。土層は23層からなり，第１～14層が竈内の覆土，第15～22層が袖部の土層で，第23層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1　灰褐色　粘土ブロック少量，焼土粒子・ローム粒子微量
2　にぶい褐色　粘土粒子少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
4　黒色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂土粒子微量
5　明褐色　焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，焼化粒子・粘土粒子微量
7　灰褐色　焼土ブロック・砂土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
8　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
9　灰褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック微量
10　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
11　明褐色　焼土ブロック少量
12　暗褐色　粘土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
13　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
14　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子微量
15　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
16　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
17　暗褐色　ローム粒子・砂粒中量，粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
18　灰黄褐色　砂粒多量，粘土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子微量
19　黒褐色　粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
20　褐色　ローム粒子・砂粒多量，粘土粒子微量
21　極暗赤褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
22　褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
23　極暗赤褐色　焼土ブロック・ロームブロック少量

ピット　７か所。主柱穴は，Ｐ１～４が相当する。深さはＰ２が55cmと深いが，他は30～38cmである。Ｐ５は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。Ｐ６・７は，深さが18cmと35cmのピットで，性格は不明である。



第105図　第43号住居跡実測図

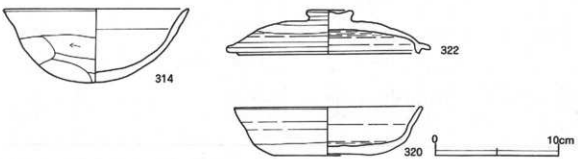
覆土　6層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

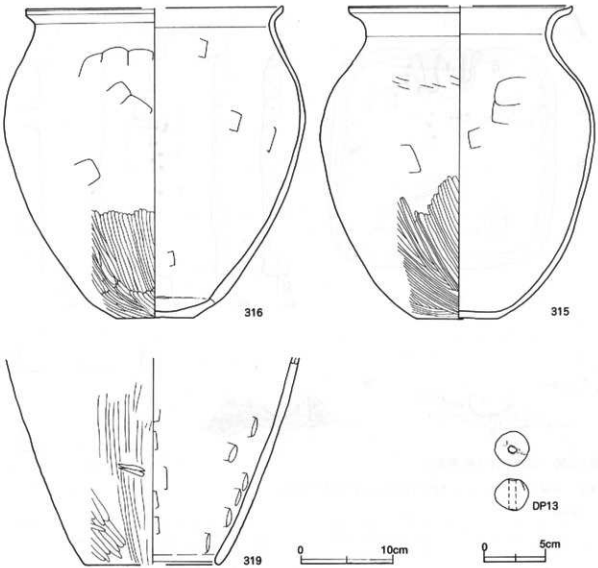
1	黒	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4	黒	褐	色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
2	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
3	暗	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量	6	褐	色	ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片106点，須恵器片3点，土玉1点が，竈の周辺から集中して出土している。多くの遺物は，覆土下層から出土している。322の須恵器蓋は，竈の右袖の南東側の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第106図　第43号住居跡出土遺物実測図(1)



第107図　第43号住居跡出土遺物実測図(2)

第43号住居跡出土遺物観察表（第106・107図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
314	土師器	坏	15.0	6.0	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り，口縁・内面横ナデ	覆土下層	70%，PL47
315	土師器	甕	[24.4]	33.6	9.0	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁横ナデ，体部外面下位ヘラ磨き，外面上位・内面ヘラナデ	覆土下層	60%，PL47
316	土師器	甕	[27.8]	33.5	8.4	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁横ナデ，体部外面下位ヘラ磨き，外面上位・内面ヘラナデ	覆土上層 覆土中層	50%
319	土師器	甑	－	(16.6)	[11.0]	雲母・長石・石英	褐	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	覆土中層	20%
320	須恵器	坏	15.5	3.9	8.0	雲母・長石・石英	灰黄	良好	底部回転ヘラ削り	覆土中層	60%，PL47
322	須恵器	蓋	16.7	3.5	－	雲母・長石・石英	黄灰	普通	天井部右回りの回転ヘラ削り	覆土下層	95%，PL47

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP13	土玉	2.6	2.8	0.8	15.8	土製	孔から体部上位にかけて擦痕，断面円形	覆土中層	PL59

第44号住居跡（第108図）

位置　調査区の東部のＣ４d7区に位置し，東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係　全面を第20号住居に掘り込まれている。

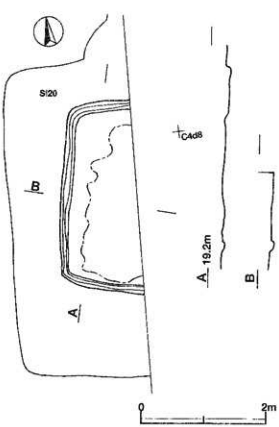
規模と形状　東側部分が調査区域外に延びているため，南北軸3.10m，東西軸1.30mだけが確認された。全面が第20号住居跡と重複しているため，壁溝から判断して，Ｎ－10°－Ｅを主軸とする方形または長方形と推定される。壁の立ち上がりは確認できなかった。

床　ほぼ平坦で北西コーナー部付近と西壁際を除いて全面がよく踏み固められている。壁溝は，住居の範囲が確認された北壁中央から南壁中央にかけて周回している。

壁　北壁または東壁に付設されていたと考えられるが，調査区域外のため不明である。

ピット　確認されなかった。

覆土　確認されなかった。



第108図　第44号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片24点，須恵器片１点が出土している。小片のため，図示することができなかった。

所見　時期は，９世紀後葉と推定される第20号住居跡との重複関係や出土土器片から８世紀代の可能性が考えられる。

第45号住居跡（第109図）

位置　調査区の東部のＣ４f7区に位置し，東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係　第18号掘立柱建物跡のＰ２・３を掘り込んでいる。

規模と形状　東側部分が調査区域外に延びているため，南北軸5.00m，東西軸0.82mだけが確認された。形状は方形または長方形と推定され，主軸方向はＮ－２°－Ｅである。壁高は，51～54cmで，各壁ともほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，南西コーナー部付近と北寄りの西壁際が踏み固められている。壁溝は，確認された壁際を周回している。

壁　北壁または東壁に付設されていると考えられるが，調査区域外のため不明である。

ピット　確認できなかった。

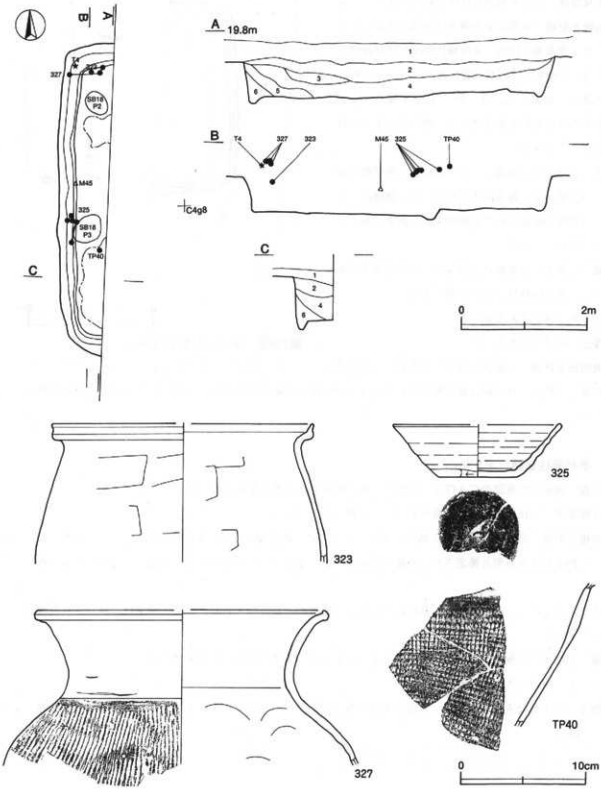
覆土　第１層は表土で，第２～６層が本跡の覆土である。５層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム・ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量
3　黒　褐　色　ローム・ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　暗　色　ローム・ブロック多量，焼土・ブロック・炭化粒子少量
5　黒　褐　色　ローム・ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ローム・ブロック中量，焼土・ブロック・炭化粒子少量

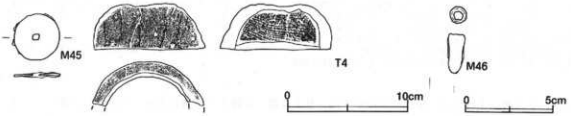
遺物出土状況　土師器片159点（坏17，甕142），須恵器片54点（坏34，甕20），瓦１点，鉄製紡錘車１点，不明鉄製品１点が，西壁際中央部から集中して出土している。多くの遺物は，覆土上層から出土している。325の須

恵器坏は，西壁際の中央の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉と考えられる。



第109図　第45号住居跡・出土遺物実測図



第110図　第45号住居跡出土遺物実測図

第45号住居跡出土遺物観察表（第109・110図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
323	土師器	甕	[21.0]	(11.2)	－	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁横ナデ，体部内・外面ヘラナデ	覆土中層	5%
325	須恵器	坏	[13.4]	4.3	6.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	黒	良好	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	50%
327	須恵器	甕	[23.0]	(12.3)	－	雲母・長石・石英・赤色粒子	暗灰黄	良好	体部外面縦位の平行叩き，内面当て具痕	覆土上層	20%
TP40	須恵器	鉢	－	(11.5)	－	雲母・長石・石英・小礫	灰黄	普通	体部外面格子目の叩き，内面輪積み痕	覆土上層	

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M45	紡錘車	4.0	0.5	0.1	10.6	鉄	円形の中心に方形の孔	覆土中層	PL61

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M46	不明	2.2	1.0	0.3	2.4	鉄	円筒状で下端が尖る	覆土中	PL62
T4	丸瓦	(3.9)	(9.5)	1.3	(64.3)	土製	凸面ヘラ削り，凹面布目痕，一方の先端部残存	覆土上層	PL63

第46号住居跡（第111図）

位置　調査区の中央部のＣ４d2区に位置し，東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係　東部を第１号溝に掘り込まれている。

規模と形状　東部が第１号溝と重複しているため，竈やピットから判断して，Ｎ－２°－Ｅを主軸方向とする長軸4.00m，短軸3.76mの方形と推定される。壁高は43～52cmで，各壁ともほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は，確認された壁際を周回している。

竈　北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで126cm，両袖部幅136cmである。袖部は，砂質粘土で構築されている。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用している。火熱により赤変しているが，硬化した面は確認できなかった。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は26層からなり，第１～14層が竈内の覆土，第15～25層が袖部の土層で，第26層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　灰　褐　色　焼土粒子多量，砂粒中量，ローム粒子少量
3　極暗褐色　ローム粒子・砂粒少量
4　暗　褐　色　砂粒多量，ローム粒子・粘土粒子中量
5　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
6　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・砂粒少量
7　にぶい黄褐色　粘土ブロック・砂粒中量，ローム粒子少量
8　赤　褐　色　焼土ブロック中量
9　にぶい黄褐色　砂粒中量，焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子・小礫少量
10　暗赤褐色　焼土ブロック少量
11　極暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
12　極暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子・ローム粒子少量
13　灰　褐　色　灰中量，焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
14　暗　赤　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量
15　にぶい黄褐色　粘土ブロック・ローム粒子・砂粒中量

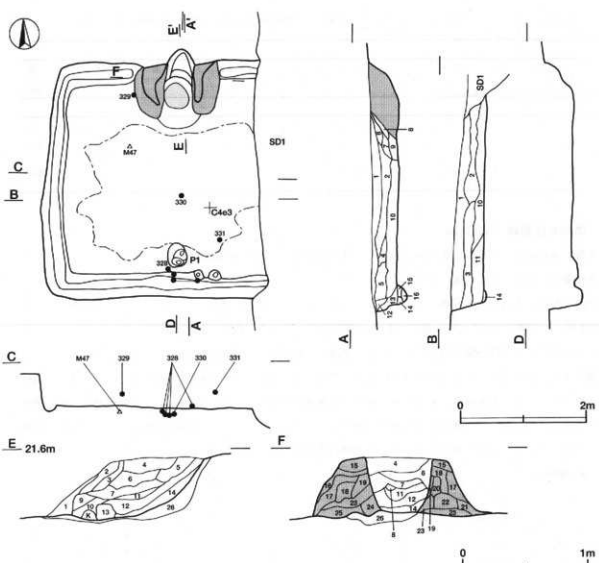
16 暗　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子・砂粒中量，炭化物少量
17 黒　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量
18 にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子中量
19 暗　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子・砂粒中量
20 暗 赤 褐 色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量
21 黒　褐　色　粘土粒子中量，砂粒少量，焼土粒子・ローム粒子微量
22 暗　褐　色　粘土粒子多量，ローム粒子中量，砂粒少量
23 極暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
24 暗　褐　色　ロームブロック中量
25 褐　　色　粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子・砂粒少量
26 極 暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量

ピット　1か所。主柱穴は，確認できなかった。P1は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土　16層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

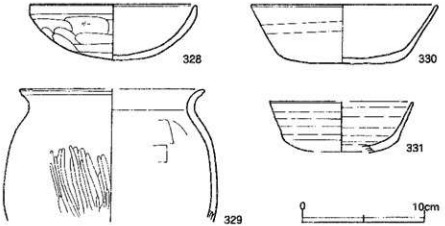
1 黒　褐　色　炭化粒子少量，焼土ブロック・ロームブロック微量
2 黒　褐　色　炭化物・ロームブロック少量，焼土ブロック微量
3 黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土ブロック微量
4 黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
6 暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
7 暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
8 暗　褐　色　炭化物・ロームブロック・粘土ブロック少量
9 黒　褐　色　炭化物・ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
10 黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
11 黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物少量
12 暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
13 褐　　色　炭化粒子少量，ロームブロック・粘土粒子微量
14 極 暗 褐 色　ロームブロック少量
15 暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
16 暗　褐　色　ロームブロック少量



第111図　第46号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片92点，須恵器片９点，刀子１点が，全域から散在して出土している。多くの遺物は，覆土下層から出土している。330の須恵器坏は，中央部の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第112図　第46号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表（第112図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
328	土師器	坏	13.7	4.6	－	雲母・長石・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，口縁・内面横ナデ	床面	60%
329	土師器	小形甕	15.2	(10.9)	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁横ナデ，体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	覆土下層	20%
330	須恵器	坏	15.3	5.0	－	雲母・長石・石英	浅黄	普通	底部回転ヘラ削り	床面	80%，PL47
331	須恵器	坏	(11.8)	(4.1)	－	雲母・長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り	覆土中層	20%

番号	形態	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M47	小刀	(3.1)	1.6	0.2	0.2	(3.1)	鉄	円弧状，外側に一方向から穿孔した孔有	床面	PL62

第47号住居跡（第113図）

位置　調査区の中央部のＣ４j区に位置し，東に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状　長軸3.70m，短軸3.62mの方形で，主軸方向はＮ－30°－Ｗである。壁高は２～18cmで，削平により南壁と東壁では壁の立ち上がりが確認できなかったが，北壁と西壁は外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部から北西コーナー部にかけてよく踏み固められている。壁溝は，南東コーナー部付近と南壁際の中央付近を除いて巡っている。南壁際の中央から焼土が確認された。

竈　北壁中央部のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで93cm，両袖部幅160cmである。袖部は，粘土混じりのローム土の上に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床面は，床面を40cmほど掘り下げた部分に褐色土や粘土を入れて，床面とほぼ同じ高さの平坦面を作りだして使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は28層からなり，第１～12層が竈内の覆土，第13～21層が袖部の土層で，第22～28層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム ブロック・粘土粒子微量
2　暗褐色　砂粒多量，粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量
3　暗赤褐色　砂粒中量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量
4　暗褐色　砂粒多量，粘土ブロック・炭化粒子少量
5　暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子中量，炭化物・砂粒少量

6　暗赤褐色　粘土ブロック・ローム粒子・砂粒中量，炭化物少量
7　暗赤褐色　焼土ブロック・砂粒中量，炭化粒子・ローム粒子少量
8　暗　褐　色　砂粒中量，焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
9　暗　褐　色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
10　暗　褐　色　砂粒中量，焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
11　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子・灰少量
12　暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子・砂粒中量，炭化粒子少量
13　にぶい褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量
14　にぶい褐色　粘土ブロック少量，砂粒微量
15　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量
16　暗　褐　色　炭化物・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
17　灰　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子微量
18　褐　　色　ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
19　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
20　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
21　褐　　色　焼土粒子・ローム粒子微量
22　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
23　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，砂粒微量
24　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，粘土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
25　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
26　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
27　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子微量
28　褐　　色　焼土粒子・ローム粒子微量

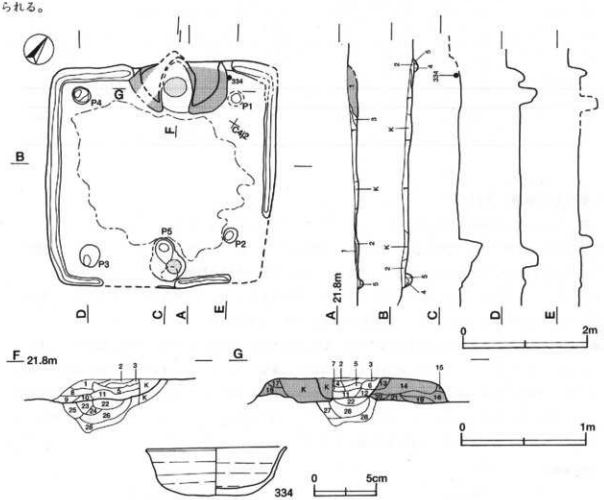
ピット　5か所。主柱穴はP1～4が相当し，深さは20～29cmである。P5は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土　5層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量
3　灰　褐　色　炭化粒子・粘土ブロック少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック微量
5　褐　　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片40点，須恵器片8点が，中央部の覆土下層から点在して出土している。334の須恵器坏は，竈右袖の東側の覆土下層から出土している。

所見　本跡は，床面の焼土などから焼失住居の可能性が考えられる。時期は出土土器から，8世紀前葉と考えられる。



第113図　第47号住居跡・出土遺物実測図

第47号住居跡出土遺物観察表（第113図）

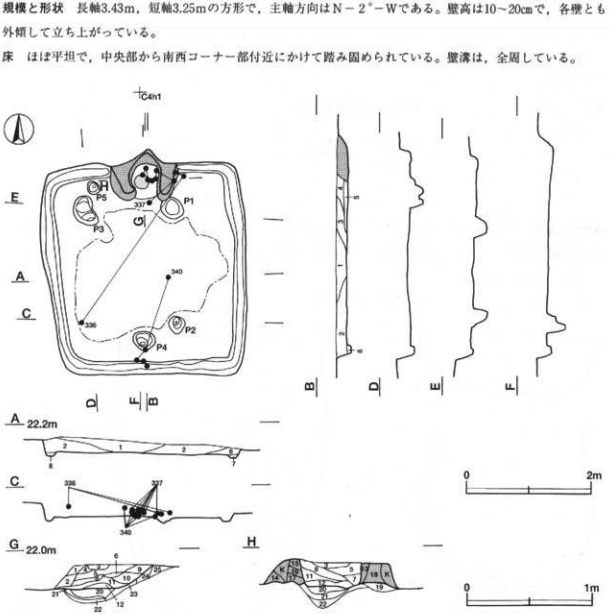
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
334	須恵器	坏	11.3	4.0	4.3	赤母・長石・石英	灰白	良好	底部回転ヘラ削り	覆土下層	60%

第48号住居跡（第114図）

位置　調査区の中央部のＣ３h0区に位置し，東に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状　長軸3.43m，短軸3.25mの方形で，主軸方向はＮ－２°－Ｗである。壁高は10～20cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から南西コーナー部付近にかけて踏み固められている。壁溝は，全周している。



第114図　第48号住居跡実測図

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで75cm，両袖部幅108cmである。袖部は，ローム土混じりの粘土で構築されている。火床面は，床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用している。火熱により赤変しているが，硬化した面は確認できなかった。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は25層からなり，第１～12層が竈内の覆土，第13～18層が袖部の土層で，第19～25層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1 灰 褐 色 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
3 黒 褐 色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
4 にぶい褐色 粘土粒子中量
5 明 赤 褐 色 焼土ブロック中量、粘土粒子微量
6 暗 赤 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量
7 にぶい赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子微量
8 暗 赤 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子微量
9 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
10 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量
11 にぶい赤褐色 焼土粒子微量
12 にぶい赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
13 にぶい赤褐色 焼土粒子少量、粉炭微量
14 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
15 明 褐 色 焼土ブロック・粘土粒子少量
16 灰 褐 色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
17 にぶい褐色 粘土粒子中量、焼土粒子微量
18 にぶい褐色 粘土ブロック中量
19 暗 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
20 暗 赤 褐 色 ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
21 褐 色 焼土粒子・ローム粒子微量
22 暗 褐 色 焼土粒子微量
23 褐 色 ローム ブロック微量
24 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子微量
25 褐 色 ローム粒子少量

ピット　5か所。主柱穴はP１～３が相当し，深さは11～25cmである。南西隅の主柱穴は，確認できなかった。P４は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。P５は，深さ13cmのピットで，性格は不明である。

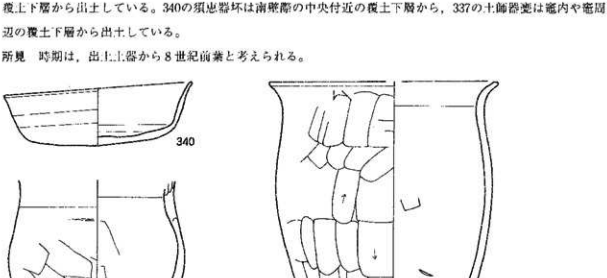
覆土　８層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1 暗 褐 色 ローム ブロック中量，炭化物少量，焼土ブロック微量
2 暗 褐 色 ローム ブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
3 黒 褐 色 ローム ブロック・粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
4 暗 褐 色 粘土ブロック中量，ローム ブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
5 暗 褐 色 ローム ブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，粉炭微量
6 褐 色 ローム ブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
7 褐 色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
8 褐 色 ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片85点，須恵器片６点が，南壁際の中央付近に集中して出土している。多くの遺物は，覆土下層から出土している。340の須恵器坏は南壁際の中央付近の覆土下層から，337の土師器甕は竈内や竈周辺の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第115図　第48号住居跡出土遺物実測図

第48号住居跡出土遺物観察表（第115図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
336	土師器	小形甕	－	(13.0)	7.6	長石・石英	明赤褐	酸化	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	竈　覆土	40%
337	土師器	甕	[25.1]	32.2	[7.4]	長石・石英	灰褐	還元	口縁部ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	竈覆土下層	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
340	須恵器	坏	15.1	5.1	－	雲母・長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り	覆土下層	80%，PL48

第49号住居跡（第116図）

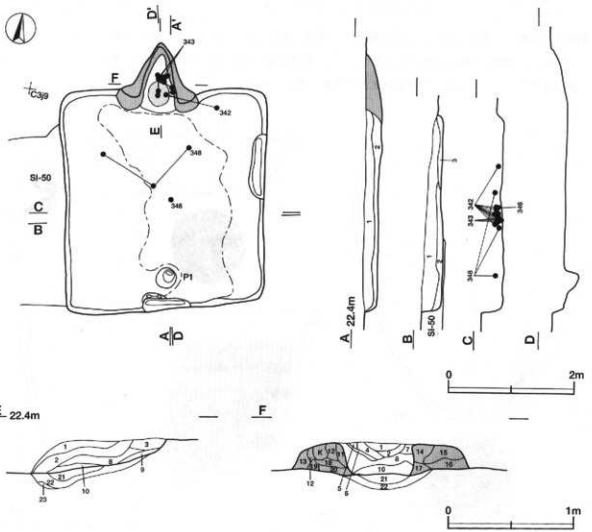
位置　調査区の中央部のＣ３j9区に位置し，東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係　第50号住居跡の東部を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.59m，短軸3.29mの方形で，主軸方向はＮ－８°－Ｗである。壁高は12～34cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，竈の南側から南壁際の東側にかけて中央部が踏み固められている。壁溝は，南壁際中央と東壁際中央にだけ確認できた。

竈　北壁中央部のやや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで106cm，両袖部幅134cmである。袖部は，ローム土の上に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用し，火熱により赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。火床面北端から342の土師器甕が逆位で埋められた状態で，その上に343の須恵器坏が逆位で重ねられた状態で検出され，343の須恵器坏の体部は



第116図　第49号住居跡実測図

二次焼成を受けていることから，これらは支脚に転用されていたと考えられる。しかし，342の土師器甕の破片は竈外や竈埋没時の流入層と思われる土層からも出土しており，竈構築材にも使用されていた可能性が考えられる。土層は23層からなり，第１～10層が竈内の覆土，第11～20層が袖部の土層で，第21～23層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1 暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2 褐　　色　焼土粒子・ローム粒子微量
3 暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
4 灰　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・粘土粒子微量
5 にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
6 暗　褐　色　焼土粒子・ローム粒子微量
7 褐　　色　焼土ブロック少量
8 にぶい赤褐色　焼土粒子微量
9 にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子微量
10 赤　褐　色　焼土ブロック少量
11 にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・粘土粒子微量
12 に ぶ い 褐 色　粘土粒子少量，焼土ブロック・砂粒微量
13 褐　　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
14 にぶい赤褐色　粘土粒子少量，砂粒微量
15 に ぶ い 褐 色　粘土粒子少量，焼土粒子・砂粒微量
16 褐　　色　ロームブロック微量
17 にぶい赤褐色　焼土粒子・ローム粒子微量
18 褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
19 褐　　色　粘土ブロック少量，ローム粒子極微量
20 褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
21 にぶい赤褐色　焼土ブロック少量
22 褐　　色　ロームブロック微量
23 褐　　色　ロームブロック少量

ピット　１か所。主柱穴は，確認できなかった。Ｐ１は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

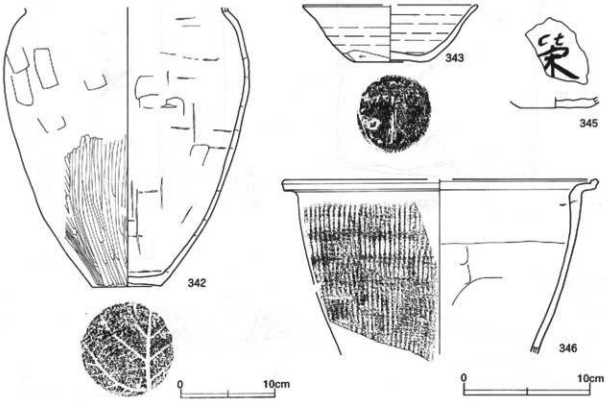
覆土　３層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

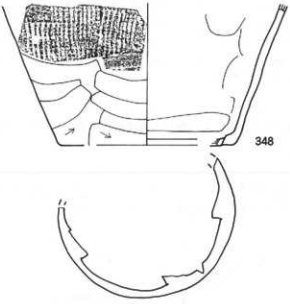
1 暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土ブロック微量
2 褐　　色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
3 褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片125点，須恵器片49点（坏33，甕14，鉢１，甑１）が，北部を中心に散在して出土している。多くの遺物は，覆土下層から出土している。墨書土器である345の須恵器坏は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉から後葉と考えられる。



第117図　第49号住居跡出土遺物実測図(1)



第118図　第49号住居跡出土遺物実測図(2)

第49号住居跡出土遺物観察表（第117・118図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
342	土師器	甕	－	(29.8)	7.3	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面上位ヘラナデ，外面下位ヘラ磨き，内面ヘラナデ，輪積み痕	竈覆土下層	50%
343	須恵器	坏	[12.0]	4.6	5.8	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	竈覆土下層	60%，PL48
345	須恵器	坏	－	(0.8)	[5.6]	雲母・長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	覆土中	10%，底部内面墨書「栄ヵ」PL56
346	須恵器	鉢	[25.0]	(14.1)	－	長石・石英	黄灰	良好	口縁横ナデ，体部外面縦位の平行叩き，内面ヘラナデ，当て具痕	覆土下層	20%
348	須恵器	甕	－	(11.4)	[14.1]	長石・石英	黄灰	良好	体部外面格子目の叩き，外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ，当て具痕	覆土下層	30%

第50号住居跡（第119図）

位置　調査区の中央部のＣ３J9区に位置し，東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係　東部を第49号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸2.72m，短軸2.44mの長方形で，主軸方向はＮ－11°－Ｗである。壁高は２～32cmで，第49号住居跡と重複している東壁は確認できないが，他の壁は外傾して立ち上がっている。

床　南東コーナー部付近が５cmほど下がっているがほぼ平坦で，竈の南側から中央部にかけての東側はよく踏み固められている。壁溝は，確認された壁際を巡っている。

竈　北壁中央部のやや東寄りに付設されている。重複により遺存状態が悪く，火床面と左袖が確認できただけである。左袖部は，粘土混じりのローム土で構築されている。火床面は，床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は，重複により確認できなかった。土層は16層からなり，第１～13層が竈内の覆土，第14～16層が袖部の土層である。

竈土層解説

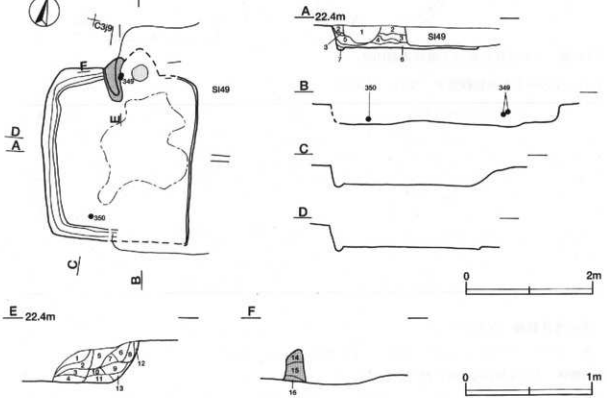
1　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
2　暗　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
3　極暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂粒少量，粘土粒子微量
4　暗　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子・砂粒少量
5　暗　褐　色　砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
6　暗赤褐色　炭化粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子・砂粒微量

7　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
8　暗赤褐色　焼土ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
9　極暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
10　極暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子・砂粒微量
11　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，粘土粒子微量
12　黒褐色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量
13　暗赤褐色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
14　暗褐色　ローム粒子・砂粒中量，粘土粒子少量
15　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・小礫少量
16　暗褐色　粘土粒子中量，ロームブロック・砂粒少量

ピット　主柱穴は，確認できなかった。

覆土　7層からなる。堆積に乱れが見られることから，第1層は人為堆積と考えられるが，第2～7層はレンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐色　ロームブロック中量
5　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
7　褐色　ローム粒子微量



第119図　第50号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片50点，須恵器片4点が，中央部の覆土下層から点在して出土している。350の須恵器甑は，南壁際の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀前葉から中葉と考えられる。

第120図　第50号住居跡出土遺物実測図(1)

第121図　第50号住居跡出土遺物実測図(2)

第50号住居跡出土遺物観察表（第120・121図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
349	土師器	甕	[23.2]	(8.0)	－	雲母・長石・石英	明褐	普通	口縁横ナデ，体部内・外面ヘラナデ	竈覆土中層	5%
350	須恵器	鉢	[28.2]	(8.4)	－	雲母・長石・石英	灰白	良好	体部外面格子目の叩き，内面ヘラナデ	覆土下層	5%

第52号住居跡（第122図）

位置　調査区の中央部のＣ３f8区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

規模と形状　一辺4.53ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－15°－Ｅである。壁高は35～45cmで，各壁ともほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。壁溝は，全周している。北西コーナー部付近に焼土の堆積が見られた。

竈　北壁中央部のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで101cm，両袖部幅106cmである。袖部は，砂質粘土で構築されている。火床面は，床面をやや掘り下げた平坦面を使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は25層からなり，第１～14層が竈内の覆土，第15～19層が袖部の土層で，第20～25層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

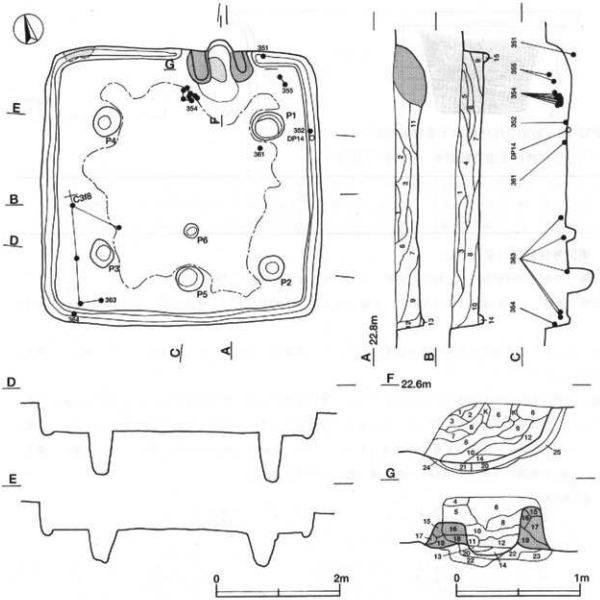
1 黒褐色　炭化粒子少量，焼土粒子・ローム粒子微量
2 暗褐色　粘土粒子多量，砂粒中量，焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
3 極暗褐色　炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土ブロック微量
4 灰褐色　粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
5 灰褐色　粘土ブロック少量，焼土ブロック・砂粒微量
6 暗褐色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・粘土粒子少量
7 黒褐色　焼土ブロック・ロームブロック微量
8 極暗褐色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土ブロック・炭化物微量
9 暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
10 極暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子少量
11 にぶい赤褐色　焼土ブロック少量
12 暗赤褐色　焼土ブロック・灰少量
13 にぶい赤褐色　焼土粒子微量
14 にぶい赤褐色　焼土ブロック少量
15 にぶい黄褐色　砂粒多量，ローム粒子中量，粘土ブロック・焼土粒子少量
16 にぶい黄褐色　砂粒多量，粘土粒子中量
17 暗褐色　粘土粒子多量，ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
18 暗赤褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土ブロック・ローム粒子少量
19 褐色　粘土粒子多量，砂粒中量
20 暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
21 黒褐色　ロームブロック少量
22 極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
23 暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
24 暗褐色　ロームブロック中量
25 暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

ピット　６か所。主柱穴は，Ｐ１～４が相当する。深さは，Ｐ２が80cmと深いが，他は56～70cmの深さである。Ｐ５は竈と対峙する南壁の中央部に位置し，出入り口に伴うピットと考えられる。Ｐ６は深さ18cmのピットで，性格は不明である。

覆土　15層からなる。第１～７層はロームブロックの混入が多く，堆積に乱れが見られることから，人為堆積である。第８層以下はレンズ状に堆積する自然堆積であり，焼土粒子や炭化粒子の混入が見られた。

土層解説

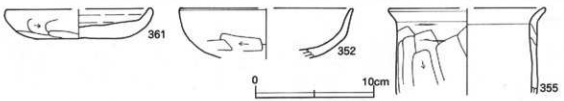
1 黒褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3 黒褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色　焼土ブロック・ロームブロック・炭化粒子少量
6 極暗褐色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子少量
7 極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
8 暗褐色　焼土ブロック・ロームブロック中量，炭化粒子少量
9 黒褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化物微量
10 暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
11 極暗褐色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
12 黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
13 暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14 暗褐色　ロームブロック中量
15 暗褐色　ロームブロック少量



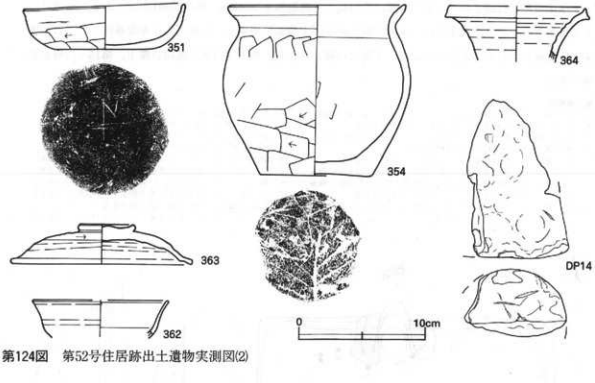
第122図　第52号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片321点（坏55，甕266），須恵器片18点，土製支脚1点が，全域より散在して出土している。全体的に覆土上層からの遺物が多い。363の須恵器蓋・364の須恵器長頸瓶は，南西コーナー部の覆土下層から出土している。

所見　本跡は，焼土の堆積などから焼失住居の可能性が考えられ，焼失後，人為的に埋め戻されたと考えられる。時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第123図　第52号住居跡出土遺物実測図(1)



第124図　第52号住居跡出土遺物実測図(2)

第52号住居跡出土遺物観察表（第123・124図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
351	土師器	坏	13.0	3.7	7.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁・体部内面横ナデ，外面ヘラ削り	床面	70%，底部外面墨書「N++」PL56
352	土師器	坏	[13.8]	(4.0)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁横ナデ，体部外面ヘラ削り	覆土下層	50%
354	土師器	小形甕	14.0	13.7	9.0	長石・石英	橙	普通	口縁横ナデ，体部外面下位ヘラ削り，外面上位・内面ヘラナデ	覆土下層	80%，PL48
355	土師器	小形甕	[13.2]	(7.3)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁横ナデ，体部外面ヘラ削り	覆土中層	30%
361	土師器	坏	[12.2]	2.5	－	雲母・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁・体部内面横ナデ，外面ヘラ削り	覆土下層	20%
362	須恵器	坏	[10.8]	(3.0)	－	雲母・長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中	10%
363	須恵器	蓋	14.6	3.2	－	雲母・長石・石英	灰黄	普通	天井部右回りの回転ヘラ削り	覆土下層	60%，PL48
364	須恵器	長頸瓶	[11.0]	(4.4)	－	長石	灰白	良好	ロクロ整形	覆土下層	5%

番号	機種	長さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP14	支脚	(12.6)	[9.2]	[5.2]	(273.4)	土製	側面ヘラナデ，被熱痕	覆土下層	

第53号住居跡（第125図）

位置　調査区の中央部のＣ３e6区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

重複関係　第54号住居跡の南西部を掘り込んでいる。

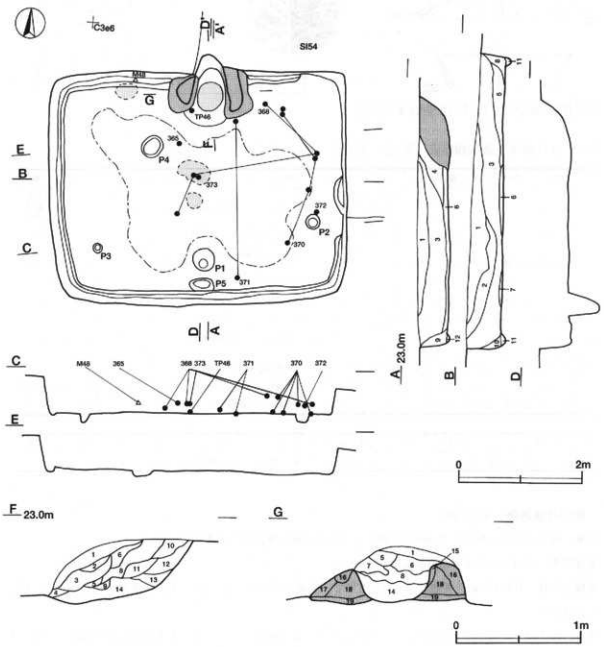
規模と形状　長軸4.78m，短軸3.80mの長方形で，主軸方向はＮ－４°－Ｗである。壁高は40～58cmで，各壁ともほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部と北西コーナー部付近がよく踏み固められている。中央部と北壁際西寄りに焼土の堆積が見られた。壁溝は，第54号住居跡との重複部で確認できなかったが，全周していたものと推測される。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで117cm，両袖部幅139cmである。袖部は，砂質粘土で構築されている。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は19層からなり，第1～14層が竈内の覆土，第15～19層が袖部の土層である。

竈土層解説

1	黒　褐　色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量	
2	灰 黄 褐 色	砂粒多量，ローム粒子・粘土粒子少量	
3	極 暗 褐 色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂粒少量	
4	極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量	
5	暗　褐　色	砂粒多量，ローム粒子・粘土粒子少量	
6	暗　褐　色	砂粒多量，ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量	
7	黒　褐　色	砂粒中量，粘土粒子少量，焼土粒子・ローム粒子微量	
8	暗　褐　色	砂粒多量，ローム粒子・粘土粒子中量	
9	暗　褐　色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土ブロック微量	
10	暗　褐　色	焼土ブロック・粘土粒子微量	
11	にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂粒微量	
12	暗 赤 褐 色	焼土ブロック・砂粒微量	
13	暗 赤 褐 色	焼土ブロック・砂粒微量	
14	暗 赤 褐 色	焼土ブロック中量，炭化粒子・ローム粒子少量	
15	赤　褐　色	焼土粒子多量，砂粒中量，粘土粒子少量	
16	褐　　色	砂粒多量，ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量	
17	黄　褐　色	砂粒多量，焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量	
18	にぶい黄褐色	砂粒多量，粘土粒子中量	
19	暗　褐　色	粘土粒子中量，ロームブロック・砂粒少量	



第125図　第53号住居跡実測図

ピット　5か所。主柱穴は，確認できなかった。Ｐ１は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。Ｐ２～５は深さ10cmほどのピットであり，性格は不明である。

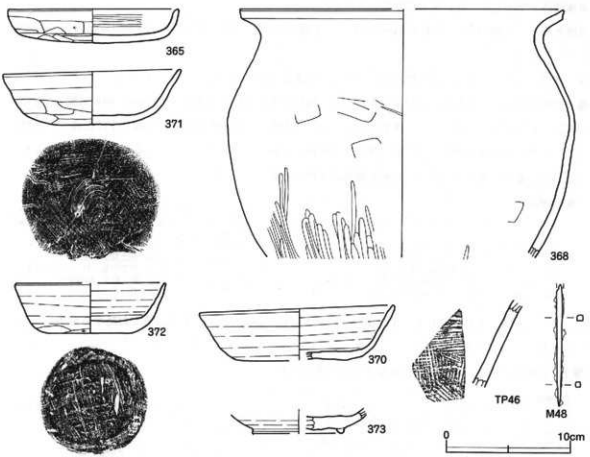
覆土　12層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。第３層と第５層に焼土や炭化物が多く含まれる。

土層解説

1	暗　褐	色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	7	褐	色	ロームブロック微量
2	黒　褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗　褐	色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
3	黒　褐	色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	9	暗　褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量
4	黒　褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐	色	ロームブロック微量
5	暗　褐	色	焼土ブロック・ロームブロック・炭化粒子微量	11	暗　褐	色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
6	黒　褐	色	ロームブロック・焼土粒子微量	12	暗　褐	色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片136点（坏28，甕108），須恵器片27点，釘２点が，東部を中心に散在して出土している。多くの遺物は，覆土下層から出土している。370･372の須恵器坏は，東部の覆土下層から出土している。373の須恵器高台付椀は，中央部の覆土中層から出土しており，湖西産と考えられる。

所見　本跡は，焼土の堆積や覆土への焼土や炭化物の混入の様子から，焼失住居の可能性が考えられる。時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第126図　第53号住居跡出土遺物実測図

第53号住居跡出土遺物観察表（第126図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
365	土師器	坏	18.8	2.8	－	長石・石英	橙	普通	口縁横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	覆土中層	70%
368	土師器	甕	[26.5]	(20.1)	－	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁横ナデ，体部外面上位・内面ヘラナデ，外面下位ヘラ磨き	覆土中層	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
370	須恵器	坏	15.8	4.4	(7.0)	雲母・長石・石英・赤色粒子	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り	覆土下層	70%, PL48
371	土師器	坏	14.3	4.5	3.3	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁・内面横ナデ，底部回転糸切後ヘラ削り	覆土下層	60%, PL48
372	須恵器	坏	(12.1)	4.1	6.4	雲母・長石・石英・赤褐系粒	灰	良好	底部　方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	60%, PL48
373	須恵器	高台付皿	－	(2.1)	(7.4)	緻密	灰黄	良好	底部回転ヘラ切後，高台貼り付け	覆土中層	30%
TP46	須恵器	甕	－	(7.1)	－	雲母・長石・小礫	灰黄褐	普通	体部外面多方向の平行叩き，内面ナデ	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M48	釘	(10.0)	0.5	0.5	(7.1)	鉄	断面方形の棒状，一端が尖る	覆土中層	PL61

第56号住居跡（第127図）

位置　調査区の中央部のＣ３c3区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

重複関係　第55号住居跡の南東部を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸4.80m，短軸4.54mの方形で，主軸方向はＮ－19°－Ｗである。壁高は50cmで，各壁ともほぼ直立している。

床　平坦で，中央部がよく踏み固められている。壁溝は全周している。

竈　北壁中央部のやや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで114cm，両袖部幅123cmである。袖部は，粘土混じりのローム土で構築されている。火床面は，床面から10cmほど掘り下げた高さの平坦面を使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は15層からなり，第１～11層が竈内の覆土で，第12～15層が袖部の土層である。

竈土層解説

1	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量，炭化物・焼土粒子少量
3	極暗褐色	ロームブロック微量
4	暗褐色	ローム粒子中量，粘土粒子・砂粒少量
5	褐色	ローム粒子多量，砂粒少量
6	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
7	極暗赤褐色	炭化粒子中量，焼土粒子・ローム粒子少量
8	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
9	極暗赤褐色	炭化物・焼土粒子少量，ローム粒子微量
10	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
11	赤褐色	焼土ブロック少量
12	にぶい黄褐色	砂粒多量，粘土粒子中量
13	黒褐色	粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子微量
14	暗褐色	粘土粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量
15	黒褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・ローム粒子少量

ピット　５か所。主柱穴はＰ１～４が相当し，深さは41～49cmである。Ｐ５は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

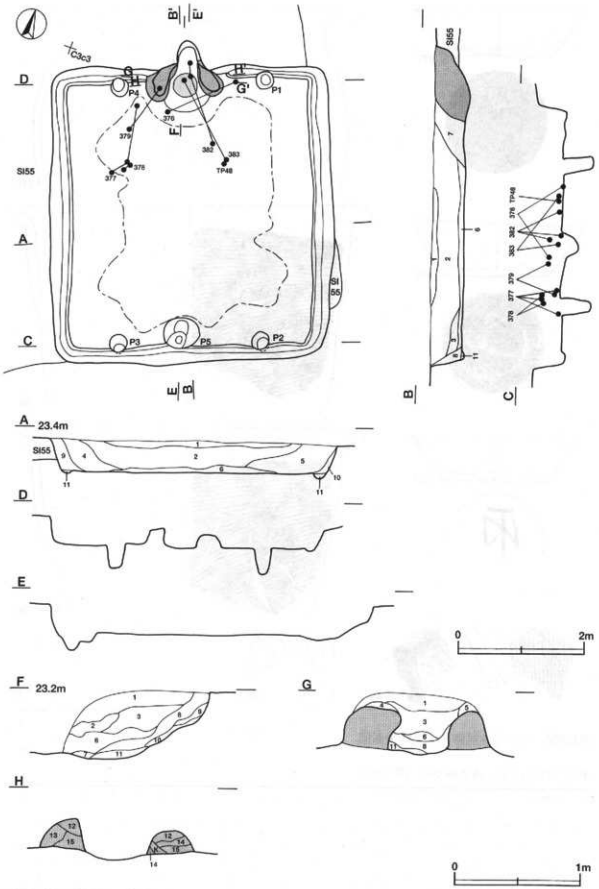
覆土　11層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

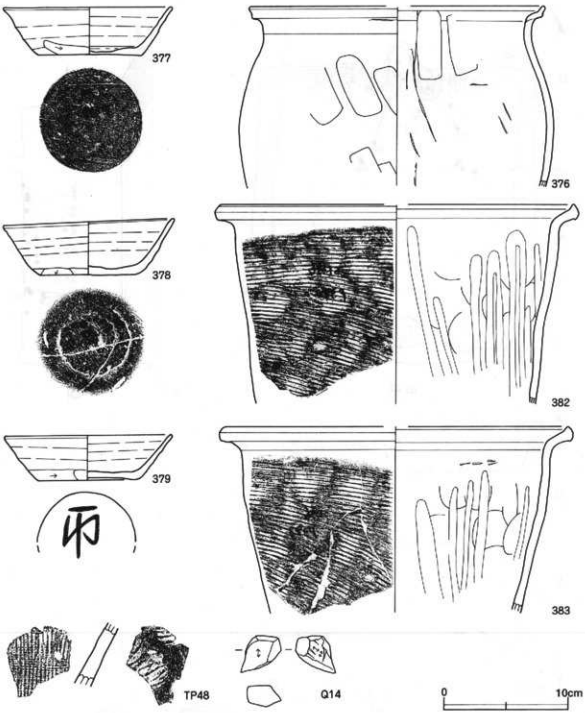
1	暗褐色	炭化物・ロームブロック・焼土粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒褐色	焼土粒子少量，炭化物・ロームブロック微量
6	黒褐色	粘土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
7	暗褐色	焼土ブロック・ロームブロック・炭化粒子微量
8	褐色	ロームブロック微量
9	黒褐色	ロームブロック少量
10	褐色	ロームブロック微量
11	暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片308点（坏36，甕272），須恵器片94点，砥石１点，釘１点が，全域から散在して出土している。多くの遺物が，覆土下層から出土している。帰属土器である379の須恵器坏は，竈左袖付近の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉と考えられる。



第127図　第56号住居跡実測図



第128図　第56号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表（第128図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
376	土師器	甕	[24.0]	(14.5)	－	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁横ナデ，体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	10%
377	須恵器	坏	13.6	3.9	8.4	雲母・長石・石英・赤色粒子	灰黄	良好	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	80%，PL48
378	須恵器	坏	13.8	4.5	7.7	雲母・長石・石英	灰黄	良好	底部一方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	70%，PL48

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
379	須恵器	坏	13.7	3.7	8.0	雲母・長石・石英	灰白	良好	底部二方向のヘラ削り，体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	60%，底部外面墨書「巾」PL56
382	須恵器	瓶	[28.8]	(16.1)	－	長石・石英	灰黄褐	良好	体部外面横位の平行叩き，内面ヘラナデ，当て具痕	覆土下層	30%
383	須恵器	甕	[28.0]	(15.1)	－	雲母・長石・石英	灰黄褐	良好	体部外面横位の平行叩き，内面ヘラナデ，当て具痕，輪積み痕	覆土下層	20%
TP48	須恵器	甕	－	(5.2)	－	長石・小礫	オリーブ黒	良好	体部外面格子目の叩き，内面同心円の当て具痕	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q14	砥石	3.0	3.3	1.7	13.1	凝灰岩	砥面2面，溝状の砥面1か所	覆土中	

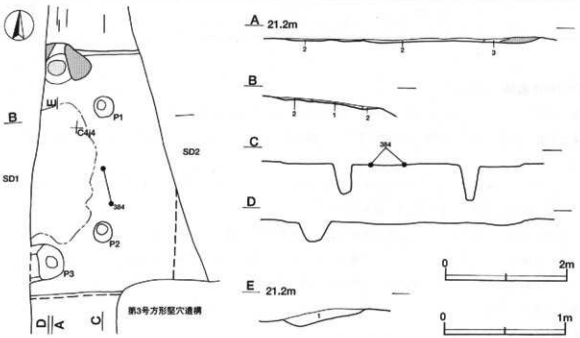
第57号住居跡（第129図）

位置　調査区の東部のＣ４j4区に位置し，東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係　西部を第１号溝に，北東部を第２号溝に，南東コーナー部付近を第３号方形竪穴遺構にいずれも掘り込まれている。

規模と形状　床面まで削平された状態で検出されたため，竈の残存部やピットの位置から判断して，N－6°－Wを主軸とする一辺4.03mほどの方形と推定される。残存する北壁は高さ３cmで，壁は緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。壁溝は，確認できなかった。



第129図　第57号住居跡実測図

竈　北壁に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで70cmである。火床面は，床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し，火熱により赤変している。袖部は遺存状態が悪く，袖部があったと思われる範囲に粘土粒子が散在しているだけである。煙道は緩やかに立ち上がっている。竈内の覆土が１層のみ確認できた。

竈土層解説
1　極暗赤褐色　ローム・ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量

ピット　3か所。主柱穴はP1・2が相当し，深さは52～61cmである。P3は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土　3層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
3　極暗褐色　焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量

遺物出土状況　土師器片271点，須恵器片2点が，中央部の東側から出土している。多くの遺物が覆土中から出土している。384の土師器甕は，東部中央の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第130図　第57号住居跡出土遺物実測図

第57号住居跡出土遺物観察表（第130図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
384	土師器	甕	[21.2]	(8.2)	－	雲母・長石・石英	灰黄褐	普通	口縁横ナデ，体部内・外面ヘラナデ	床　面	15%

第58号住居跡（第131図）

位置　調査区の中央部のD3e3区に位置し，南に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状　長軸3.64m，短軸3.52mの方形で，主軸方向はN－4°－Eである。壁高は12～24cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部と竈の右袖の南側が踏み固められている。北壁の西側の一部は撹乱により確認できなかったが，壁溝は全周していたものと推測される。

竈　北壁中央部に付設されている。遺存状態が悪く，規模は焚口部から煙道部まで82cm，両袖部幅125cmと推測される。袖部は，粘土混じりのローム土で構築されている。火床面は，床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し，火熱により赤変硬化している。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は5層からなり，いずれも竈内の覆土である。

竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼粒少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量，焼土ブロック・焼粒少量，炭化粒子微量
4　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
5　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量

ピット　4か所。主柱穴はP1～3が相当し，深さは19～28cmである。北西隅の主柱穴は，確認されなかった。P4は竈と対峙する位置にあり，出入り口に伴うピットと考えられる。

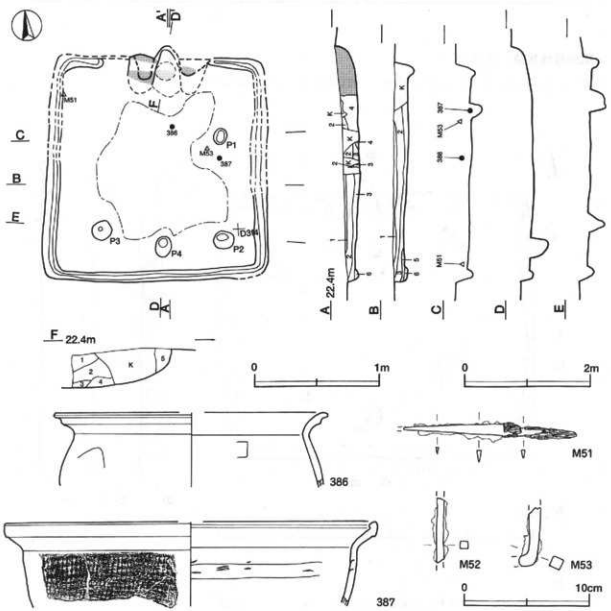
覆土　6層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1	暗　褐	色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	4	暗　褐	色	ロームブロック・焼土粒子微量
2	褐	色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐	色	ローム粒子少量
3	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗　褐	色	ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片112点，須恵器片31点，刀子１点，釘２点が，東部から散在して出土している。多くの遺物は，覆土下層から出土している。387の須恵器鉢は，中央部の東寄りの床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉と考えられる。



第131図　第58号住居跡・出土遺物実測図

第58号住居跡出土遺物観察表（第131図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
386	土師器	甕	[22.0]	(5.8)	－	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	覆土下層	5%

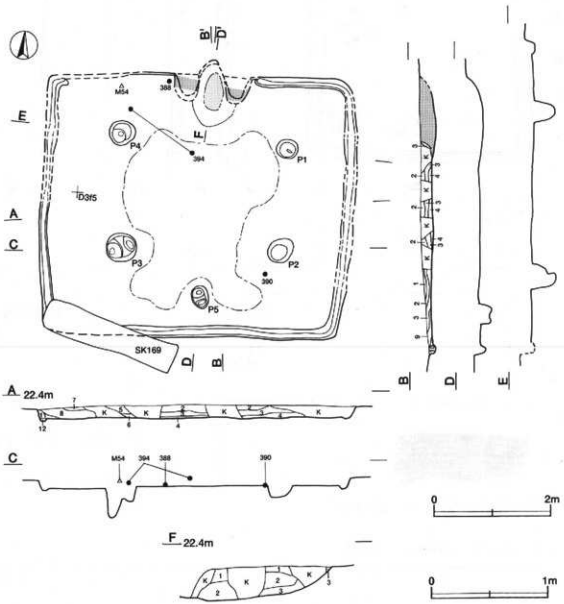
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
387	須恵器	鉢	(29.6)	(6.7)	－	雲母・長石・石英	灰	良好	体部外面格子目の叩き，内面ヘラナデ，編積み痕	床面	5%

番号	器種	全長	刀身長	身幅	重ね	茎長	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M51	刀子	(14.9)	(8.1)	1.0	0.4	5.8	(11.1)	鉄	切先欠損，両関，茎部木質付着	覆土中層	PL61

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M52	釘	(5.2)	0.6	0.6	(11.3)	鉄	断面方形の棒状	覆土中	PL62
M53	釘	(4.6)	0.9	0.9	(13.5)	鉄	断面方形の棒状，脚部がほぼ直角に屈曲	覆土中層	PL62

第59号住居跡（第132図）

位置　調査区の中央部のD３e5区に位置し，南に傾斜する台地の東端部に立地している。



第132図　第59号住居跡実測図